

メンテナンスガイド

NEC Expressサーバ
Express5800シリーズ

Express5800/R120h-1E, R120h-2E (2nd-Gen) N8100-2779Y/2780Y/2781Y/2782Y

1章 保 守

2章 便利な機能

3章 付 録

本製品の説明書

冊子として添付

安全にご利用いただくために	本機を安全に使うために注意すべきことを説明しています。 <u>本機を取り扱う前に必ずお読みください。</u>
スタートアップガイド	本機の開梱から運用までを順を追って説明しています。はじめにこのガイドを参照して、本機の概要を把握してください。

電子版として Web サイト(<https://www.support.nec.co.jp/>) に公開

ユーザーズガイド

1 章 概要	本機の概要、各部の名称、および機能について説明しています。
2 章 準備	オプションの増設、周辺機器との接続、および適切な設置場所について説明しています。
3 章 セットアップ	システムの各種設定と EXPRESSBUILDER の概要について説明しています
4 章 付録	本機の仕様などを記載しています。

インストールガイド (Windows 編)

1 章 Windows のインストール	Windows、ドライバのインストール、およびインストール時に知っていただきたいことについて説明しています。
2 章 バンドルソフトウェアのインストール	ESMPRO など、標準添付されているソフトウェアのインストールについて説明しています。

インストールガイド(Linux 編)

1 章 Linux のインストール	Linux のインストール、およびインストール時に知っていただきたいことについて説明しています。
2 章 ソフトウェアのインストール	ESMPRO など、標準添付されているソフトウェアのインストールについて説明しています。

メンテナンスガイド

1 章 保守	本機の保守とトラブルシューティングについて説明しています。
2 章 便利な機能	便利な機能の紹介、RAID コンフィグレーションユーティリティの詳細について説明しています。
3 章 付録	Windows イベントログなどを記載しています。

メンテナンスガイド (共通編)

1 章 便利な機能	システムユーティリティ、および、EXPRESSBUILDER の詳細について説明しています。
2 章 付録	エラーメッセージを記載しています。

その他の説明書

ESMPRO の操作方法など、詳細な情報を提供しています。

目次

本製品の説明書	2
目次	3
表記	6
安全にかかわる表示について	6
本文中の記号	7
「光ディスクドライブ」の表記	7
「ハードディスクドライブ」の表記	7
オペレーティングシステムの表記(Windows)	8
オペレーティングシステムの表記 (Linux)	9
オペレーティングシステムの表記 (VMware)	9
「POST」の表記	9
「BMC」の表記	9
商標	10
ライセンス通知	11
ライセンス文	11
本書に関する注意と補足	14
製本版と最新版	14
1 章 保 守	15
1. 移動と保管	16
2. 日常の保守	18
2.1 アップデートの確認と適用	18
2.2 アラートの確認	18
2.3 STATUS ランプの確認	19
2.4 バックアップ	19
2.5 クリーニング	19
2.5.1 本機のクリーニング	20
2.5.2 テープドライブのクリーニング	20
2.5.3 キーボード/マウスのクリーニング	20
3. ユーザーサポート	21
3.1 製品の保証	21
3.2 保守サービス	22
3.3 修理に出す前に	22
3.4 修理に出すときは	23
3.5 補修用部品	23
3.6 情報サービス	23
4. 障害情報の採取	24
4.1 イベントログの採取	24
4.1.1 Windows Server 2019	24
4.1.2 Windows Server 2016	26
4.1.3 Windows Server 2012 R2	27
4.2 構成情報の採取	30
4.2.1 Windows Server 2019	30
4.2.2 Windows Server 2016	31
4.2.3 Windows Server 2012 R2	32
4.3 ユーザーモードプロセスダンプの採取	32
4.4 メモリダンプの採取	33

5. トラブルシューティング	34
5.1 電源 ON から POST 終了にかけてのトラブル	34
5.2 EXPRESSBUILDER 起動時のトラブル	36
5.3 Windows インストール時のトラブル	37
5.4 OS 起動時のトラブル	39
5.5 RAID システム運用時のトラブル	40
5.6 内蔵デバイス、その他ハードウェア使用時のトラブル	42
5.7 OS 運用時のトラブル	60
5.8 Starter Pack DVD のトラブル	63
5.9 ソフトウェアのトラブル	64
5.10 光ディスクドライブのトラブル	65
5.11 補足事項	66
6. Windows システムの修復	70
6.1 Windows Server 2019 の修復	70
6.2 Windows Server 2016 / Windows Server 2012 R2 の修復	71
7. リセットとクリア	73
7.1 ソフトリセット	73
7.2 強制電源 OFF	73
7.3 iLO の再起動（リセット）	73
7.4 システム設定情報の初期化	74
7.4.1 システムメンテナンススイッチの機能説明	74
7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順	74
7.4.3 システム設定をデフォルト値に戻す	78
7.4.4 パスワードのクリア	79
2 章 便利な機能	80
1. システムユーティリティ	81
2. RAID システムのコンフィグレーション	82
2.1 HPE Smart Array S100i ユーティリティの起動	82
2.2 HPE Smart Array S100i ユーティリティの終了	85
2.3 HPE Smart Array S100i ユーティリティのメニューツリー	86
2.4 コンフィグレーションユーティリティの操作手順	89
2.4.1 論理ドライブの作成	89
2.4.2 リビルド	91
2.4.3 ホットスペアの作成	92
2.4.4 その他	101
3. EXPRESSBUILDER の詳細	106
4. Starter Pack の詳細	107
5. iLO 5	108
5.1 iLO5 のさまざまな機能	108
5.2 NMI 機能	110
6. ESMPRO	111
6.1 ESMPRO/ServerAgentService (Windows 版)	111
6.2 ESMPRO/ServerAgentService (Linux 版)	111
6.3 ESMPRO/ServerManager	112
7. 装置情報収集ユーティリティ	113
7.1 使用方法(Windows 版)	113
7.2 使用方法(Linux 版)	113
8. Smart Storage Administrator	114
9. エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)	115

10. エクスプレス通報サービス(MG)	116
3章 付 録	117
1. IML エラーメッセージ	118
2. Windows イベントログ一覧	119
3. 電力、温度、プロセッサ利用率のデータへのアクセス方法	135
3.1 Windows	135
3.1.1 消費電力	135
3.1.2 吸気温度	136
3.1.3 プロセッサ使用率	139
3.2 Linux	140
3.2.1 消費電力	140
3.2.2 吸気温度	141
3.2.3 プロセッサ使用率	141
4. 保守サービス会社	142
5. 用語集	143
6. 改版履歴	145

表 記

安全にかかわる表示について

本書では、危険を表す言葉として、以下の「警告」「注意」という用語を使用しています。



人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。

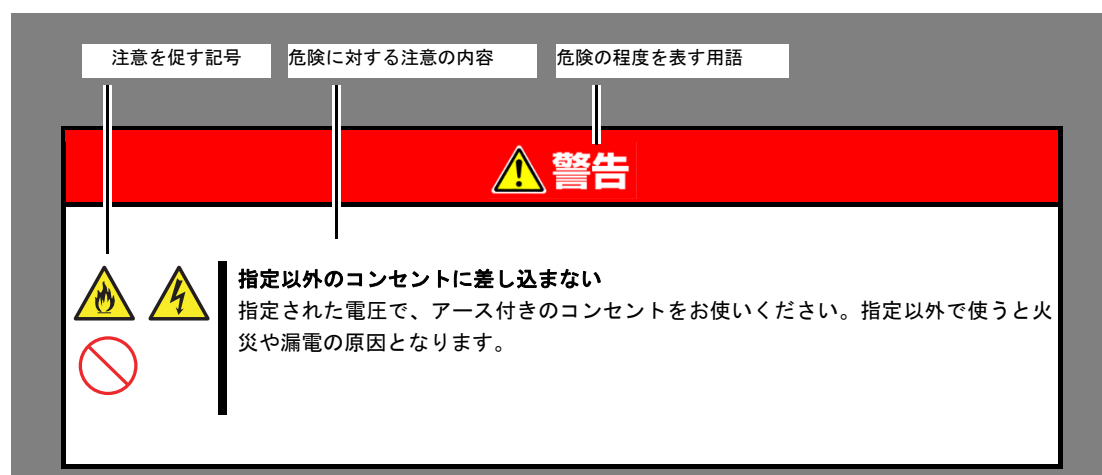


火傷やけが、物的損害などを負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意、表示は次の 3 種類の記号を使っています。それぞれの記号は次のような意味を持ちます。

	注意の喚起	この記号は危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(例)  (感電注意)
	行為の禁止	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例)  (分解禁止)
	行為の強制	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例)  (電源プラグを抜け)

(表示例)



本文中の記号

本書では安全にかかわる注意記号のほかに 3 種類の記号を使用しています。これらの記号は、次のような意味をもちます。

	ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、守らなければならないことについて示しています。記載の手順に従わないときは、ハードウェアの故障、データの損失など、 <u>重大な不具合が起きるおそれがあります。</u>
	ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、確認しておかなければならないことについて示しています。
	知っておくと役に立つ情報、便利なことについて示しています。

「光ディスクドライブ」の表記

本機は、購入時のオーダーによって以下のいずれかのドライブを装備できます。本書では、これらのドライブを「光ディスクドライブ」と記載しています。

- DVD-ROM ドライブ
- DVD Super MULTI ドライブ

「ハードディスクドライブ」の表記

本書で記載のハードディスクドライブとは、特に記載のない限り以下の両方を意味します。

- ハードディスクドライブ(HDD)
- ソリッドステートドライブ(SSD)

オペレーティングシステムの表記(Windows)

本書では、Windows オペレーティングシステムを次のように表記します。

本機でサポートしている OS の詳細は、「インストレーションガイド(Windows 編)」の「1 章(1.2 インストール可能な Windows OS)」を参照してください。

本書の表記	Windows OSの名称
Windows Server 2019	Windows Server 2019 Standard
	Windows Server 2019 Datacenter
Windows Server 2016	Windows Server 2016 Standard
	Windows Server 2016 Datacenter
Windows Server 2012 R2	Windows Server 2012 R2 Standard
	Windows Server 2012 R2 Datacenter

オペレーティングシステムの表記 (Linux)

本書では、Linux オペレーティングシステムを次のように表記します。

本機でサポートしている Linux OS の詳細は、「インストールガイド(Linux 編)」の「1 章(1.2 インストール可能な Linux OS)」を参照してください。

本書の表記	Linux OSの名称
Red Hat Enterprise Linux 7	Red Hat Enterprise Linux 7 Server (x86_64)

オペレーティングシステムの表記 (VMware)

本書では、VMware オペレーティングシステムを次のように表記します。

本書の表記	VMware OSの名称
ESXi 6.5	VMware ESXi 6.5 Update2 以降
ESXi 6.7	VMware ESXi 6.7 Update2 以降

「POST」の表記

本書で記載の POST とは以下を意味します。

- Power On Self-Test

「BMC」の表記

本書で記載の BMC とは以下を意味します。

- Baseboard Management Controller

本機では BMC として iLO 5 を使用します。

商 標

EXPRESSBUILDER、およびESMPROは日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Serverは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Pentium、Xeonは米国Intel Corporationの登録商標です。

Linux[®]は、Linus Torvalds氏の日本およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat[®]、Red Hat Enterprise Linuxは、米国Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

VMwareは、VMware, Inc.の米国および各国での登録商標または商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で 사용되는場合は、仕様の変更を必要とする場合があります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

ライセンス通知

本製品の一部（システム ROM）には、下記ライセンスのオープンソースソフトウェアが含まれています。

- UEFI EDK2 License
- The MIT License Agreement
- PNG Graphics File Format Software End User License Agreement
- zlib End User License Agreement

ライセンス文

UEFI EDK2 License

UEFI EDK2 Open Source License

Copyright (c) 2012, Intel Corporation. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

=====

UEFI FAT File System Driver Open Source License

Copyright (c) 2006, Intel Corporation. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- . Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- . Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

- Neither the name of Intel nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Additional terms: In addition to the forgoing, redistribution and use of the code is conditioned upon the FAT 32 File System Driver and all derivative works thereof being used for and designed only to read and/or write to a file system that is directly managed by Intel's Extensible Firmware Initiative (EFI) Specification v. 1.0 and later and/or the Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) Forum's UEFI Specifications v.2.0 and later (together the "UEFI Specifications"); only as necessary to emulate an implementation of the UEFI Specifications; and to create firmware, applications, utilities and/or drivers.

=====

The MIT License Agreement

The MIT License

Copyright (c) <year> <copyright holders>

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

PNG Graphics File Format Software End User License Agreement

Copyright (c) 1998-2001 Greg Roelofs. All rights reserved.

This software is provided "as is," without warranty of any kind, express or implied. In no event shall the author or contributors be held liable for any damages arising in any way from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, disclaimer, and this list of conditions.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, disclaimer, and this list of conditions in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:

This product includes software developed by Greg Roelofs and contributors for the book, "PNG: The Definitive Guide," published by O'Reilly and Associates.

zlib End User License Agreement

zlib License

zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library
version 1.2.2, October 3rd, 2004

Copyright (C) 1995-2004 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org
Mark Adler madler@alumni.caltech.edu

本書に関する注意と補足

1. 本書の一部または全部を無断転載することを禁じます。
2. 本書に関しては将来予告なしに変更することがあります。
3. 弊社の許可なく複製、改変することを禁じます。
4. 本書について誤記、記載漏れなどお気づきの点があった場合、お買い求めの販売店まで連絡してください。
5. 運用した結果の影響については、4 項に関わらず弊社は一切責任を負いません。
6. 本書の説明で用いられているサンプル値は、すべて架空のものです。

この説明書は、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いてください。

製本版と最新版

製本された説明書が必要なときは、最寄りの販売店またはお買い求めの販売店まで問い合わせてください。

本書は作成日時点の情報をもとに作られており、画面イメージ、メッセージ、または手順などが実際のものと異なる場合があります。変更されているときは適宜読み替えてください。また、説明書の最新版は、次の Web サイトからダウンロードできます。

<https://www.support.nec.co.jp/>

「NEC サポートポータル内検索」より、以下の ID で検索してください。

R120h-1E (2nd-Gen) : 3170102321

R120h-2E (2nd-Gen) : 3170102322

NEC Express5800 シリーズ Express5800/R120h-1E, R120h-2E

1

保 守

本機の運用などにおいて、点検、保守、またはトラブルが起きたときの対処について説明します。

1. 移動と保管

本機の移動および保管について説明しています。

2. 日常の保守

日常使う上で確認しなければならない点、ファイルの管理、およびクリーニングについて説明しています。

3. ユーザーサポート

本製品に関するさまざまなサービスについて説明しています。サービスは、弊社、および弊社が認定した保守サービス会社が提供します。

4. 障害情報の採取

本機が故障したとき、故障の箇所、原因について、情報を採取する方法を説明しています。故障が起きたときに参照してください。

5. トラブルシューティング

故障かな？と思ったときに参照してください。トラブルの原因とその対処について説明しています。

6. Windowsシステムの修復

Windowsを修復させるための手順について説明しています。Windowsが破損したときに参照してください。

7. リセットとクリア

本機のリセットとクリアについて説明しています。本機が動作しなくなったとき、またはシステム設定をデフォルト値に戻すときに参照してください。

1. 移動と保管

本機を移動または保管するときは次の手順に従ってください。

⚠ 警告



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、「安全にご利用いただくために」を参照してください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- リチウムバッテリーやニッケル水素バッテリー、リチウムイオンバッテリーを取り外さない
- 電源プラグを差し込んだまま取り扱わない

⚠ 注意



装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけが、物的損害などを負うおそれがあります。詳しくは、「安全にご利用いただくために」を参照してください。

- 中途半端に取り付けない
- 指を挟まない
- 高温注意



チェック

- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業のときは、お買い上げの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。
- ハードディスクドライブを内蔵しているときは、ハードディスクドライブに衝撃を与えないように注意してください。
- 本機を保管するときは、保管環境条件(温度：-30℃～60℃、湿度：5%～95%、ただし、結露しないこと)を守ってください。



ハードディスクドライブに保存されている大切なデータはバックアップをとっておくことをお勧めします。

1. 光ディスクドライブからメディアを取り出しておきます。
2. 電源を OFF(POWER ランプ消灯)にします。
3. 電源コードをコンセントから抜きます。
4. 接続されているケーブルをすべて取り外します。
5. 傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包します。



本機と内蔵型のオプション機器は、寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと結露が発生し、そのまま使用すると誤作動や故障の原因になります。移動後や保管後、再び運用するときは、使用環境に十分なじませてからお使いください。



輸送後や保管後、本機を再び運用するときは、運用前にシステム時計の確認、調整をしてください。

2. 日常の保守

本機を常にベストな状態でお使いになるために、次のように定期的に確認、保守してください。万一、異常が見られたときは、無理な操作をせずに保守サービス会社へ保守を依頼してください。

2.1 アップデートの確認と適用

Express5800 シリーズでは、本機および周辺機器の BIOS、ファームウェア(FW)、ドライバなどのアップデート情報を弊社 Web サイトに掲載しています。システムの安定稼働のため、常に最新のアップデートを適用することをお勧めします。

NEC コーポレートサイト : <http://jpn.nec.com/express/>

(サポート情報から「PC サーバのサポート情報」を選択。サーバ・ストレージから「サーバ」→「ラック型サーバ」→「Express5800 シリーズ ラックサーバ」→「該当モデル」を選択。カテゴリで「修正情報・ダウンロード」を選択。)



- 最新アップデートのダウンロードおよび適用は、お客様自身で実施してください。
- 万一の場合に備えて、アップデート適用前にデータをバックアップすることをお勧めします。

2.2 アラートの確認

ESMPRO/ServerManager(Windows 版)を使い、監視対象サーバーに異常がないこと、アラートが通報されていないことを常に確認してください。

ESMPRO/ServerManager(Windows 版)は、弊社 Web サイトよりダウンロードし、インストールしてください。

ESMPRO/ServerManager の画面例



ESMPRO/ServerManager

アラートビューアー

2.3 STATUS ランプの確認

本機の電源を ON にした後、シャットダウンして電源を OFF にする前に、前面にある STATUS ランプの表示を確認してください。ランプの機能と表示については「ユーザズガイド」の「1 章(5. 各部の名称と機能)」を参照してください。万一、表示が異常を示したときは、保守サービス会社まで連絡してください。

2.4 バックアップ

定期的にハードディスクドライブ内のデータをバックアップすることをお勧めします。最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについては、お買い求めの販売店まで問い合わせてください。

RAID システムを構築しているときは、コンフィグレーション情報のバックアップをとってください。また、ハードディスクドライブが故障してリビルドした後も、コンフィグレーション情報のバックアップをとっておくことをお勧めします。

2.5 クリーニング

本機を良い状態に保つため、定期的にクリーニングしてください。

 警告	
    	装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、「安全にご利用いただくために」を参照してください。 ● 自分で分解・修理・改造はしない ● 電源プラグを差し込んだまま取り扱わない

2.5.1 本機のクリーニング

外観の汚れは、柔らかい乾いた布でふき取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。



- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。
- コンセント、ケーブル、コネクタ、および装置内部は絶対に水などで濡らさないでください。

1. 電源が OFF (POWER ランプ消灯) になっていることを確認します。
2. 電源コードをコンセントから抜きます。
3. 電源コードの電源プラグ部分に付いているほこりを乾いた布でふき取ります。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞ります。
5. 汚れた部分は、手順 4 の布で少し強めにこすって取ります。
6. 真水で濡らしてよく絞った布でもう一度ふきます。
7. 乾いた布でふきます。

2.5.2 テープドライブのクリーニング

テープドライブのヘッドの汚れは、バックアップの失敗やテープカートリッジの損傷の原因となります。定期的に専用のクリーニングテープを使ってクリーニングしてください。

クリーニングの時期、方法、およびテープカートリッジの使用期間、寿命については、テープドライブに添付の説明書を参照してください。

2.5.3 キーボード／マウスのクリーニング

キーボードは、本機と周辺機器を含むシステム全体の電源が OFF (POWER ランプ消灯) になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布でふいてください。

マウスは光センサー部が汚れていると正常に機能しません。光センサー部に付いた汚れは、乾いた布でふき取ってください。

3. ユーザーサポート

アフターサービスを受ける前に、保証とサービスの内容について確認してください。

3.1 製品の保証

本製品には「保証書」が添付されています。「保証書」は、販売店で所定事項を記入してお渡しします。記載内容を確認し、大切に保管してください。保証期間中に故障が起きたときは、「保証書」の内容にもとづき無償修理します。詳しくは「保証書」と本書の「1 章(3.2 保守サービス)」を参照してください。

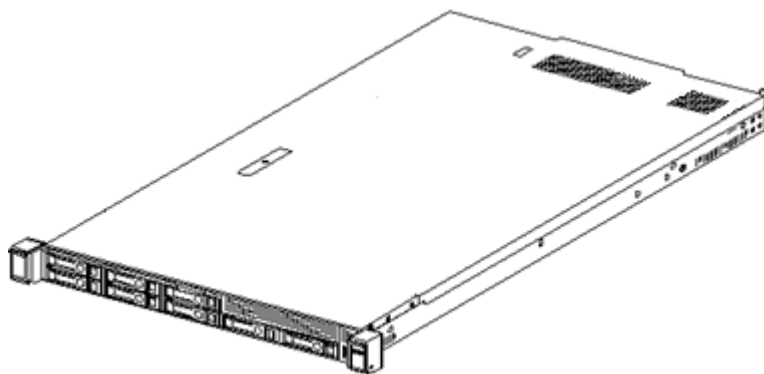
保証期間後の修理については、お買い求めの販売店または保守サービス会社まで連絡してください。



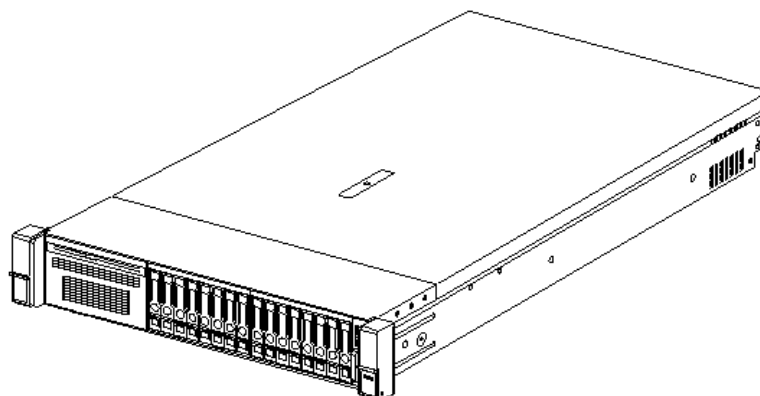
弊社製以外(サードパーティー)の製品、または弊社が認定していない装置やケーブルを使ったために起きた故障については、無償期間中であっても有償での対応になります。

本機には、製品の製造番号などが記載された銘板や、保守ラベルが貼ってあります。**銘板に記載の製造番号と保証書の番号が一致しているか確認してください。**これらが一致していませんと、保証期間内に故障したときでも保証を受けられないことがあります。万一違うときは、販売店まで連絡してください。

[R120h-1E]



[R120h-2E]



3.2 保守サービス

保守は、弊社の保守サービス会社、および弊社が認定した保守サービス会社によって実施され、サービス契約の有無によって、次のような違いがあります。

契約保守サービス	サービスごとに契約していただき、契約期間中は、サービス内容に応じて保守するものです。 さまざまな保守サービスメニューを用意しておりますので、弊社営業または販売店へ問い合わせてください。
未契約修理	保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

「保守基本サービス」の詳細は、次のサイトを参照してください。

<https://jpn.nec.com/service/support/maintenance/index.html>

3.3 修理に出す前に

「故障かな？」と思ったら、次の確認をしてください。

1. 電源コードおよび他の製品と接続しているケーブルが正しく接続されているか確認します。
2. 本書の「1章(5. トラブルシューティング)」を参照します。
該当する症状があれば、記載されているように対処してください。
3. ソフトウェアが正しくインストールされているか確認します。
4. 市販のウィルス検出プログラムなどでウィルスチェックします。

以上の確認をしてもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りの弊社または保守サービス会社まで連絡してください。故障時のランプ表示、画面表示は、修理のときに有用な情報となりますので記録しておいてください。保守サービス会社の連絡先については、本書の「3章(4. 保守サービス会社)」を参照してください。

保証期間中の修理は、必ず保証書を添えてお申し込みください。



本製品は日本国内仕様のため、弊社の海外拠点で修理することはできません。

3.4 修理に出すときは

修理に出すときは、次のものを用意してください。

- ☐ 保証書
- ☐ ディスプレイに表示されたメッセージのメモ
- ☐ 障害情報

(本書の「1章(4. 障害情報の採取)」に記載している情報などが該当します。障害情報は保守サービス会社から指示があったときのみ用意してください)

- ☐ 銘板に記載の情報(製品名、型番、製造番号(SERIAL No.))

3.5 補修用部品

本製品の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 5 年です。

3.6 情報サービス

本製品に関するご質問、ご相談は「ファーストコンタクトセンター」で受け付けています。

※ 電話番号のかけ間違いが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター

TEL. 0120-5800-72 (代表)

受付時間／9:00～12:00、13:00～17:00 月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

「エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス(HTTPS)／エクスプレス通報サービス(MG)」のお申し込みに関するご質問、ご相談は「エクスプレス受付センター」で受け付けています。

※ 電話番号のかけ間違いが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

エクスプレス受付センター

TEL. 0120-22-3042

受付時間／9:00～17:00 月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

インターネットでも情報を提供しています。

[NEC コーポレートサイト]

<http://jpn.nec.com/>

製品情報やサポート情報など、本製品に関する最新情報を掲載しています。

[NEC フィールディング]

<http://www.fielding.co.jp/>

メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報を掲載しています。

4. 障害情報の採取

本機が故障したとき、次のような方法で障害情報を採取することができます。

以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。



故障が起きた後に再起動すると、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。途中でリセットすると、障害情報が正しく保存できないことがあります。

4.1 イベントログの採取

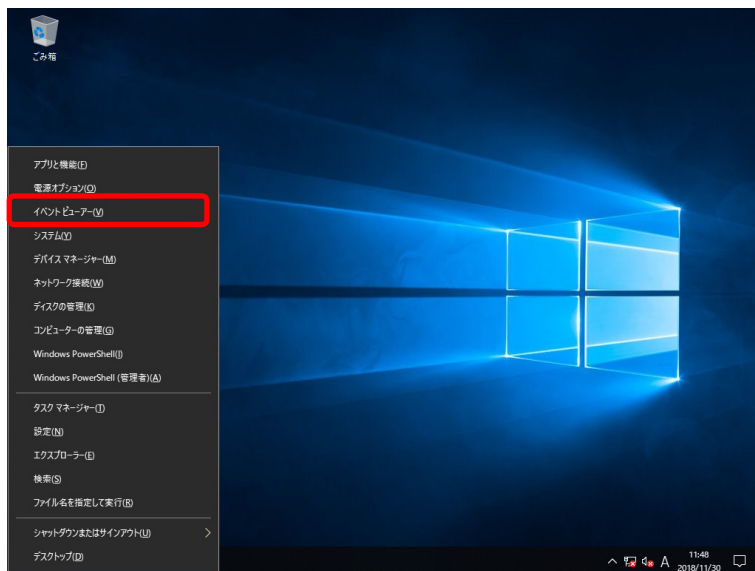
本機に起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。



STOP エラー、システムエラー、またはストールしているときは、いったん再起動してから作業を始めます。

4.1.1 Windows Server 2019

1. 画面の左下隅を右クリックして「イベントビューアー」をクリックします。

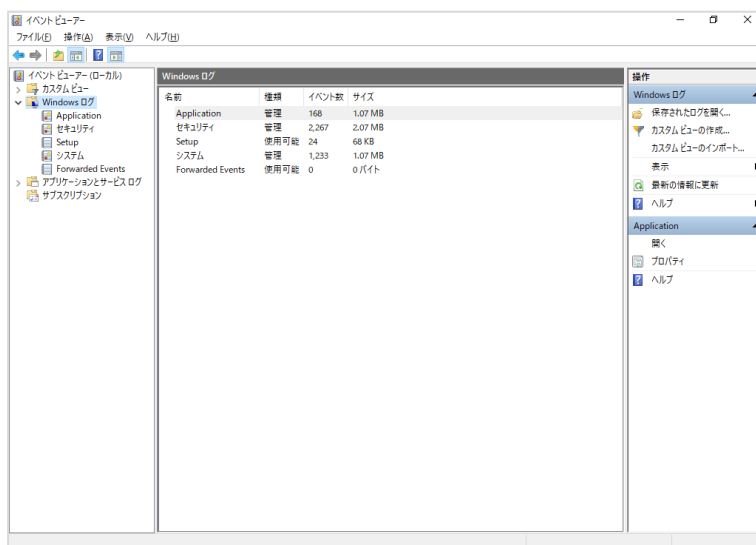


2. [Windows ログ] 内でログの種類を選択します。

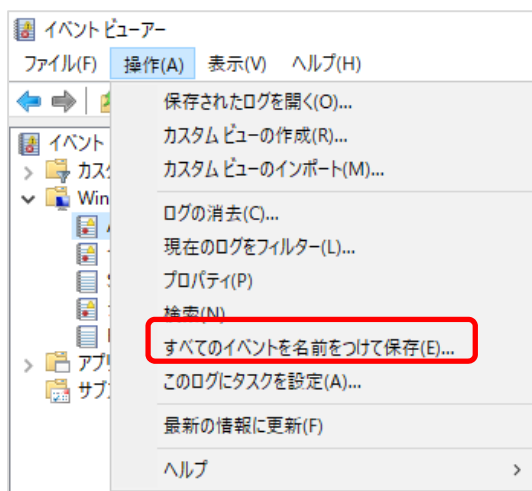
[Application] にはアプリケーションに関連するイベントが記録されています。

[セキュリティ] にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。

[システム] には Windows のシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。



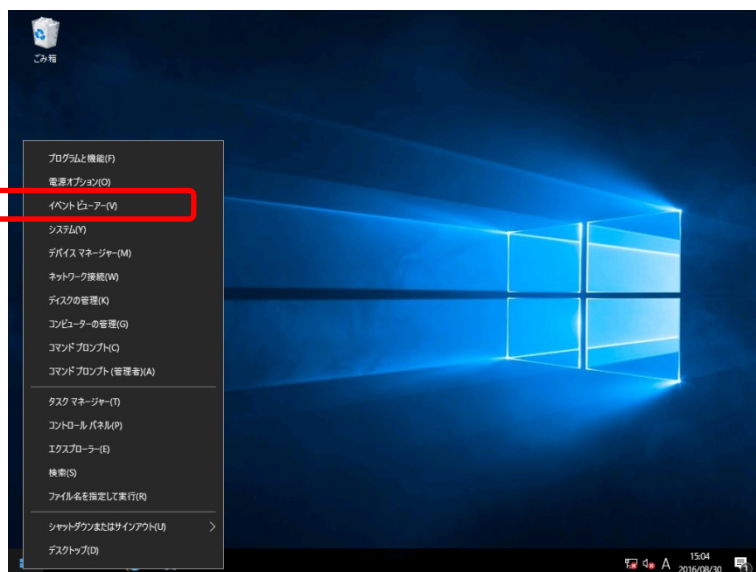
3. [操作] メニューの [すべてのイベントを名前をつけて保存] をクリックします。



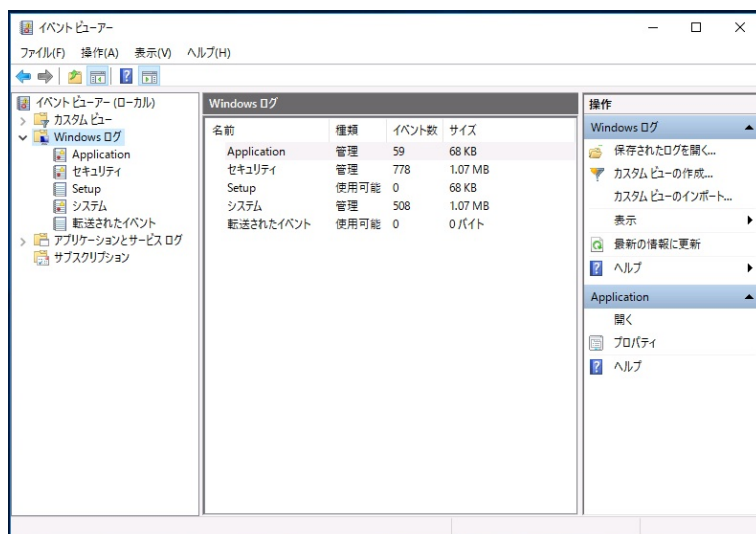
4. [ファイル名] に保存するログファイルの名前を入力します。
5. [ファイルの種類] で保存するログファイルの形式を選択し [保存] をクリックします。
- 詳細については Windows のオンラインヘルプを参照してください。

4.1.2 Windows Server 2016

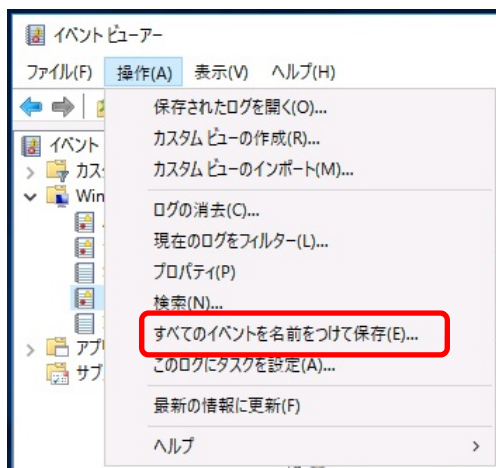
1. 画面の左下隅を右クリックして[イベントビューアー]をクリックします。



2. [Windows ログ]内でログの種類を選択します。
 [Application]にはアプリケーションに関連するイベントが記録されています。
 [セキュリティ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。
 [システム]には Windows のシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。



3. [操作]メニューの[すべてのイベントを名前をつけて保存]をクリックします。



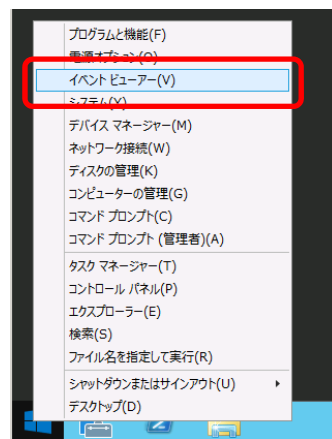
4. [ファイル名]に保存するログファイルの名前を入力します。
 5. [ファイルの種類]で保存するログファイルの形式を選択し[保存]をクリックします。

4.1.3 Windows Server 2012 R2

1. チャームから[設定]をクリックします。
 (または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、[イベントビューアー]をクリックすると手順4の画面が表示されます)

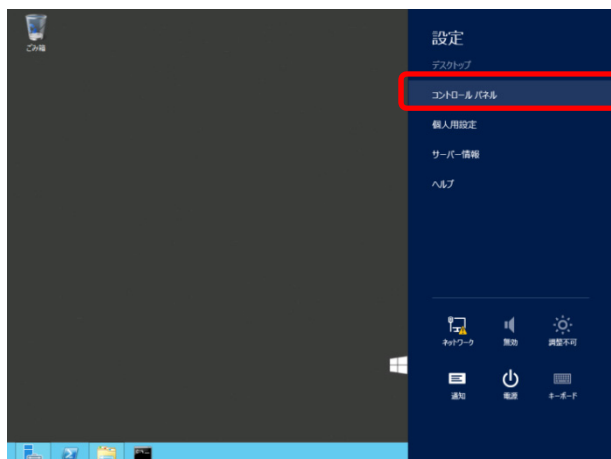


チャーム



右クリックしたときのメニュー

2. [コントロールパネル]をクリックします。



3. [システムとセキュリティ]の[イベントログの表示]をクリックします。



4. [Windows ログ]内でログの種類を選択します。

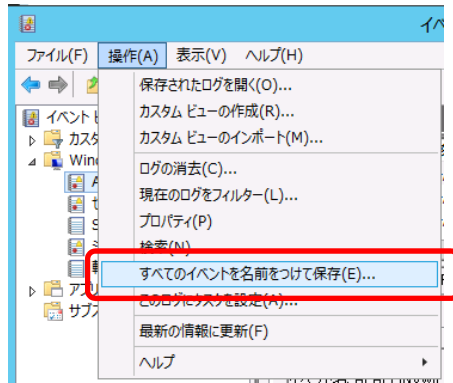
[Application]にはアプリケーションに関連するイベントが記録されています。

[セキュリティ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。

[システム]には Windows のシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。



5. [操作]から[すべてのイベントを名前をつけて保存] をクリックします。



6. 保存するログファイルの名前を[ファイル名]に入力します。
7. [ファイルの種類]でログファイルの形式を選択して[保存]をクリックします。

4.2 構成情報の採取

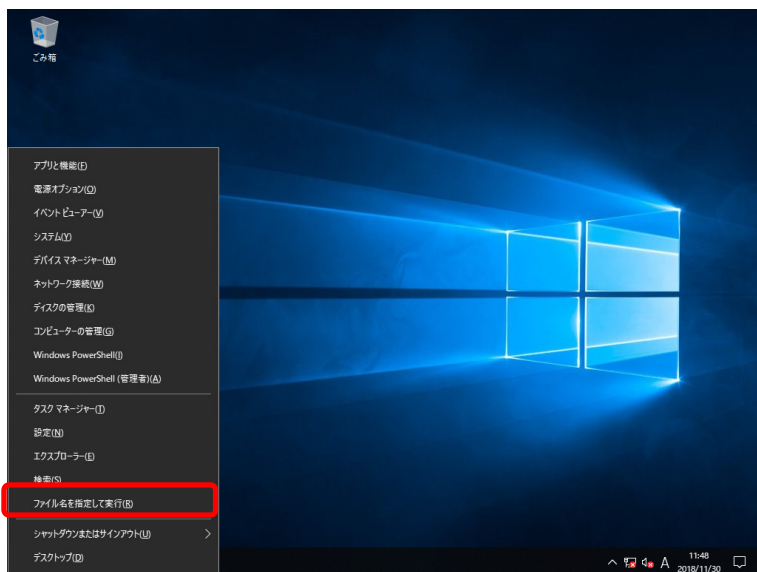
ハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。



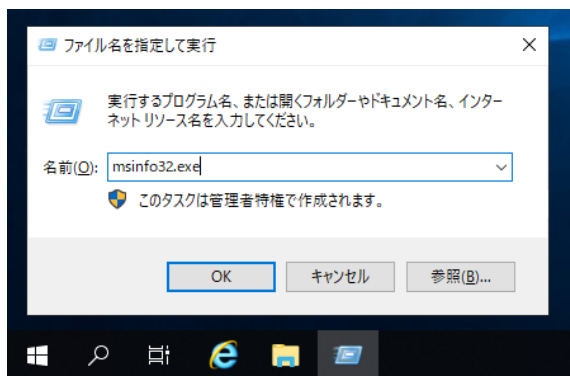
STOP エラー、システムエラー、またはストールしているときは、いったん再起動してから作業を始めます。

4.2.1 Windows Server 2019

1. 画面の左下隅を右クリックして「ファイル名を指定して実行」をクリックします。



2. 「msinfo32.exe」と入力し、<Enter>キーを押します。

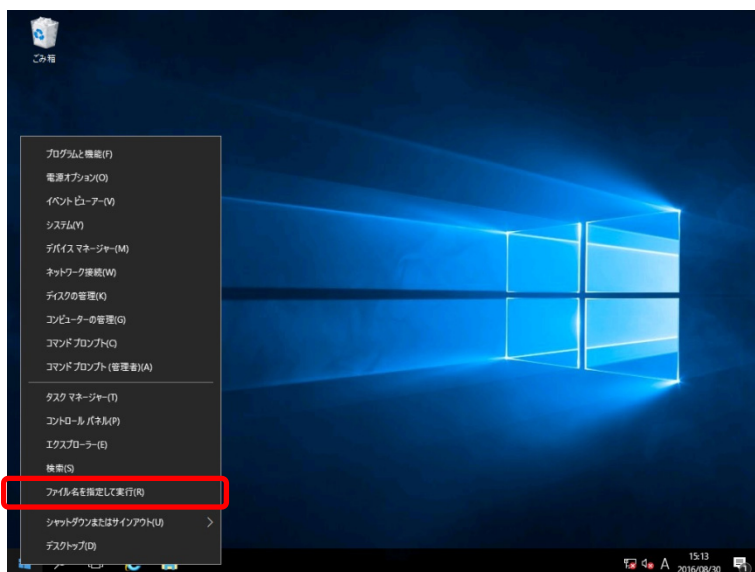


「システム情報」が起動します。

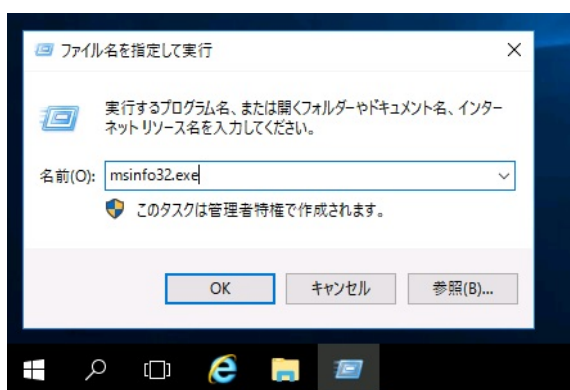
3. 「ファイル」から「エクスポート」をクリックします。
4. 保存するファイルの名前を「ファイル名」に入力して「保存」をクリックします。

4.2.2 Windows Server 2016

1. 画面の左下隅を右クリックして[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



2. 「msinfo32.exe」と入力し、<Enter>キーを押します。

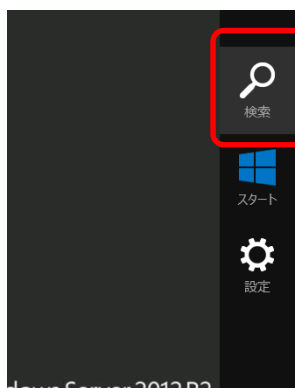


[システム情報]が起動します。

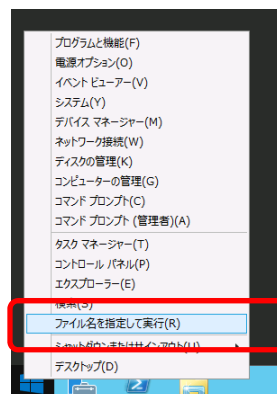
3. [ファイル]から[エクスポート]をクリックします。
4. 保存するファイルの名前を[ファイル名]に入力して[保存]をクリックします。

4.2.3 Windows Server 2012 R2

1. チャームから[検索]をクリックします。(または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、[ファイル名を指定して実行]をクリックします)

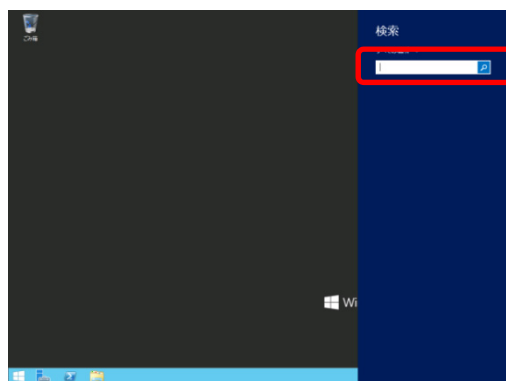


チャーム

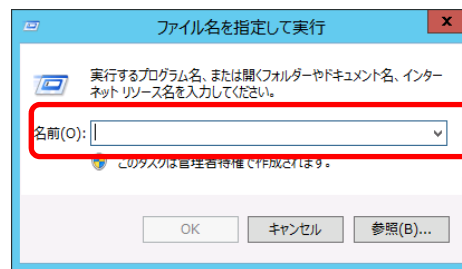


右クリックしたときのメニュー

2. 「msinfo32.exe」と入力し、<Enter>キーを押します。



[検索]画面



[ファイル名を指定して実行]画面

3. [システム情報]が起動します。
4. [ファイル]から[エクスポート]をクリックします。
5. 保存するファイルの名前を[ファイル名]に入力して[保存]をクリックします。

4.3 ユーザーモードプロセスダンプの採取

アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。

詳細は、「インストレーションガイド(Windows 編)」の「1 章(6.2 ユーザーモードプロセスダンプの取得方法)」を参照してください。

4.4 メモリダンプの採取

エラーが起きたときのメモリの内容を採取します。保存先は任意で設定できます。

詳細は、「インストレーションガイド(Windows 編)」の「1章(6.1 メモリダンプ(デバッグ情報)の設定)」を参照してください。

メモリダンプは、保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作すると、システムの運用に支障をきたすおそれがあります。



エラーが起きた後に再起動すると、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。途中でリセットすると、メモリダンプが正しく保存できないことがあります。

5. トラブルシューティング

本機が思ったように動作しないときは、修理に出す前に、次のチェックリストを参照してチェックしてください。リストに該当するような項目があるときは、記載の対処方法を試してみてください。

それでも正常に動作しないときは、ディスプレイに表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

5.1 電源 ON から POST 終了にかけてのトラブル

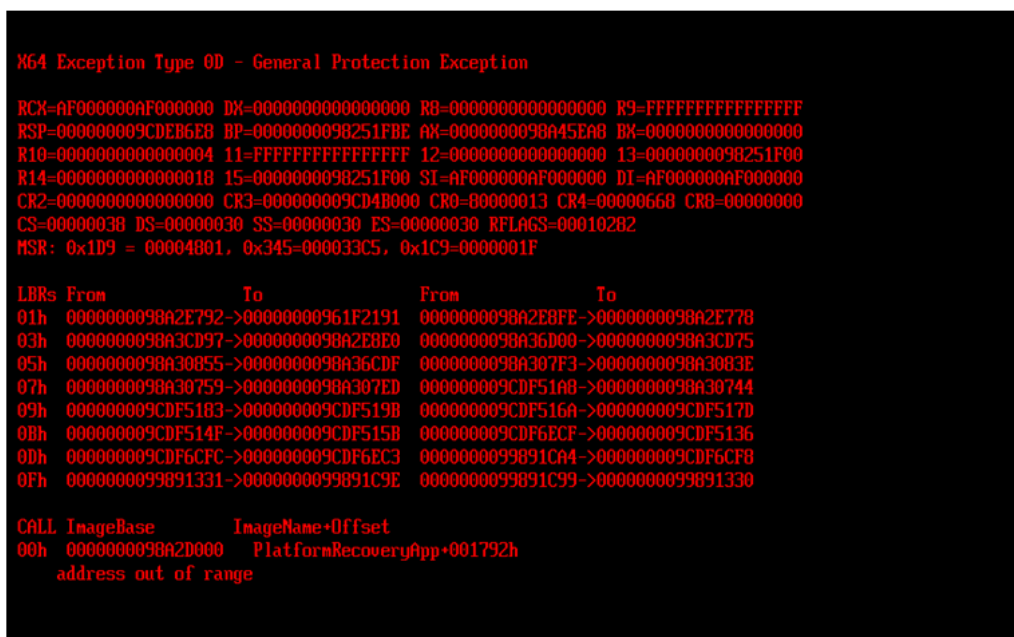
[?] 電源がONにならない

- ☐ 電源が本機に正しく供給されていますか？
 - 本機の電源規格に合ったコンセント、または無停電電源装置(UPS)に電源コードを接続しているか確認してください。
 - 添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。
 - 接続したコンセントのブレーカーがONになっていることを確認してください。
 - UPSに接続しているときは、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付の説明書を参照してください。
- また、システムユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。
- ☐ POWERスイッチを押しましたか？
- ☐ STATUSランプの表示は緑色に点灯していますか？
 - STATUSランプの表示が赤色またはアンバー色の場合、iLOを使用してシステムステータスを確認し、ケーブルやオプション品の接続を確認してください。問題が解決しない場合は、保守サービス会社にご連絡ください。
- ☐ ディスプレイに画面が表示されていますか？
 - ディスプレイへのケーブル接続や、ディスプレイの電源を確認してください。

[?] POSTが終わらない

- ☐ メモリを正しく搭載していますか？
 - メモリを正しく搭載しているか確認してください。
- ☐ 大容量のメモリを搭載していますか？
 - 搭載メモリのサイズが大きいと、メモリチェックで時間がかかります。チェックが終わるまでお待ちください。
- ☐ 起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか？
 - 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラーの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときは本機を再起動してください。また、再起動直後は、POSTの起動メッセージなどを表示するまでキーボードやマウスの操作をしないよう注意してください。
- ☐ 本機で利用できるメモリ、PCIデバイスを搭載していますか？
 - 弊社が指定する機器以外は動作の保証ができません。

[?] 赤文字画面(RSOD: Red Screen of Death)が表示される



赤文字画面の例

- ☐ 弊社が指定するオプション部品を搭載していますか？
→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証ができません。
- ☐ iLOファームウェア、システムROM、オプションのファームウェアなどに更新はありませんか？
→ iLOファームウェア、システムROM、オプションのファームウェアなどを、最新のバージョンに更新してください。
- ☐ 本機の構成変更や設定変更などシステムの状態を変更した直後ですか？
→ 装置の構成変更や設定変更などシステムの状態を変更した場合、OS起動前に稀に赤文字画面(RSOD)が表示され本製品の操作が出来なくなることがあります。構成変更や設定変更に伴う一過性の事象の場合があります。本機の電源OFF/ONによって回復します。

[?] POST中に「209 - Unsupported DIMM Configuration Detected - Installed DIMM configuration does NOT support configured AMP Mode. System will operate in Advanced ECC Mode」のIMLメッセージが表示された場合

- DIMM構成を変更しましたか？
 - 「Fault Tolerant Memory (ADDDC)」モードをご利用の場合、「ユーザーズガイド」の「2章 (DIMM)」を参照し、「Fault Tolerant Memory (ADDDC)」モードをサポートしているDIMM構成に変更してください。
 - 「Fault Tolerant Memory(ADDDC)」モードをご利用ではない場合、以下の手順に従って設定をしてください。
 1. POST中に<F9>キーを押し、システムユーティリティを起動します。
 2. 「Workload Profile」を「Custom」に設定します。
 3. 「Advanced Memory Protection」を「Advanced ECC Support」モードに設定します。

5.2 EXPRESSBUILDER 起動時のトラブル

[?] EXPRESSBUILDERが起動しない

- システムの状態は正しいですか？
 - BIOS、iLOとの内部設定が不正なときEXPRESSBUILDERが起動しないことがあります。以下の順に確認してください。
 - (a). AC OFF/ONしてからリトライ
 - (b). 「メンテナンスの実行」-「システムの消去およびリセット」からEXPRESS環境設定をクリアしてからリトライ
 - (c). 以下の項目を使用してBIOSの設定を工場出荷時に戻してからリトライ
System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options > Restore Default Manufacturing Settings
 - (d). 以下の項目を使用してiLOの設定を工場出荷時に戻してからリトライ
System Configuration > BMC Configuration Utility > Set to factory defaults

[?] EXPRESSBUILDERからOSのインストールができない、または失敗する

- インストールしようとしているOSはWindowsですか？
 - EXPRESSBUILDERからインストールできるOSはWindowsのみです。また、インストール可能なWindowsの種類については「インストレーションガイド(Windows編)」を参照してください。

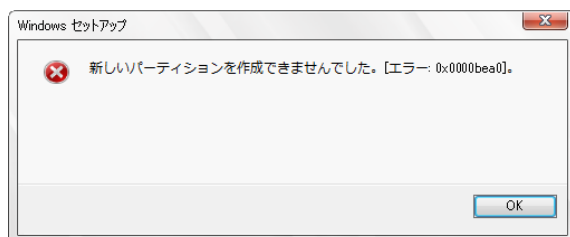
[?] システム時刻がずれる

- EXPRESSBUILDERの右上アイコンを使って再起動しましたか？
 - アイコンから再起動させると、RBSUのシステム時刻が数十秒単位でずれることがあります。時刻ずれが起きたときは、RBSU等から再設定してください。

5.3 Windows インストール時のトラブル

[?] Windows Server 2012 R2をインストールするときに、パーティションが作成できない

- ☐ 次のメッセージが表示されましたか？



→ パーティションの作成に失敗しています。

作成したパーティションをいったん削除してから、再度パーティションを作成してください。
データディスクなどを接続しているときは、削除するパーティションに十分ご注意ください。
詳細は次のWebサイトを参照してください。

Windows Server 2012 R2

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn387077.aspx>

[?] Windowsをインストールできない

- ☐ ハードディスクドライブを正しく取り付けられていますか？

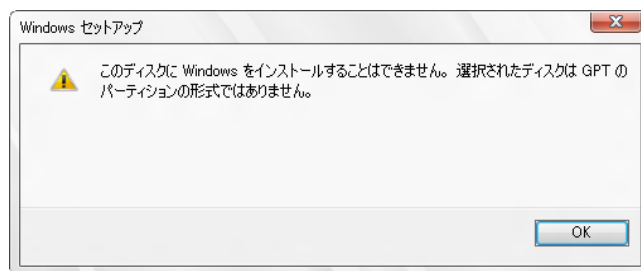
→ ハードディスクドライブの取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。

- ☐ インストール先のディスクはサポートされているディスク形式ですか？

→ 次のとおり、ブートモードによりサポートされているディスク形式が異なります。

ブートモード	ディスク形式
UEFI Mode	GPT(GUIDパーティションテーブル)
Legacy Mode	MBR(マスターブートレコード)

例えば、UEFI ModeでMBR形式のディスクをインストール先に指定すると、次のようなメッセージが表示されます。



ディスク形式の変更は、いったんインストール先のディスクを消去し、パーティションを作成し直す必要があります。事前に、必要なユーザーデータのバックアップをとり、パーティションを作成し直してください。

- ☐ RAIDコントローラーをコンフィグレーションしましたか？

→ RAIDシステムのときは、EXPRESSBUILDERを使うか、RAIDコンフィグレーションユーティリティを使って正しくコンフィグレーションしてからWindowsをインストールしてください。

□ 論理ドライブを作成しましたか？

→ RAIDシステムの場合は、EXPRESSBUILDERを使うか、RAIDコンフィグレーションユーティリティを使って論理ドライブを作成してからWindowsをインストールしてください。

[?] Windowsを正しくインストールできない

□ インストール時の注意事項を確認していますか？

→ 「インストレーションガイド(Windows編)」を参照してください。

[?] プロダクトキーを入力するタイミングがない

→ バックアップDVD-ROMを使ってインストールするとき、プロダクトキーを入力する必要はありません。

[?] Telnetサービスがインストールされていない

→ コンピューター名を14文字以下にし、以下の手順に従ってTelnetサービスをインストールしてください。

<Telnet サービスのインストール手順>

(1) スタートメニューから [ファイル名を指定して実行] をクリックします。

(2) [名前] に「tntsvr /service」と入力し、[OK] をクリックします。

(3) スタートメニューから [コントロールパネル] - [管理ツール] - [サービス] を開き、サービスの一覧に Telnet サービスが登録されていることを確認します。

* Telnet サービスのインストール後は、コンピューター名を 15 文字以上に設定しても問題ありません。

[?] グラフィックスアクセラレータドライバーをインストールした後、再起動前にエラーメッセージが表示されることがある

□ Windows Server 2012 R2 の Server Core環境ですか？

→ イベントログにアプリケーションエラーが登録されますが、再起動後の動作に問題はありません。

5.4 OS 起動時のトラブル

[?] OSを起動できない

- RAIDコントローラーのBIOS設定を変更していませんか？
→ RAIDコンフィグレーションユーティリティを使って正しく設定してください。
- POSTでRAIDコントローラーを認識していますか？
→ RAIDコントローラーを正しく接続していることを確認してから電源をONにしてください。
→ 正しく接続していても認識しない場合は、RAIDコントローラーの故障が考えられます。保守サービス会社、または販売店へ連絡してください。
- RAIDコントローラーをまっすぐ奥までPCIスロットに実装していますか？
→ 正しく実装してください。
- RAIDコントローラーを実装制限があるPCIスロットに実装していませんか？
→ 本機の実装制限を確認後、正しいスロットに実装してください。
上記の処置を実施しても認識しない場合は、RAIDコントローラーの故障が考えられます。保守サービス会社、または販売店へ連絡してください。
- ハードディスクドライブを奥までしっかり実装していますか？
→ 正しく実装してください。
- ケーブルを正しく接続していますか？(ハードディスクドライブもしくはディスクアレイ装置との接続)
→ 正しく接続してください。
上記の処置を実施しても認識しない場合は、ハードディスクドライブの故障が考えられます。保守サービス会社、または販売店へ連絡してください。
- OSブートマネージャーが「UEFI Boot Order」に登録されていますか？
→ UEFI bootにおいてOSブートマネージャー(Windows Boot Manager、Red Hat Enterprise Linux など)が「UEFI Boot Order」に登録されていない場合、いったん、「One-Time Boot」メニューを用いて該当のブートデバイスからOSをブートしてください。
起動したOSによって、OSブートマネージャーが「UEFI Boot Order」の最上位に登録されます。以降は登録されたOSブートマネージャーから起動することができます。
なお、上記の処置を実施してもブートデバイスからOSがブートしない場合、OSブートマネージャーのファイルとパスを「Add Boot Options」メニューから手動で「UEFI Boot Order」に追加してください。
- Boot Orderは期待通りの順番になっていますか？
→ 「UEFI Boot Order」あるいは「Legacy BIOS Boot Order」メニューから適切なBoot Orderを設定してください。
- システムユーティリティの「Boot Mode」の設定は、インストールしたOSのブートモードと一致していますか？
→ システムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options」から「Boot Mode」を適切に設定してください。

- セキュアブートを有効する場合、ブートに利用するオプションカードがセキュアブートに対応していますか？
 - 「Secure Boot」を有効にした場合、起動可能なデバイスとしてオプションカードを認識させるためには、オプションカードの UEFI ドライバーが Microsoft の鍵で署名されている必要があります。すべてのオプションカードを署名済みの UEFI ドライバーにしてください。

5.5 RAID システム運用時のトラブル

[?] リビルドができない

- リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか？
 - 故障したハードディスクドライブと同じ容量のハードディスクドライブを使用してください。
- 論理ドライブが、RAID0 ではありませんか？
 - RAID0 には冗長性がないためリビルドできません。故障したハードディスクドライブを交換し、再度コンフィグレーション情報を作成してください。コンフィグレーション情報作成後、初期化してからバックアップデータを使って復旧してください。

[?] オートリビルドができない

- ハードディスクドライブを交換(ホットスワップ)するときに十分な時間を空けましたか？
 - オートリビルドを機能させるには、ハードディスクドライブを取り出してから取り付けるまで 90 秒以上の時間を空けてください。

[?] ハードディスクドライブが故障した

- 保守サービス会社または販売店へ連絡してください。

[?] 増設バッテリーが認識されない

- バッテリーパックとバッテリーボードを接続するケーブル、バッテリーボードおよびバッテリーコネクタとバッテリー制御ケーブル、それぞれを正しく接続していますか？
 - 正しく接続してください。
- バッテリーを接続した直後ではありませんか？
 - バッテリーの充電が低い場合に、バッテリーが認識できない場合があります。24 時間経過しても認識しない場合は、一度本機を再起動してください。
上記の処置を実施しても認識されない場合は、増設バッテリーの故障が考えられます。保守サービス会社、または販売店へ連絡してください。

[?] DISK ランプが点滅する

- 使用していないのに、頻繁に DISK ランプが点滅する。
 - 表面スキャンが動作した場合、使用していない状態でも DISK ランプが点滅します。なお、SATA のハードディスクドライブを使用している場合、DISK ランプが点灯状態となる場合があります。

[?] POSTプロセス中にコントローラーが表示されない、またはエラーが表示される。

- コントローラーがサーバーでサポートされていることを確認してください。
- コントローラーが正しく取り付けられているか、固定されているかを確認してください。
- ケーブルが正しく接続されているかを確認してください。
- コントローラーが物理的に損傷していたら、交換してください。
- コントローラーがシステムROMで認識されている場合は、コントローラーを取り付け直してください。
- コントローラーの診断を実行し、表示された手順に従ってください。
- ファームウェアを最新のバージョンに更新してください。
- Active Health Systemログをダウンロードしてください。

[?] コントローラーの冗長化が失われた(POSTプロセス中にエラーが表示されない、またはキャッシュが無効になっている)

- コントローラーがサーバーでサポートされていることを確認してください。
- 複数のコントローラーが正しく取り付けられているか、固定されているかを確認してください。
- ケーブルが正しく接続されているかを確認してください。
- コントローラーが物理的に損傷していたら、交換してください。
- コントローラーの診断を実行し、表示された手順に従ってください。
- 複数のコントローラーが互換性のあるモデルであることを確認してください。
- コントローラーのキャッシュサイズに互換性があることを確認してください。
- フラッシュバックアップユニット(FBU)が正しく取り付けられ、接続されていることを確認してください。
- ファームウェアを最新のバージョンに更新してください。
- Active Health Systemログをダウンロードしてください。

[?] RAIDモードが無効の場合にHPE Smart Array S100i SR Gen10 SW RAIDドライブが検出されない

- サーバーでHPE Smart Array S100i SR Gen10 SW RAID RAIDコントローラーが有効になっており、システムユーティリティでRAIDモードが無効になっている場合、ドライブはAHCIドライブまたはHPE H220iドライブとして表示され、RAIDコントローラーはPOSTまたはデバイスマネージャーで検出されません。RAIDモードが有効になっている場合、ドライブはHPE Smart Array S100i SR Gen10 SW RAIDコントローラードライブとして表示されます。

修正方法を以下に示します。

1. 起動プロセス中に<F9>キーを押して、システムユーティリティにアクセスします。
2. 「System Configuration」メニューで、「BIOS/Platform Configuration(RBSU) > Storage Options > SATA Controller Options > Embedded SATA Configuration > Smart Array SW RAID Support」を選択します。
3. <F10>キーを押して、構成を保存します。
4. サーバーを再起動します。

[?] RAIDモードでアクセスされるドライブ上のデータが、非RAIDモードからアクセスされるデータと互換性を持たない。

- 同じモード (RAIDモードまたは非RAIDモード) が有効のときにのみドライブデータにアクセスすることをおすすめします。ドライブのデータをバックアップし、リストアしてください。

[?] ドライブを新しいサーバーまたはJBODに移動すると、Smartアレイコントローラーが論理ドライブを表示しない。

- ドライブを移行する際に、ドライブローミングに関するすべてのルールが守られていることを確認してください。



ドライブローミング機能により、データの可用性を維持しながら、ディスクドライブおよびディスクアレイを移動することができます。新しいベイ位置が同じコントローラーからアクセス可能であるかぎり、構成済みの論理ドライブに含まれる 1 台または複数のディスクドライブを、異なるベイ位置に移動することができます。さらに、1 つのディスクアレイ全体をあるコントローラーから別のコントローラーに移動できます。これは異なったサーバーに搭載されているコントローラー間でも可能です。物理ドライブを新しいベイ位置に移動するには、論理ドライブのステータスが正常である必要があります。

ドライブローミングは、オフライン機能です。サーバーがオンラインのときにディスクアレイを削除して新しい物理位置に移動させる方法はありません。

[?] N8103-189/190/192/193/195/196/197/201使用時、Windowsのデバイスマネージャーでコントローラー名が正しく表示されない。

- N8103-189/190/192/193/195/196/197/201をご使用の環境において、Windowsのデバイスマネージャーでコントローラー名が正しく表示されない場合がありますが、動作上の問題はありません。そのままご使用ください。

5.6 内蔵デバイス、その他ハードウェア使用時のトラブル

[?] 内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない(または正しく動作しない)

- ☐ ケーブルを正しく接続していますか？
 - インターフェースケーブルや電源ケーブル(コード)を確実に接続していることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。
- ☐ 電源ONの順番を間違っていないですか？
 - 外付けデバイスを接続しているときは、外付けデバイス、本機の順に電源をONにします。
- ☐ ドライバーをインストールしていますか？
 - 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバーが必要です。デバイスに添付の説明書を参照してドライバーをインストールしてください。
- ☐ オプションボードの設定を間違えていませんか？
 - PCIデバイスについては通常、特に設定を変更する必要はありませんが、ボードによっては特別な設定が必要なものがあります。詳しくはボードに添付の説明書を参照して正しく設定してください。
 - シリアルポートや、USBポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものがあります。デバイスに添付の説明書を参照して正しく設定してください。

[?] キーボードやマウスが正しく機能しない

- ケーブルを正しく接続していますか？
 - 本機背面や前面にあるUSBコネクタに正しく接続していることを確認してください。
- BIOSの設定を間違えていませんか？
 - システムユーティリティでUSBの設定を変更できます。 システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Options > USB Options」からキーボードを接続しているUSBポートの設定を確認してください。
- ドライバーをインストールしていますか？
 - ご使用のOSに添付の説明書を参照してキーボードやマウスのドライバーをインストールしていることを確認してください(これらはOSのインストールの際に標準でインストールします)。また、OSによってはキーボードやマウスの設定を変更できます。ご使用のOSに添付の説明書を参照して正しく設定しているかどうか確認してください。

[?] ハードディスクドライブにアクセスできない

- 本機で使えるハードディスクドライブですか？
 - 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。
- ハードディスクドライブを正しく取り付けられていますか？
 - ハードディスクドライブの取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。

[?] ハードディスクドライブに障害が発生している

- 接続不良ではないかを確認してください。
- 次のコンポーネントについて、アップデートが利用可能なものがあれば、アップデートしてください。
 - ・ Smartアレイコントローラーファームウェア
 - ・ Dynamic Smartアレイドライバー
 - ・ ホストバスアダプターファームウェア
 - ・ エキスパンダーバックプレーンSEPファームウェア
 - ・ システムROM
- ドライブまたはバックプレーンが正しくケーブル接続されていることを確認してください。
- ドライブのデータケーブルが故障している場合は、交換してください。
- ダミートレーが取り付けられている場合は、正しく取り付けられていることを確認してください。
- SSAを実行して、障害が発生したドライブのステータスを確認してください。
- ディスクアレイ内の交換用ドライブが同じ容量以上であることを確認してください。
- ディスクアレイ内の交換用ドライブが同じドライブタイプ（SAS、SATA、SSDなど）であることを確認してください。
- サーバーの電源を切って、ドライブを入れ直し、ドライブが認識されたら、ドライブのファームウェアの更新が必要かどうかを確認してください。

[?] ドライブが認識されない。

- 電力の問題ではないかを確認してください。
- 接続不良ではないかを確認してください。
- 次のコンポーネントについて、アップデートが利用可能なものがあれば、アップデートしてください。
 - ・ Smartアレイコントローラーファームウェア
 - ・ Dynamic Smartアレイドライバー

- ・ ホストバスアダプターファームウェア
 - ・ エクスパンダーバックプレーンSEPファームウェア
 - ・ システムROM
- ドライブまたはバックプレーンが正しくケーブル接続されていることを確認してください。
 - ドライブのランプの内容を確認してください。
 - ドライブがサポートされているかを確認してください。
 - サーバーの電源を切って、ドライブを入れ直し、ドライブが認識されたら、ドライブのファームウェアの更新が必要かどうかを確認してください。
 - ハードディスクドライブを別のベイに取り付けて、ドライブベイが故障していないかを確認してください。
 - ディスクアレイ内の交換用ドライブが同じ容量以上であることを確認してください。
 - ディスクアレイ内の交換用ドライブが同じドライブタイプ（SAS、SATA、SSDなど）であることを確認してください。
 - ディスクアレイコントローラーを使用する場合は、SSAを実行し、ディスクアレイ内でドライブが構成されていることを確認してください。
 - ドライバーがインストールされているかを確認してください。
 - コントローラーが、取り付けられているハードディスクドライブをサポートしていることを確認してください。
 - SASエクスパンダーが使用されている場合は、Smartアレイコントローラーがキャッシュモジュールを備えていることを確認してください。
 - ストレージエンクロージャーが使用されている場合は、ストレージエンクロージャーの電源が入っていることを確認してください。
 - SASスイッチを使用している場合は、Virtual SAS Managerを使用してディスクがサーバーにゾーニングされていることを確認してください。
 - システムユーティリティでRAIDモードが有効になっていることを確認してください。

[?] ドライブ上のデータにアクセスできない。

- ☐ ファイルが壊れていませんか？
 - オペレーティングシステムに対応した修復ユーティリティを実行してください。
- ☐ サーバーがウイルスに感染されていませんか？
 - 最新バージョンのウィルススキャンユーティリティを実行してください。
- ☐ TPMが取り付けられているが、サーバー上で正しく有効化されていますか？
 - TPMが取り付けられ、BitLockerが使用されている場合は、システムユーティリティでTPMが有効化されているかを確認してください。有効化されていない場合は、オペレーティングシステムのドキュメントに記載されているTPM交換リカバリー手順を参照してください。
- ☐ 暗号化ファイルが存在していませんか？
 - 暗号化されたデータを新しいサーバーに移行する場合は、オペレーティングシステムのドキュメントに記載されているリカバリー手順に従ってください。

[?] サーバーの応答時間が通常より遅い。

- OSの暗号化テクノロジーがサーバーのパフォーマンスを低下させている可能性があります。OSのドキュメントを参照してください。
- ☐ ドライブに空き容量はありますか？
 - ドライブの容量に空きがあることを確認し、必要に応じてドライブの空き容量を増やしてください。ドライブでは、15%以上の空き容量を確保しておくことをおすすめします。
- ☐ 論理ドライブ上でリカバリー動作が保留されていませんか？

→ SSAを使用して、リカバリー動作が論理ドライブで保留されていないことを確認してください。

[?] SmartDriveアイコンまたはランプによって間違ったドライブに関するエラーが示されるか、POST、SSA、またはSADUCLIでエラーメッセージが表示される。

→ ドライブバックプレーンからマザーボードへのケーブル接続が正しいかどうかを確認してください。

[?] POSTメッセージまたはIMLメッセージが登録される。

→ デバイスへの書き込みの最大使用制限に近づいています。デバイスを交換してください。

[?] 追加した内蔵デバイスや外付けデバイスが正しく動作しない

- 取り付ける内蔵デバイスや外付けデバイスがサーバーでサポートされているオプションであることを確認してください。
- ハードウェアリリースの変更が原因かどうかをリリースノートで確認してください。リリースノートはNECのWebサイトを参照してください。
- 新しい内蔵デバイスや外付けデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。
- メモリ、I/O、および割り込みの競合がないかを確認してください。
- すべてのケーブルが正しく接続され、ケーブルの長さも正しいことを確認してください。
- 内蔵デバイスや外付けデバイスを取り付ける際に、他の部品を誤って外していないかを確認してください。
- デバイスドライバー、ROMアップデート、パッチなど、必要なすべてのソフトウェアの最新版であるか、およびこの最新版を取り付けたデバイスに対して正しいバージョンであるかを確認してください。
- ボードやその他のオプションの取り付けまたは交換後に、システムユーティリティで設定されたオプションで、ハードウェアへのすべての変更がシステムで認識されていることを確認してください。新しいハードウェアが適切に構成されていない場合は、構成エラーを示すPOSTエラーメッセージが登録される場合があります。
- スイッチがすべて正しく設定されていることを確認してください。
- すべてのボードがサーバーに正しく取り付けられているかを確認してください。

[?] 内蔵デバイスや外付けデバイスに未知のトラブルが発生している。

- サーバーのランプのステータスを確認してください。
- 接続不良ではないかを確認してください。
- サーバーの電源をOFFにし、以下の手順を行ってください。
 1. サーバーの電源をOFFにしたあと、電源ケーブルを取り外してください。
 2. サーバーの電源投入に不要なすべてのカードやデバイスを取り外して、サーバーを最小のハードウェア構成にしてください。モニターは、サーバーの電源投入プロセスを確認するために、接続しておいてください。
 3. 電源ケーブルを接続し、サーバーの電源をONにしてください。この最小構成でシステムが稼動しない場合は、主要コンポーネントのいずれかが故障しています。ここまでの手順でプロセッサ、電源ユニット、およびメモリが機能していることを確認している場合は、マザーボードを交換してください。そうでない場合は、各コンポーネントが正常に機能するかを確認してください。
 4. システムが起動し、ビデオが起動している場合は、各コンポーネントを1つずつサーバーに戻し、追加後にサーバーを再起動して、このコンポーネントが問題の原因になっているかどうかを確認します。各コンポーネントをサーバーに戻す際は、必ず、サーバーの電源を切り、サーバーのユーザーズガイドに記載されている内容に従ってください。

[?] 他社製の内蔵デバイスや外付けデバイスを使用し、トラブルが発生している。

- サーバーおよびOSがデバイスに対応していることを確認してください。
- ドライバーが最新版であるか、およびこのデバイスに対して正しいバージョンであるかを確認してください。
- デバイスが正しく取り付けられているかを確認してください。

[?] 冷却ファンが正しく動作しない。

- 正しく固定されているかを確認してください。正しく固定されていない場合は、サーバーのユーザーズガイドに従って、トップカバーを取り外し、冷却ファンを取り付け直してください。
- 冷却ファンの構成が、サーバーの稼動要件を満たしているかを確認してください。
- 動作していない必要な冷却ファンを交換して、サーバーを再起動してください。
- すべてのファンスロットに冷却ファンまたはブランクカバーが取り付けられていることを確認してください。
- 冷却ファンの通気がケーブルや他の異物でふさがれていないことを確認してください。
- トップカバーが正しく取り付けられているかを確認してください。トップカバーを取り外したまま長時間サーバーを稼動させている場合、通気が妨げられ、温度上昇によりコンポーネントが損傷する場合があります。
- サーバーの起動中に温度異常情報やファン障害情報を示すPOSTエラーメッセージが表示されていないかを確認してください。サーバーの温度要件については、サーバーのユーザーズガイドを参照してください。
- iLOまたはオプションのIMLビューアーを使用してIMLを参照し、冷却ファンに関するイベントリストエラーメッセージが示されていないかを確認してください。
- iLO Webインターフェースで、[情報]、[システム情報]ページの順に進み、次の情報を確認してください。
 1. [ファン]タブをクリックし、冷却ファンのステータスと速度を確認します。
 2. [温度]タブをクリックし、[温度]タブで各場所の温度表示値を確認します。ホットスポットが見つかった場合は、通気がケーブルや他の異物でふさがれていないことを確認します。ホットスポットは絶対温度ではなく、コンポーネントの仕様に対する相対温度です。ホットスポットは、センサー上の[温度]タブに一覧表示されている警告しきい値の3°C以内の温度として定義されます。
- BladeSystem c-Classエンクロージャーのファンの問題については、OA SHOW ALLのファンのセクションと、FAN FRU低レベルファームウェアを確認してください。

[?] 冷却ファンが規格よりも高速で回転している。

- iLO Webインターフェースで、[情報]、[システム情報]ページの順に進み、次の情報を確認してください。
 - ・ [温度]タブをクリックし、センサーの温度が警告しきい値の約10°C以内である場合は、ファンの速度が速くなる可能性があります。
 - ・ [ファン]タブをクリックし、ファンのステータスとファンの速度を確認します。ファンの速度が60%を超えると、過剰な雑音を出すことがあります。
- iLOファームウェア、システムROM、オプションのファームウェアなどを、最新のバージョンに更新してください。
- ダミートレー、プロセッサヒートシンクブランクカバー、電源ユニットブランクカバーなど、すべてのエアダクトおよび必要なブランクが取り付けられていることを確認してください。
- 正しいプロセッサヒートシンクが取り付けられていることを確認してください。
- システムで標準ファンと高性能ファンの両方がサポートされている場合は、正しいファンが取り付けられていることを確認してください。

[?] 冷却ファンが過剰な雑音を出しながら低速で回転している。

→ 冷却ファンを交換してください。

[?] ホットプラグ対応の冷却ファンが正しく動作しない。

- サーバーのランプのステータスを確認してください。
- POSTのエラーメッセージが表示されているかを確認してください。
- ホットプラグ対応の冷却ファンの要件が満たされているかを、サーバーのユーザーズガイドで確認してください。

[?] TPMがシステムユーティリティから検出されなくなった。

→ 保守サービス会社に連絡し、新しいマザーボードとTPMキットに交換してください。

[?] メモリが正しく動作しない。

- メモリスロットに対応するサーバーのランプを確認してください。
- メモリがサーバー要件が満たされているかを、サーバーのユーザーズガイドで確認してください。
- メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- システムROMを最新版に更新してください。
- DIMMが取り付け順序に従って、取り付けられているかを確認してください。
- DIMMを取り付け直してください。
- DIMMを交換してください。
- 他社製のメモリを使用している場合は、すべて取り外してください。

[?] サーバーのメモリ容量が不足している。

- メモリがサーバー要件が満たされているかを、サーバーのユーザーズガイドで確認してください。
- OSのシステムエラーが示されていないかを確認してください。
- システムROMを最新版に更新してください。

[?] DIMMについて、POSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示される。

- アドバンスドメモリプロテクションが設定され、DIMMが正しく取り付けられていることを確認してください。
- DIMMがサーバーにサポートされているかを確認してください。
- サーバー上のすべてのDIMMに関連付けられたプロセッサが取り付けられていることを確認してください。
- システムROMを最新版に更新してください。

[?] 既存のメモリがサーバーで認識されない。

- サーバーに取り付けられているプロセッサがサーバーでサポートされているかを確認してください。
- サーバー上のすべてのDIMMに関連付けられたプロセッサが取り付けられていることを確認してください。
- メモリが正しく構成されているかを、サーバーのユーザーズガイドで確認してください。
- DIMMを取り付け直してください。
- システムROMを最新版に更新してください。
- DIMMを交換してください。

[?] サーバーに取り付けられている新しいメモリがサーバーで認識されない。

- メモリがサーバーに適したタイプであることを確認してください。
- メモリがサーバーの要件に従って取り付けられていることを、サーバーのユーザーズガイドで確認してください。
- サーバーまたはOSで許容されるメモリ容量を超えていないかを、サーバーのユーザーズガイドで確認してください。
- サーバーがプロセッサコアの数をサポートしているかを、サーバーのユーザーズガイドで確認してください。
- IMLにイベントリストエラーメッセージが表示されているかを確認してください。
- メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- 既存のメモリとの競合がないことを確認するために、サーバーのセットアップユーティリティを実行してください。
- メモリが故障している場合は、交換してください。
- システムROMを最新版に更新してください。

[?] STOPエラー発生またはブルースクリーン（Windows）、パープルスクリーン（VMware）になる。

- DIMMを取り付け直してください。
- システムROMを最新版に更新してください。
- DIMMを交換してください。

[?] Linuxカーネルパニックが発生する。

- DIMMを取り付け直してください。
- システムROMを最新版に更新してください。
- DIMMを交換してください。

[?] サーバーが予期せずに再起動したり、電源が切断したりする。

- DIMMを取り付け直してください。
- システムROMを最新版に更新してください。
- DIMMを交換してください。

[?] パリティエラーが発生する。

- DIMMを取り付け直してください。
- システムROMを最新版に更新してください。
- DIMMを交換してください。

[?] パフォーマンスが低下している。

- DIMMを取り付け直してください。
- システムROMを最新版に更新してください。
- DIMMを交換してください。

[?] メモリのステータスランプがアンバー色である。

- DIMMを取り付け直してください。
- システムROMを最新版に更新してください。
- DIMMを交換してください。

[?] ECCエラーが発生する（他の症状はなし）。

- DIMMを取り付け直してください。
- システムROMを最新版に更新してください。
- DIMMを交換してください。

[?] NVDIMMの復元エラーを示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示される。

→ 障害が発生したNVDIMMを取り外して、交換します。

[?] NVDIMMのバックアップエラーを示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示される。

→ NVDIMMをサニタイズしてください。

→ エラーが解決しない場合は、NVDIMMを交換してください。

[?] NVDIMMの訂正不能なメモリエラーを示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示される。

→ NVDIMMをサニタイズしてください。

→ エラーが解決しない場合は、NVDIMMを交換してください。

[?] NVDIMM-Nメモリーインターリーブが有効になっている場合に、プロセッサ上のすべてNVDIMMが無効になる。

→ NVDIMMをサニタイズしてください。

→ エラーが解決しない場合は、NVDIMMを交換してください。

[?] NVDIMM-Nメモリーインターリーブが無効になっている場合に、指定されたNVDIMMのみが無効になる。

→ NVDIMMをサニタイズしてください。

→ エラーが解決しない場合は、NVDIMMを交換してください。

[?] NVDIMMのバックアップ電源エラーを示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示される。

→ フラッシュバックアップユニット(FBU)が正しく取り付けられ、機能していることを確認してください。

→ NVDIMMおよびDIMMを取り付け直してください。

→ エラーが解決しない場合は、NVDIMMを交換してください。

[?] NVDIMMコントローラーのエラーを示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが登録される。

→ NVDIMMファームウェアを更新してください。

→ エラーが解決しない場合は、NVDIMMを交換してください。

[?] NVDIMMの消去エラーを示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが登録される。

→ 以下の手順で新しいNVDIMMにデータをコピーしてください。

1. データを保持するために、NVDIMMの内容を他のメディアに保存してください。
2. NVDIMMを交換してください。
3. 新しいNVDIMMをサニタイズしてください。
4. 保持したデータを新しいNVDIMMにコピーしてください。

[?] NVDIMMの装備エラーを示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが登録される。

→ 以下の手順で新しいNVDIMMにデータをコピーしてください。

1. データを保持するために、NVDIMMの内容を他のメディアに保存してください。
2. NVDIMMを交換してください。
3. 新しいNVDIMMをサニタイズしてください。
4. 保持したデータを新しいNVDIMMにコピーしてください。

[?] NVDIMMのサニタイズエラーを示すPOSTエラーメッセージが登録される。

→ NVDIMMのサニタイズを再試行してください。

→ エラーが解決しない場合は、NVDIMMを交換してください。

[?] NVDIMMがすでに取り付けられているサーバーに1つまたは複数の新しいNVDIMMが取り付けられると、すべてのNVDIMMが無効になっていることを示すエラーメッセージが登録される。

- 次のどちらかの手順を実行してください。
 - ・ サーバー内の既存のNVDIMMを引き続き使用する場合は、新たに取り付けられたNVDIMMを取り外してください。
 - ・ サーバー内のすべてのNVDIMMを使用する場合は、指定されたNVDIMMをサニタイズしてください。

[?] NVDIMMインターリーブが無効になっている場合に、壊れているメタデータを含むNVDIMMのみが無効になる。

- メタデータが壊れていることが原因で無効になったすべてのNVDIMMをサニタイズしてください。

[?] NVDIMMインターリーブが有効になっている場合に、プロセッサ上のすべてNVDIMMが無効になる。

- メタデータが壊れていることが原因で無効になったすべてのNVDIMMをサニタイズしてください。

[?] プロセッサX上のすべてのNVDIMMが無効になっている。

- このサーバーから1つまたは複数のNVDIMMが取り外され、サーバーでNVDIMM-Nメモリーインターリーブが有効になっているのが原因です。次のいずれかの手順を実行してください。
 - ・ 欠落しているNVDIMMを取り付け直してください。
 - ・ より小さいインターリーブセットの使用を開始するには、プロセッサX上のすべてのNVDIMMをサニタイズしてください。

[?] メモリ初期化エラーまたは訂正不能なエラーを示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが登録される。NVDIMMインターリーブが有効になっている場合に、プロセッサX上のすべてのNVDIMMが無効になる。NVDIMMインターリーブが無効になっている場合に、影響を受けるNVDIMMのみが無効になる。

- サーバーにNVDIMMとすべてのDIMMを取り付け直してください。
- このエラーが原因で無効になったすべてのNVDIMMをサニタイズしてください。
- エラーが解決しない場合は、NVDIMMを交換してください。

[?] POSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが登録される。NVDIMMインターリーブが有効になっている場合に、プロセッサX上のすべてのNVDIMMが無効になる。NVDIMMインターリーブが無効になっている場合に、影響を受けるNVDIMMのみが無効になる。

- ☐ サーバーがNVDIMMが使用されていた元のサーバーと一致せず、NVDIMM-Nメモリーインターリーブが有効になっていますか？
 - プロセッサを取り外して、以前に取り付けられていたプロセッサタイプと交換してください。
 - サーバーを再起動してください。
 - データを保持するために、NVDIMMの内容を他のメディアに保存してください。
 - プロセッサを取り外して、新しいプロセッサと交換してください。
 - システム内のすべてのNVDIMMをサニタイズしてください。
 - NVDIMMにデータを復元してください。
 - エラーが解決されない場合は、NVDIMMをサニタイズしてください。NVDIMM上のデータは失われます。

□ NVDIMMの場所を変更しましたか？

- データを保持するには、メッセージで示された場所にNVDIMMを取り付けてください。
- メッセージで示されたすべてのNVDIMMをサニタイズしてください。サニタイズ後は、NVDIMM上のデータは使用できなくなります。

[?] NVDIMMのQPIスヌープのエラーメッセージが受信され、プロセッサ上のすべてのNVDIMMが無効になる。

- 次のいずれかの手順を実行してください。
 - ・ 以前のシステムと一致するようにQPIスヌープ構成の設定を変更してください。
 - ・ エラーで示されたすべてのNVDIMMをサニタイズしてください。サニタイズ後は、NVDIMM上のデータは使用できなくなります。

[?] POSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示され、NVDIMMがシステムで無効になっている。(NVDIMM-Nメモリーインターリーブが有効になっている場合に、プロセッサX上のすべてのNVDIMMが無効)

- 以前はNVDIMM-Nメモリーインターリーブが有効になっているサーバーでNVDIMMが使用されていたが、現在このサーバーがNVDIMM-Nメモリーインターリーブが無効になるように構成されているか？
- 次のいずれかの手順を実行してください。
 - ・ NVDIMMのNVDIMM-Nメモリーインターリーブ設定をサーバーと同じ設定に変更してから、サーバーを再起動してください。再起動後は、NVDIMM上のデータを使用できます。設定方法は以下のとおりです。
 - NVDIMM-Nメモリーインターリーブが有効になっているサーバーにNVDIMMが取り付けられていた場合は、システムユーティリティでNVDIMM-Nメモリーインターリーブを有効にしてください。
 - ・ 指定されたすべてのNVDIMMをサニタイズしてください。サニタイズ後は、NVDIMM上のデータは使用できなくなります。

[?] POSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示され、NVDIMMがシステムで無効になっている。(NVDIMM-Nメモリーインターリーブが無効になっている場合に、影響を受けるNVDIMMのみが無効)

- 以前はNVDIMM-Nメモリーインターリーブが無効になっているサーバーでNVDIMMが使用されていたが、現在このサーバーがNVDIMM-Nメモリーインターリーブが有効になるように構成されているか？
- 次のいずれかの手順を実行してください。
 - ・ NVDIMMのNVDIMM-Nメモリーインターリーブ設定をサーバーと同じ設定に変更してから、サーバーを再起動してください。再起動後は、NVDIMM上のデータを使用できます。設定方法は以下のとおりです。
 - NVDIMM-Nメモリーインターリーブが無効になっているサーバーにNVDIMMが取り付けられていた場合は、システムユーティリティでNVDIMM-Nメモリーインターリーブを無効にしてください。
 - ・ 指定されたすべてのNVDIMMをサニタイズしてください。サニタイズ後は、NVDIMM上のデータは使用できなくなります。

[?] POSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示され、プロセッサX上のすべてのNVDIMMが無効になっている。

- 以前はチャンネルインターリーブが有効になっているサーバーにNVDIMMが取り付けられていたが、現在のサーバーでチャンネルインターリーブが無効になっているか？
- 次のいずれかの手順を実行してください。
- ・ システムユーティリティでチャンネルインターリーブ設定を変更してください。設定方法は以下のとおりです。
 - チャンネルインターリーブが有効になっているサーバーにNVDIMMが取り付けられていた場合は、システムユーティリティでチャンネルインターリーブを有効にしてください。
 - ・ プロセッサX上のすべてのNVDIMMをサニタイズしてください。
- 以前はチャンネルインターリーブが無効になっているサーバーにNVDIMMが取り付けられていたが、現在のサーバーでチャンネルインターリーブが有効になっているか？
- 次のいずれかの手順を実行してください。
- ・ システムユーティリティでチャンネルインターリーブ設定を変更してください。設定方法は以下のとおりです。
 - チャンネルインターリーブが無効になっているサーバーにNVDIMMが取り付けられていた場合は、システムユーティリティでチャンネルインターリーブを無効にしてください。
 - ・ プロセッサX上のすべてのNVDIMMをサニタイズしてください。

[?] POSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示され、システム内のすべてのNVDIMMが無効になっている。

- システムユーティリティでノードインターリーブを無効にしてください。
- アドバンスドメモリプロテクションの設定をアドバンスドECCに変更してください。

[?] フラッシュバックアップユニット(FBU)が十分に充電されていないことを示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが登録される。

- 引き続きNVDIMMを使用するには、以下のいずれかの手順を実行してください。
- ・ NVDIMM-Nバックアップ電源ポリシーを[起動時のバックアップ電源として待機]に変更してください。
 - ・ すでにNVDIMM-Nバックアップ電源ポリシーが[起動時のバックアップ電源として待機]に構成されている場合は、サーバーを再起動してください。
 - ・ フラッシュバックアップユニット(FBU)が十分に充電されるまで待機してください。

[?] システム上のNVDIMMがサポートされていないことを示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示される。

- NVDIMMをサポートされているメモリNVDIMMに交換してください。

[?] POSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示され、システムが停止される。

- サポートされていないキャパシターパックをシステムから取り外し、フラッシュバックアップユニット(FBU)を取り付けてください。

[?] システムのSystem Programmable Logic DeviceリビジョンがNVDIMMを使用した操作の最小要件を満たしていないことを示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示される。

- すべてのNVDIMMをサーバーから取り外してください。

[?] プロセッサについてのPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示される。

- 各プロセッサが、サーバーによってサポートされており、サーバーのドキュメントの指示どおりに取り付けられていることを確認してください。プロセッサソケットは非常に特殊な取り付け手順を必要とするため、サポートされているプロセッサだけを取り付けてください。
- サーバーROMが最新のものであることを確認してください。
- サーバーで、ステッピング、コア速度、またはキャッシュサイズの異なるプロセッサの混在をサポートしていない場合は、これらの点で異なるプロセッサを混在させていないことを確認してください。
- サーバーにプロセッサが1基だけ取り付けられている場合は、プロセッサを取り付け直してください。
- サーバーにプロセッサが1基だけ取り付けられている場合は、正常に機能することがわかっているプロセッサと交換してください。
- サーバーに複数のプロセッサが取り付けられている場合は、以下の手順に従って各プロセッサをテストします。
 1. プロセッサを1基だけ残して、もう1基のプロセッサをサーバーから取り外してください。サーバーでブランクカバーを使用している場合は、そのまま残します。
 2. 取り外していないプロセッサを正常に機能することがわかっているプロセッサと交換してください。各プロセッサを1基ずつ取り付け、そのたびに再起動してみます。これにより、故障しているプロセッサ（複数の場合もあります）が見つかります。各手順で、サーバーがプロセッサの構成をサポートしていることを確認してください。

[?] 訂正不能なマシンチェック例外を示すPOSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが表示される。

- プロセッサを交換してください。

[?] 低電力または電力損失を示すエラーメッセージが表示される。

- バッテリーを交換してください。

[?] マザーボードと電源バックプレーンのいずれかで問題が発生していることを示すPOSTメッセージまたはIMLメッセージが表示される。

- 他のコンポーネントに関わって発生する可能性がある問題についてすべてのエラーメッセージを確認し、特定されたコンポーネントのトラブルシューティングを確認してください。
- マザーボードまたは電源バックプレーンに接続不良がないことを確認してください。プロセッサを取り付け直す必要はありません。
- 最近追加されたコンポーネントがあれば取り外してください
- 電源を切り、サーバーからすべての電源を取り外したあと、リチウム電池を取り外して、10分間待ってください。バッテリーを取り付け直して、サーバーの電源を入れてください。
- システムユーティリティ<F9>を使用して、システム設定をデフォルト値に戻してください。システムが起動しない場合にシステム設定をデフォルト値に戻すには、ジャンパスイッチSW6を使用してください。
- 必要な情報を収集し、NECサポートに問い合わせてください。

[?] システムがUSBドライブから起動しない。

- システムユーティリティでUSBが有効になっていることを確認してください。
- システムユーティリティの「UEFI Boot Order」あるいは「Legacy BIOS Boot Order」において、サーバーがUSBドライブから起動するように設定されていることを確認してください。
- USBドライブキーを取り付け直してください。
- USBドライブキーを別のUSBポート（使用可能な場合）に取り付け直してください。

[?] テープドライブがスタックし、取り出せない。

- イジェクトスイッチを手動で押し、テープの巻き戻しと取り出しが行われるまで最大10分待ってください。
- 強制取り出しを実行します。
 1. イジェクトスイッチを10秒以上押し続けてください。
 2. テープの巻き戻しと取り出しが行われるまで最大10分待ちます。緑色のレディランプが点滅します。
- ドライブの電源を切って入れ直し、ドライブが再びレディ状態になるまで最大10分待ってください。
- バックアップソフトウェアサービスで競合が発生していないかどうかを確認してください。
- ドライブのSAS/HBA/ドライバー構成を調べてください。
- メディアとケーブルを調べ、故障しているものや損傷しているものがあれば廃棄してください。

[?] テープドライブで読み取りまたは書き込みの問題が発生している。

- StorageWorks Library and Tape ToolsでDrive Assessment Testを実行してください。



Drive Assessment Test を実行するとテープは上書きされます。テープが上書きされると困る場合は、代わりにログベースの Device Analysis Test を実行してください。

- StorageWorks Library and Tape ToolsでMedia Assessment Testを実行してください（これは読み取り専用のテストです）。

[?] テープドライブのバックアップが問題なく完了しない。

- StorageWorks Library and Tape ToolsでDrive Assessment Testを実行してください。



Drive Assessment Test を実行するとテープは上書きされます。テープが上書きされると困る場合は、代わりにログベースの Device Analysis Test を実行してください。

- バックアップログを調べてください。
- 使用している構成がサポートされているかどうか確認します。
- 次の点について調べ、メディアが損傷していないかどうか確認してください。
 - ・ ラベルの位置が間違っていないか。
 - ・ リーダーピンに損傷、脱落、または緩みがないか。
 - ・ カートリッジの継ぎ目に損傷がないか。
 - ・ 不正な環境で使用していないか。
- ソフトウェアの問題を確認してください。
 - ・ バックアップソフトウェアを調べてください。
 - ・ バックアップの実行時に、ウィルススキャンソフトウェアの実行がスケジュールされていないかどうか調べてください。
- テープをフォーマットできるかどうか確認してください。
- 正しい部品番号のメディアが使用されているかどうか確認してください。
- StorageWorks Library and Tape Toolsを使用してサポートチケットを抽出してください。
 - ・ カートリッジSTATUSセクションで問題を探します。
 - ・ ドライブSTATUSセクションで問題を探します。

- テープエラーランプが点滅していないかを調べてください。
 1. 問題の原因になっている可能性のあるテープを再ロードします。テープエラーランプの点滅が停止すれば、問題ありません。
 2. 新しいテープまたは問題のないことがかっているテープをロードします。テープエラーランプの点滅が停止すれば、問題ありません。
 3. 問題の原因になっている可能性のあるテープを再ロードします。テープエラーランプが点滅する場合は、そのテープを故障と判断して廃棄してください。
- 温度が45°Cを超えるかまたは5°C未満の環境で使用されたメディアは廃棄してください。

[?] サーバーの電源を投入してから60秒以上画面に何も表示されない。

- モニターの電源コードが、正常に機能しているアース付きコンセントに接続されていることを確認してください。
- モニターの電源を入れ、モニターの電源ランプが点灯して、モニターに電源が供給されていることを確認してください。
- モニターが対象のサーバーまたはコンソールスイッチにケーブル接続されていることを確認してください。
- 次の接続を確認して、接続不良がないことを確認してください。
 - ・ ラックマウント型サーバーの場合は、コンソールスイッチに接続されているケーブルを調べてください。また、スイッチがサーバー用に正しく設定されていることを確認してください。モニターを直接サーバーに接続して、コンソールスイッチが故障していないことを確認する必要がある場合もあります。
 - ・ タワー型サーバーの場合は、モニターからサーバー、サーバーからコンセントまでのケーブルの接続を調べてください。
 - ・ ブレードの場合、c-ClassブレードのSUVケーブルが、モニターのVGAケーブルおよびブレード前面のコネクタと接続されていることを確認してください
- どれかキーを押すか、またはパスワードを入力して、画面がアクティブになるまでしばらく待って、省電力機能が有効になっていないことを確認してください。
- PCIeデバイスやグラフィックコントローラーの動作に、追加の電力が不要であることを確認してください。
- オンボードビデオの代わりに、ビデオ拡張ボードが追加されていないことを確認してください。ビデオ拡張ボードが追加されていると、ビデオが機能していないように見えることがあります。オンボードビデオからビデオケーブルを外して、拡張ボード上のビデオジャックに接続し直してください。



すべてのサーバーでは、ビデオ拡張ボードが搭載されている場合、オンボードビデオは自動的に無効になります。

- どれかキーを押すか、またはパスワードを入力して、画面がアクティブになるまでしばらく待って、電源投入時パスワード機能が有効になっていないことを確認してください。また、POSTが完了したときに画面に鍵の形のアイコンが表示されるかどうかでも電源投入時パスワードが有効になっているかどうかわかります。パスワードがわからない場合は、マザーボードのパスワードの無効スイッチを使用して、電源投入時パスワードを無効にする必要があります。
- PCIホットプラグ対応スロットにビデオ拡張ボードが取り付けられている場合は、該当するスロットの電源ランプをチェックして、スロットに電源が供給されていることを確認してください。
- サーバーおよびOSがビデオ拡張ボードをサポートしていることを確認してください。

→ ビデオのドライバーが最新のものであることを確認します。

[?] 省電力機能を使用すると、モニターが正常に機能しない。

→ モニターが省電力機能をサポートしていることを確認してください。サポートしていない場合は、この機能を無効にしてください。

[?] モニターにビデオの色が間違っ表示される。

- 15ピンVGAケーブルがサーバーの正しいVGAポートとモニターにしっかりと接続されていることを確認してください。
- モニターおよびコンソールスイッチが、サーバーのVGA出力と互換性があることを確認してください。
- VGAケーブルが損傷していないことを確認してください。動作が確認されているケーブルと交換してください。

[?] 動きの遅い水平線がモニターに表示される。

→ 電磁障害が発生していないことを確認してください。モニターを他のモニターや変圧器から遠ざけてください。

[?] マウスとキーボードが正しく動作しない。

- 次の点を確認して、接続不良がないことを確認してください。
 - ・ コンソールスイッチングデバイスを使用している場合は、サーバーがスイッチに正しく接続されていることを確認します。
 - ・ ラック型サーバーの場合は、スイッチボックスまでのケーブルを調べてください。また、スイッチがサーバー用に正しく設定されていることを確認します。
 - ・ タワー型サーバーの場合は、入力デバイスからサーバーまでのケーブルの接続を調べてください。
- コンソールスイッチングデバイスを使用している場合は、すべてのケーブルとコネクタが適切な長さで、スイッチによりサポートされていることを確認してください。スイッチのドキュメントを参照してください。
- オペレーティングシステム用の最新のドライバーがインストールされていることを確認してください。
- デバイスドライバーを入れ替えて、デバイスドライバーが壊れていないことを確認してください。
- システムを再起動して、サーバーの再起動後、入力デバイスが正しく機能するかどうかを確認してください。
- 正常に機能することがわかっている同等のデバイス（同タイプの別のマウスまたはキーボード）とデバイスを交換してください。
 - ・ 新しいマウスやキーボードでも問題が発生する場合は、システムI/Oボードのコネクタポートが故障しています。ボードを交換してください。
 - ・ 問題が発生しなくなった場合は、元の入力デバイスが故障しています。デバイスを交換してください。
- キーボードやマウスが正しいポートに接続されていることを確認してください。POSTの実行中にキーボードのランプが点滅するか、NumLock ランプが点灯することを確認してください。これが確認されなかった場合は、接続ポートを変えてください。
- キーボードやマウスに汚れがないことを確認してください。

[?] BitLockerで暗号化されているサーバーで拡張ボードを交換する間に、システムからリカバリーメソッドが要求される。

- BitLockerで暗号化されているサーバーの拡張ボードを交換する場合は、拡張ボードを交換する前に必ずBitLockerを無効にしてください。BitLockerを無効にしていない場合、システムは、BitLockerが構成されたときに選択されたリカバリーメソッドを要求します。1つまたは複数の正しいリカバリーパスワードを入力できないと、暗号化されているすべてのデータにアクセスできなくなります。取り付けが完了してからBitLockerを有効にしてください。

[?] ネットワークコントローラーまたはLOMカードが動作していない。

- ネットワークコントローラーまたはLOMカードのランプを調べて、問題の原因を示すステータスがあるかどうかを確認してください。
- 接続不良がないことを確認してください。
- ネットワーク速度に適した正しい種類のケーブルが使用されていること、あるいは正しいSFPまたはDACケーブルが使用されていることを確認してください。デュアルポートの10 GBネットワークデバイスの場合、両方のSFPポートのメディア（DACケーブルや同等のSFP+モジュールなど）が同じである必要があります。1台のデバイスに種類が異なるSFP（SR/LR）が混在することはサポートされていません。
- ネットワークケーブルを正常に機能することがわかっているケーブルと交換して、このネットワークケーブルが機能していることを確認してください。
- ソフトウェアの問題が障害の原因になっているのではないことを確認してください。
- サーバーおよびオペレーティングシステムがコントローラーをサポートしていることを確認してください。
- システムユーティリティでコントローラーが有効になっていることを確認してください。
- サーバーのROMが最新バージョンであることを確認してください。
- コントローラーのドライバーが最新バージョンであることを確認してください。
- コントローラーに有効なIPアドレスが割り当てられ、構成設定が正しいことを確認してください。

[?] ネットワークコントローラーまたはLOMカードが動作しなくなった。

- ネットワークコントローラーまたはLOMカードのランプを調べて、問題の原因を示すステータスがあるかどうかを確認してください。
- コントローラー用の正しいネットワークドライバーがインストールされ、ドライバーファイルが壊れていないことを確認してください。ドライバーを再インストールしてください。
- 接続不良がないことを確認してください。
- ネットワークケーブルを正常に機能することがわかっているケーブルと交換して、このネットワークケーブルが機能していることを確認してください。
- ネットワークコントローラーまたはLOMカードが損傷していないことを確認してください。

[?] サーバーに拡張ボードを追加したらネットワークコントローラーまたはLOMカードが動作しなくなった。

- 接続不良がないことを確認してください。
- サーバーおよびオペレーティングシステムがコントローラーをサポートしていることを確認してください。
- 新しい拡張ボードを取り付けた場合、ネットワークドライバーを再インストールして、サーバーの構成が変更されないようにしてください。
 1. オペレーティングシステムで、機能していないコントローラーのネットワークコントローラードライバーをアンインストールします。

2. サーバーを再起動して、システムユーティリティの適切なオプションを実行します。サーバーがコントローラーを認識し、コントローラーがリソースを使用できることを確認します。
 3. サーバーを再起動して、ネットワークドライバーを再インストールします。
- 適切なドライバーがインストールされていることを確認してください。
 - ドライバーのパラメーターがネットワークコントローラーの構成と一致していることを確認してください。

[?] ネットワークインターコネクトブレードに問題が発生している。

- ネットワークインターコネクトブレードが正しく固定され接続されていることを確認してください。

[?] POSTプロセス中にコントローラーが表示されない、またはエラーが表示される。

- コントローラーがサーバーでサポートされていることを確認してください。
- コントローラーが正しく取り付けられているか、固定されているかを確認してください。
- ケーブルが正しく接続されているかを確認してください。
- コントローラーが物理的に損傷していたら、交換してください。
- コントローラーがシステムBIOSで認識されている場合は、コントローラーを取り付け直してください。
- コントローラーの診断を実行し、表示された手順に従ってください。
- ファームウェアを最新のバージョンに更新してください。
- Active Health Systemログをダウンロードしてください。

[?] コントローラーの冗長化が失われた(POSTプロセス中にエラーが表示されない、またはキャッシュが無効になっている)

- コントローラーがサーバーでサポートされていることを確認してください。
- 複数のコントローラーが正しく取り付けられているか、固定されているかを確認してください。
- ケーブルが正しく接続されているかを確認してください。
- コントローラーが物理的に損傷していたら、交換してください。
- コントローラーの診断を実行し、表示された手順に従ってください。
- 複数のコントローラーが互換性のあるモデルであることを確認してください。
- コントローラーのキャッシュサイズに互換性があることを確認してください。
- フラッシュバックアップユニット(FBU)が正しく取り付けられ、接続されていることを確認してください。
- ファームウェアを最新のバージョンに更新してください。
- Active Health Systemログをダウンロードしてください。

[?] Smartアレイコントローラー用にフラッシュバックアップユニット(FBU)が構成されている任意のサーバーで、POSTエラーメッセージまたはIMLメッセージが登録される。

- フラッシュバックアップユニット(FBU)が適切に取り付けられていることを確認してください。
- フラッシュバックアップユニット(FBU)が完全に充電されていることを確認してください。
- システムROMを更新してください。

[?] 古いMini-SASケーブルの使用時に、エラー、再試行、タイムアウト、および保証対象外のドライブ障害が発生する。

- Mini-SASコネクタの製品寿命は、接続/切断回数250回です（外部、内部、およびケーブルMini-SASコネクタ）。
- 寿命が近づいている古いMini-SASケーブルを使用している場合は、交換してください。

[?] SUVケーブルに接続されている場合に、USBデバイスが認識されない、エラーメッセージが表示される、またはデバイスの電源が入らない。

- USBデバイスを取り外し、次のいずれかを実行してください。
 - ・ 必要とする電源が500mA未満のUSBデバイスを接続してください。
 - ・ 外部電源のUSBハブをSUVケーブルに接続し、USBデバイスをハブに接続してください。

[?] LAN コントローラーのフロー制御について

- フロー制御（Flow Control）を「Auto Negotiation」、「Rx & Tx Enabled」、「Tx Enabled」または「送信 有効」、「送信/受信有効」に設定している場合、受信負荷が高い状態においてシステムハングなどの要因でOSのパケット処理が停止するとPauseFrame が継続して送信されることがあります。このときスイッチ側には大量のパケットが滞留するためスイッチ内のバッファが不足し、スイッチに接続されたすべての通信機器に影響が出ることがあります。このようなケースを回避するためには、フロー制御を「Disabled」または「無効」に設定してください。

[?] N8104-173/177 FCoE機能のサポートについて

- 本製品ではFCoE(FibreChannel over Ethernet)機能をNEC としてサポートしておりません。
N8104-173 ではLOM カードに適用されているファームウェアバージョンに関わらず、N8104-177 ではFamily Firmware Version 8.35.43 以降でFCoE 機能が有効化されています。
OS 上でFCoE デバイスとして認識されますが、OS やドライバーで機能利用の設定をしないことで、運用上の影響はありません。
以下のデバイスの検出は無視していただいて構いません。
 - HPE 533FLR-T FCoE Device
 - HPE 622FLR-SFP28 FCoE Device

[?] 内蔵DVD-ROM(N8151-137/138)表示について

- Embedded SATA Configuration設定(*1)を [Smart Array SW RAID Support] 設定時、運用環境によりDisk Utilitiesメニュー(*2)に内蔵DVDドライブ情報が2つ表示されます。
どちらのドライブを選択した場合でも同じ内蔵DVDの情報が参照できます。
(*1) 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Storage Options > SATA Controller Options > Embedded SATA Configuration」
(*2) 「System Configuration > HPE Smart Array S100i SR Gen10 > Disk Utilities」

5.7 OS 運用時のトラブル

[?] Windowsの動作が不安定

- Standard Program Package を適用しましたか？
 - OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。「インストレーションガイド(Windows編)」の「Standard Program Package の適用」を参照してStandard Program Packageを適用してください。

[?] Windowsでキーボードが正しく動作しない。(押したキーと入力される文字が異なる)

- 押したキーと入力される文字が異なる場合は、日本語配列以外のキーボードとして認識されています。次の手順で日本語配列に変更します。

例) ・ <@>を押すと他の記号が入力される。

- ・ <Shift>を押しながら <2> を押すと「@」が入力される。
- ・ <Shift>を押しながら <7> を押すと「&」が入力される。

- (1) 管理者(Administrator など)権限でサインインします。

「Starter Pack」DVD をセットし、次のファイルを実行してください。

<Starter Pack DVD>:\software\001\win\kblayout\kblayout_jp.reg

- (2) システムを再起動します。

押したキーの文字が正しく入力できることを確認します。

[?] ブルー画面(STOPエラー画面)で電源OFFができない

- POWERスイッチを押し続けていますか？
 - POWERスイッチを4秒以上押し続け、強制的に電源をOFFにしてください。

[?] バックアップツールからシステムをリストア後、動作がおかしい

- EXPRESSBUILDERを使ってStandard Program Packageを適用してください (「インストレーションガイド(Windows編)」の「Standard Program Packageの適用」を参照)。

[?] ネットワーク上で認識されない

- ケーブルを接続していますか？
 - 本機背面にあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインターフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。
- システムの設定を間違えていませんか？
 - システムユーティリティで内蔵のネットワークコントローラーを無効にできます。システムユーティリティで設定を確認してください。
- プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？
 - 本体ネットワークコントローラー用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。
- 転送速度の設定を間違えていませんか？
 - 接続しているハブと転送速度やデュプレックスモードが同じであることを確認してください。

[?] Linux環境でシステム起動時に、RX dropped packetが発生する

- システム起動時にRX dropped packetが発生する場合がありますが、運用には問題ありません。運用中もしくは通信不通時にRX dropped packetが発生した場合は、システムおよびネットワーク環境を確認してください。

[?] OSが止まってしまう

- 最新のウィルススキャンユーティリティを使用してウィルスをスキャンしてください。
- イベントログを確認してください。
- IMLを確認してください。
- 必要に応じて、確認できるように、NMIクラッシュダンプ情報を収集してください。
- Active Health Systemログを取得し、その内容を保守サービス会社または販売店へ連絡してください。

[?] エラーログにエラーメッセージが表示される

- エラーログに表示された情報に従ってください。

[?] Windows OS上に仮想インストールディスク(「VID」という名称のドライブ)が存在する

- 次の手順で仮想インストールディスクを無効にすることができます。



仮想インストールディスクには、Windows OS のインストール時に使用するドライバークラスが保存されています。

Manual オプションでインストールすると、仮想インストールディスクが自動的に有効化され、必要なドライバークラスを自動的にインストールします。

1. POST 時に<F10>キーを押し、EXPRESSBUILDER を起動します。
2. EXPRESSBUILDER から起動後、[メンテナンスの実行]をクリックします。
3. [クイック構成]をクリックします。
4. [BIOS/プラットフォーム構成(RBSU)] - [システムオプション] - [USB オプション] - [仮想インストールディスク] - 「無効」に設定します。
5. 左ペインの [BIOS/プラットフォーム構成(RBSU)] をクリックし、[更新] をクリックします。
6. 再起動後、VID が無効化されます。

[?] システムに組織名、所有者名を設定したい

- 次のレジストリを編集します。

レジストリの編集には十分にご注意下さい。

1. 本機にインストール済みの Windows へ Administrator 権限のあるアカウントでサインインします。
2. 画面の左下隅を右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
3. 「regedit.exe」と入力し、<Enter>キーを押してレジストリ エディターを起動します。
4. レジストリ エディターで、2つのキー配下にレジストリの値に任意の組織名および所有者名を設定します。
 - ・ HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion
 - ・ HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion

名前: RegisteredOrganization
 種類: REG_SZ
 値: 任意の組織名
 値名: RegisteredOwner
 値型: REG_SZ
 値: 任意の所有者名
5. レジストリ エディターを終了します。

以上で完了です。

[?] バックアップソフトウェアのリストアなどで、UEFI Boot Orderに不要なブートエントリが追加される

→ 以下の手順で不要なブートエントリを削除します。

1. システムを再起動します。
2. POST 中に<F9> キーを押下し、システムユーティリティに入ります。
3. 「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Boot Options > UEFI Boot Settings > Delete Boot Option」に移動します。
4. 不要なブートエントリを選択し、「Commit changes and Exit」により削除します。
5. 「F12: Save and Exit」を選択し、「OK」を選択

[?] Windows Server 2019 でシステムイベントログの ソース : e1rexpess が正しく表示されない

→ メッセージが正しく表示されない場合がありますが、動作上問題はありません。

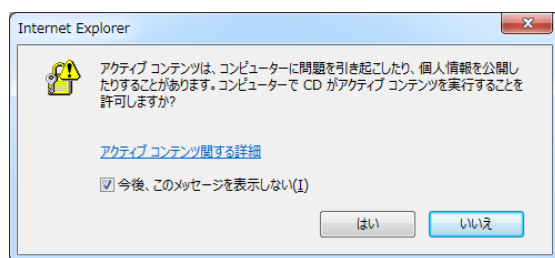
5.8 Starter Pack DVD のトラブル

[?] DVD起動からファームウェアアップデート時、Deploy may encounter issues due to the following warning(s) が表示されストップする

- ☐ Trusted Platform Module (TPM) を搭載していますか？
 - メッセージ表示画面上の「Exit」を押して終了後、システムユーティリティから、「System Configuration」 - 「BIOS/Platform Configuration(RBSU)」 - 「Server Security」 - 「Trusted Platform Module Options」 - 「TPM Visibility」を[Hidden]にし、再試行してください。

[?] 説明書が読めない

- ☐ Adobe Readerを正しくインストールしていますか？
 - 説明書は、PDFファイル形式で提供しています。あらかじめAdobe Readerをインストールしてください。
- ☐ 「Internet Explorerは動作を停止しました」とエラー表示されましたか？
 - ダイアログボックスをいったん閉じ、そのまま操作を続けてください。同じエラーが出るときは、DVDのルート下の"version.xml"をダブルクリックし、以下のダイアログボックスで「はい」を選択してください。その後、再度説明書のリンクをクリックするとファイルが開きます。



[?] メニュー項目が無効(淡色表示)になっている

- ☐ ご使用の環境は正しいですか？
 - 実行するソフトウェアによっては、管理者権限(Administrator)が必要となる場合や、本機上で動作することが必要となる場合があります。適切な環境にて実行してください。

[?] メニューが英語で表示される

- ☐ ご使用の環境は正しいですか？
 - Windowsが英語バージョンのとき、メニューは英語で表示されます。日本語メニューを起動したいときは、日本語バージョンのWindows上で動作させてください。
 - 「地域と言語のオプション」の各タブの設定がすべて「日本語」になっているか確認してください。

5.9 ソフトウェアのトラブル

[?] インストーラーが英語で表示される、またはエラーになる

□ ご使用の環境は正しいですか？

→ 「地域と言語のオプション」の各タブの設定がすべて「日本語」になっているか確認してください。

[?] ESMPRO/ServerAgentService (Windows版)について

→ ESMPRO/ServerAgentService (Windows版)の詳細は、Starter Pack内の「ESMPRO/ServerAgentService インストレーションガイド(Windows編)」を参照してください。

[?] ESMPRO/ServerAgentService (Linux版)について

→ ESMPRO/ServerAgentService (Linux版)の詳細は、Starter Pack内の「ESMPRO/ServerAgentService ユーザーズガイド(Linux編)」を参照してください。

[?] ESMPRO/ServerManagerについて

→ ESMPRO/ServerManagerの詳細は、「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」、またはESMPROのオンラインヘルプを参照してください。

5.10 光ディスクドライブのトラブル

[?] CD-ROMなどの光ディスクにアクセスできない、または正しく再生できない

- 光ディスクドライブのトレイに確実にセットしていますか？
→ トレーにはディスクを保持するホルダーがあります。ホルダーで確実に保持していることを確認してください。

[?] CD/DVDにアクセスできない、または正しく再生できない

- 本機で利用できるディスクですか？
- CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクは、再生する保証ができません。
- Macintosh専用のディスクは使えません。

[?] トレーイジェクトボタンを押してもディスクが取り出せない

- 次の手順に従ってディスクを取り出してください。
1. POWER スイッチを押して本機の電源を OFF (POWER ランプ消灯) にします。
 2. 直径約 1.2mm、長さ約 100mm の金属製のピン (太めのクリップを引き伸ばして代用可) を

トレイ前面の強制イジェクトホールに差し込み、トレイが出てくるまでゆっくりと押し
込み、トレイが出てくるまでゆっくりと押し
ます。



- つま楊枝やプラスチックなど折れやすいものを使用しないでください。
- トレーが出てこない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

3. トレーを手で持って引き出します。
4. ディスクを取り出します。
5. トレーを押して元に戻します。

5.11 補足事項

[?] Serial Number、Product IDが消失してしまった

- Serial Number、Product ID が消失してしまった場合、以下の手順にて復旧することができます。
1. 装置の電源を切り、電源コードをコンセントから外します。
 2. 30 秒以上経過したのち、電源コードをコンセントに接続します。
 3. POWER スイッチで装置の電源をON にします。
 4. サーバーが起動し、POST 画面が表示されます。
 5. <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。もし、システムユーティリティが起動できない状態になっている場合は、「2章(7.4.3 システム設定をデフォルト値に戻す)」を参照し、システムメンテナンススイッチを操作して、RBSU 設定の初期化をします。
 6. システムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、Serial Number と Product ID の値を確認します。
 7. Serial Number とProduct ID の値が期待する値の場合は、手順14)に進みます。
 8. Serial Number とProduct ID の値が期待する値ではない（消失している）場合は、システムユーティリティから、「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > System Default Options」を選択します。
 9. 「Restore Default Manufacturing Settings」を選択します。
 10. 「Yes, restore the default settings.」を選択します。
 11. 自動的に装置が再起動し、POST 画面が表示されます。
 12. <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
 13. 装置のスライドタグに記載されているSerial Number とProduct ID をシステムユーティリティの「System Configuration > BIOS/Platform Configuration (RBSU) > Advanced Options > Advanced Service Options」メニューより、設定します。



Product ID とは、『N8100-2779Y』のような型番のことです。

14. RBSU 設定項目をデフォルト値から変更されている場合は、そのRBSU 項目の確認と再設定をします。

● **Windows Server2012R2/2016/2019 環境構築後、CPU ボードの構成変更を行う場合の注意事項**

- 1) 次の Option に固定 IP アドレス/固定 DNS を設定している場合、以下の手順で増設 CPU ボードを増設してください(CPU 増設後も固定 IP アドレス設定を引き継ぐために本手順が必要です)。
 - N8104-182 10GBASE-T 接続ボード(2ch)
 - N8104-183 10GBASE-T 接続ボード(2ch)
 - N8104-185 10GBASE 接続基本ボード(SFP+/2ch)
 - N8104-187 25GBASE 接続基本ボード(SFP28/2ch)
 - PCI-to-PCI ブリッジを持つ増設 PCI カード

- (a). 該当のオプションを参照するサービスが自動起動しないように設定を変更し、サービスを停止する。また、該当のオプションにストレージを接続している場合、以下の作業前に該当のオプションから LAN ケーブルを外す等ストレージを認識しないようにする。
- (b). 該当のオプションで LAN のチーミング設定をしている場合、チーミングを解除する。
- (c). 該当のオプションの IP アドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイ/優先 DNS サーバー/代替 DNS サーバーを記録する(下記の赤枠部分)。

- (d). 該当のオプションの IP アドレスを「IP アドレスを自動的に取得する」、DNS アドレスを「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」に設定変更する。
- (e). 増設 CPU ボードをユーザズガイドに従って増設する。
- (f). 該当のオプションに手順 c)で記録した IP アドレス/サブネットマスク/デフォルトゲートウェイ/優先 DNS サーバー/代替 DNS サーバーを設定する。
- (g). LAN のチーミングを再設定する。
- (h). 手順 a)で設定変更したサービスを自動起動するように再設定する。また、該当のオプションにストレージを接続していた場合、LAN ケーブルを再接続しストレージを認識できるようにする。



上記手順で行わなかった場合、固定 IP アドレスが他のデバイスで使用されている等のメッセージが表示されて固定 IP アドレスが設定できないことがあります。その場合、以下のコマンドをコマンドプロンプトで実行して、デバイスマネージャを起動してください。その後、[表示] - [非表示デバイスの表示] をクリックし、ネットワークアダプタツリーを展開し、グレー表示になっている未使用のデバイスを削除してください。

```
>set devmgr_show_nonpresent_devices=1
>Start DEVMGMT.MSC
```

ESMPRO/ServerManager でネットワークを参照した場合、増設 CPU ボードの構成変更後にネットワークカードが重複して表示されます。OS 上で見えないネットワークデバイスの詳細は「Unknown」と表示されますので、無視してください。

● VMware ESXi を使用する場合の注意事項

- ① VMware vSphere の監視 > ハードウェア > センサーにおいて、下記のような Heartbeat Lost センサーの警告表示がなされますが、運用上、問題ありません。

[Device] I/O Module (n) LOM_Link_P(n) : Heartbeat Lost-Assert

[Device] I/O Module (n) NIC_Link_P(n) : Heartbeat Lost-Assert

※n : LAN ポート番号の P1~4 を示します。

- ② < iLO5 ファームウェア : 1.40 以降が適用された環境 >

ESXi 起動完了後、Heartbeat Lost センサーの健全性(vCenter : ステータス)の表示が『警告(黄色)』となる場合、数分お待ちいただくと『警告(黄色)』から『標準(緑)』に遷移しますので、しばらくお待ちください。

- ③ 非冗長 FAN 構成において ESXi 起動完了後、下記のセンサの健全性(vCenter : ステータス)の表示が『警告(黄色)』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。

- Cooling Unit 1 Fans

- ④ ESXi 起動完了後、下記のセンサの健全性(vCenter : ステータス)の表示が『?』となる場合がありますが、ハードウェアの故障を示すものではなく運用に影響ありませんので、そのまま運用いただけます。

- System Chassis 1 UID

● iLO Web インターフェースから [ホスト認証が必要]設定を有効に設定した場合の注意事項

iLO ファームウェアバージョン : 1.43 以降を適用した環境の場合が対象となります。

「セキュリティ > アクセス設定 > iLO」にある [ホスト認証が必要]を『有効』に設定する。

設定を行った場合、次に示す状況が発生します。

- ・アラートビューアに、“Remote Insight/ Integrated Lights-Out 認証されないログイン試行検出”のメッセージが多数表示されます。
- ・Starter Pack(Standard Program Package)を適用するとエラーが発生します。

また、次のサービスや機能をご利用頂けません。

- ・エクスプレス通報サービスにおいてハードウェア障害に関する通報
- ・RAID 通報
- ・サーバー診断カルテのハードウェア診断機能
- ・iLO が収集するハードウェアに関するデバイス情報や設定情報の参照、およびイベントログ採取機能

● Linux OS を使用する場合の注意事項

OS が自動的に認識する LOM やオプション NIC のデバイス名を使用してください。独自 udev ルールを追加する際、PCI アドレスを基準に NIC デバイス名を変更したり、固定したりする設定は行わないでください。また、PCI アドレスを含む/dev/disk/by-path/配下のストレージデバイス名は使用しないでください。

PCI アドレスを基準にしたデバイス名を使った運用が必要な場合は、PCI スロットへのカード増設/抜去、および、CPU 構成変更を行わないでください。PCI バスのアドレス情報が変化し、PCI 接続のデバイス名に影響がでることにより、ネットワークやストレージへのアクセスができなくなり、システムが正常に起動できなくなる場合があります。

● VMware ESXi で TPM キットを使用する場合の注意事項

System ROM のバージョンが v2.00 (02/02/2019)以降、かつ TPM キット(N8115-35)が搭載されている場合

TPM Mode(*1)は「TPM 2.0」にて、VMWare ESXi をご使用ください。

もし、TPM Mode が「TPM 1.2」に設定されている場合、稀に PSOD(Purple Screen of Death)が発生することがあります。

(*1) 出荷時の初期設定は「TPM 2.0」です。

TPM Mode の確認および設定変更は下記メニューより確認してください。

- ・ System Utilities > System Configuration > RBSU > Server Security > Trusted Platform
Module Options > Current TPM Type (設定確認)
 > TPM Mode Switch Operation (設定変更)

6. Windows システムの修復

Windows を動作させるために必要なファイルが破損したときは、次の手順に従って Windows システムを修復してください。



チェック

- 修復後、「インストレーションガイド(Windows 編)」の「デバイスドライバーのセットアップ」および「Standard Program Package の適用」を参照し、各種ドライバーおよび Standard Program Package を適用してください。
- ハードディスクドライブが認識できないときは、Windows システムの修復はできません。

6.1 Windows Server 2019 の修復

何らかの原因で Windows が起動できなくなったときは、OS インストールメディアの機能を使って修復できます。OS インストールメディアから起動し、Windows のセットアップウィザードの「コンピューターを修復する」を選択してください。この方法は、詳しい知識のあるユーザーや管理者のもとで実施してください。

RAID コントローラーのドライバーが必要なときは、次の手順で適用してください。



チェック

オンボードの RAID コントローラーと内蔵の光ディスクドライブをご使用の場合は、リムーバブルメディアからドライバーを読み込みます。

事前に Starter Pack DVD から次のフォルダーをリムーバブルメディアにコピーしてください。

```
<DVD>:\software\006\drivers\sw_raid1_driver
```

1. ディスプレイ、本機の順に電源を ON するか、再起動します。
OS インストールメディアをセットします。
2. POST 時に<F11>キーを押し、Boot Menu を起動します。
[ワнтаイムブートメニュー]で OS インストールメディアをセットした光ディスクドライブを選択します。
3. OS インストールメディアから起動します。
画面上部に「Press any key to boot from CD or DVD...」が表示されます。
メディアからブートさせるため、<Enter>キーを押してください。
ブートが進むと、「Loading files...」のメッセージが現れます。
4. Windows のセットアップウィザードの「コンピューターを修復する」を選択します。
5. [トラブルシューティング]をクリックします。
6. [コマンドプロンプト]をクリックします。

7. Starter Pack DVD をドライブにセットした後、次のコマンドを実行して、ドライバーを読み込みます。

オンボードの RAID コントローラーの場合

```
drvload <DVD>:\$software¥006¥drivers¥sw_raid1_driver¥SmartDQ.inf
```



- オンボードの RAID コントローラーと内蔵の光ディスクドライブをご使用の場合は、リムーバブルメディアからドライバーを読み込んでください。
`drvload <リムーバブルメディア>:\$sw_raid1_driver¥SmartDQ.inf`
- 各ドライブのボリュームラベルは、dir コマンドの表示結果から確認できます。
 例) `dir C:¥`

8. コマンドプロンプトを終了します。

6.2 Windows Server 2016 / Windows Server 2012 R2 の修復

何らかの原因で Windows が起動できなくなったときは、OS インストールメディアの機能を使って修復できます。OS インストールメディアから起動し、Windows のセットアップウィザードの「コンピューターを修復する」を選択してください。この方法は、詳しい知識のあるユーザーや管理者のもとで実施してください。

RAID コントローラーのドライバーが必要なときは、次の手順で適用してください。



チェック

オンボードの RAID コントローラーと内蔵の光ディスクドライブをご使用の場合は、リムーバブルメディアからドライバーを読み込みます。
 事前に Starter Pack DVD から次のフォルダーをリムーバブルメディアにコピーしてください。

```
<DVD>:\$software¥006¥drivers¥sw_raid1_driver
```

1. ディスプレイ、本機の順に電源を ON するか、再起動します。
OS インストールメディアをセットします。
2. POST 時に<F11>キーを押し、Boot Menu を起動します。
[ワнтаイムブートメニュー]で OS インストールメディアをセットした光ディスクドライブを選択します。
3. OS インストールメディアから起動します。
画面上部に「Press any key to boot from CD or DVD...」が表示されます。
メディアからブートさせるため、<Enter>キーを押してください。
ブートが進むと、「Loading files...」のメッセージが現れます。
4. Windows のセットアップウィザードの「コンピューターを修復する」を選択します。
5. [トラブルシューティング]をクリックします。
6. [コマンドプロンプト]をクリックします。

7. Starter Pack DVD をドライブにセットした後、次のコマンドを実行して、ドライバーを読み込みます。

オンボードの RAID コントローラーの場合

```
drvload <DVD>:\software\006\drivers\sw_raid1_driver\SmartDQ.inf
```



オンボードの RAID コントローラーと内蔵の光ディスクドライブをご使用の場合は、リムーバブルメディアからドライバーを読み込んでください。

```
drvload <リムーバブルメディア>:\sw_raid1_driver\SmartDQ.inf
```

RAID コントローラー(N8103-189/190/191/192/193/194/195/201)の場合

```
drvload <DVD>:\software\006\drivers\dac1_driver\SmartPqi.inf
```



各ドライブのボリュームラベルは、dir コマンドの表示結果から確認できます。

例) dir C:\

8. コマンドプロンプトを終了します。

7. リセットとクリア

本機が動作しなくなったとき、またはシステム設定をデフォルト値に戻したいとき、以下を参照してください。

7.1 ソフトリセット

POST の処理が停止して動作しなくなったとき、またはシステムユーティリティ起動中に動作しなくなったとき、<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら<Delete>キーを押してください。メモリに記憶されている処理中のデータをすべてクリアして再起動します。

7.2 強制電源 OFF

以下のような状況で電源が OFF にできなかったとき、本機の POWER スイッチを 4 秒以上押し続けてください。強制的に電源が OFF になります。

- ・ OS からシャットダウンを実行しても、電源が OFF にならない。
- ・ POWER スイッチを押しても、電源が OFF にならない。

POWER スイッチの位置は、本機の「ユーザーズガイド」「1 章(5.2. 前面(フロントベゼルを取り外した状態))」を参照してください。



チェック

再度、電源を ON にするときは、30 秒以上待ってから電源を ON にしてください。

7.3 iLO の再起動（リセット）

前面の UID スイッチを操作することで、iLO の再起動を手動で開始できます。

- ・ UID スイッチを 5 秒間から 9 秒間押し続けることで、安全な iLO 再起動が開始されます。
- ・ UID スイッチを 10 秒以上押し続けることで、ハードウェア iLO 再起動が開始されます。

詳細な内容については、iLO5 ユーザーズガイドを参照してください。



重要

サーバー起動から OS の起動完了までの間(POST(Power On Self Test)実行中も含みます)は、iLO の再起動（リセット）を行わないでください。また、システムユーティリティの操作途中も、iLO の再起動（リセット）を行わないでください。

7.4 システム設定情報の初期化

7.4.1 システムメンテナンススイッチの機能説明

本機のシステムメンテナンススイッチの機能を以下に説明します。

システムメンテナンススイッチの詳細機能一覧

位置	デフォルト	設定	機能
SW1 ^{*1} _{*5}	OFF	OFF	通常は OFF に設定してください。
		ON	iLO5 のセキュリティを無効に設定します。
SW2	OFF	予約	—
SW3	OFF	予約	—
SW4	OFF	予約	—
SW5 ^{*2} _{*5}	OFF	OFF	通常は OFF に設定してください。
		ON	パワーオンパスワードとアドミニストレーターパスワードをクリアします。
SW6 ^{*3} _{*5}	OFF	OFF	通常は OFF に設定してください。
		ON	システム設定をデフォルト値に戻します。*4
SW7	OFF	予約	—
SW8	OFF	予約	—
SW9	OFF	予約	—
SW10	OFF	予約	—
SW11	OFF	予約	—
SW12	OFF	予約	—



「予約」と記載されたシステムメンテナンススイッチは、ドキュメントの指示がある場合を除いて変更しないでください。本機が故障したり、誤動作したりする原因になります。

- *1 SW1は管理者権限の与えられたiLO5の全てのユーザーのパスワードがわからなくなってしまうときや、iLO5の機能を無効から有効に変更するときにONにしてください。
- *2 SW5の操作手順については、本書の「1章(7.4.4 パスワードのクリア)」を参照してください。
- *3 SW6の操作手順については、本書の「1章(7.4.3 システム設定をデフォルト値に戻す)」を参照してください。
- *4 デフォルト値は出荷時設定と異なる場合があります。
- *5 SW1, SW5, SW6を全てONにしたときは、バックアップROMを使用して起動します。

7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順

システムメンテナンススイッチを操作するには、以下の手順に従ってください。

1. システムメンテナンススイッチ：SWx(x はスイッチの番号を表します)の位置を確認します。
2. システムメンテナンススイッチの位置は、以下の R120h-2E、または R120h-1E の図を参照してください。

3. 本機に添付の「ユーザーズガイド」の「2 章(1.2. 取り付け/取り外しの概要)」を参照して、トップカバーを取り外します。
4. オプションボードを搭載しているために、システムメンテナンススイッチの操作ができないときは、「ユーザーズガイド」の「2 章(ライザーカード)」を参照して、ライザーケージを取り外します。
5. 操作したいシステムメンテナンススイッチを、ON または OFF に変更します。



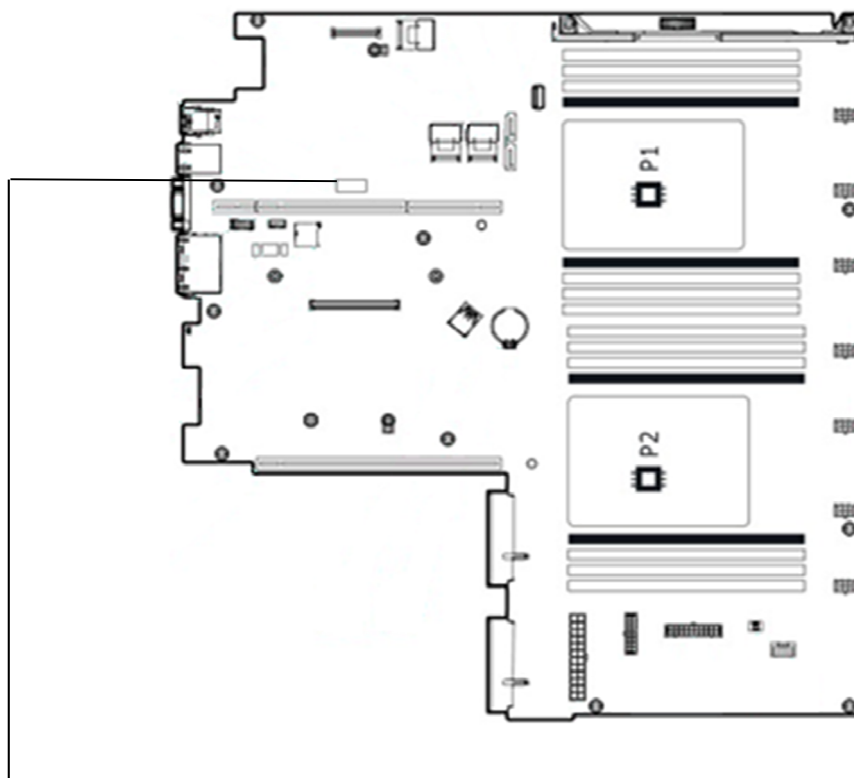
「安全にご利用いただくために」の「1 章(1.8 静電気対策)」を参照し、静電気対策した上で作業してください。



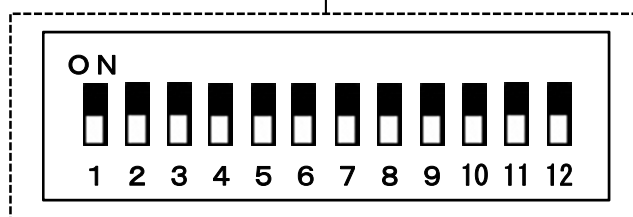
システムメンテナンススイッチの操作は、先の細い楊枝やピンセットなど（ただし先端の鋭利なものは避けてください）で、操作方向に水平に滑らせるように操作してください。また、シャープペンシルで操作しないでください。

6. 取り外した部品を元どおり組み立て、電源コードを接続します。

R120h-2E



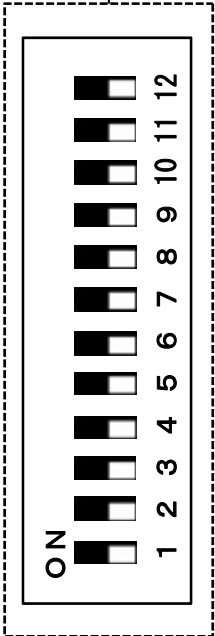
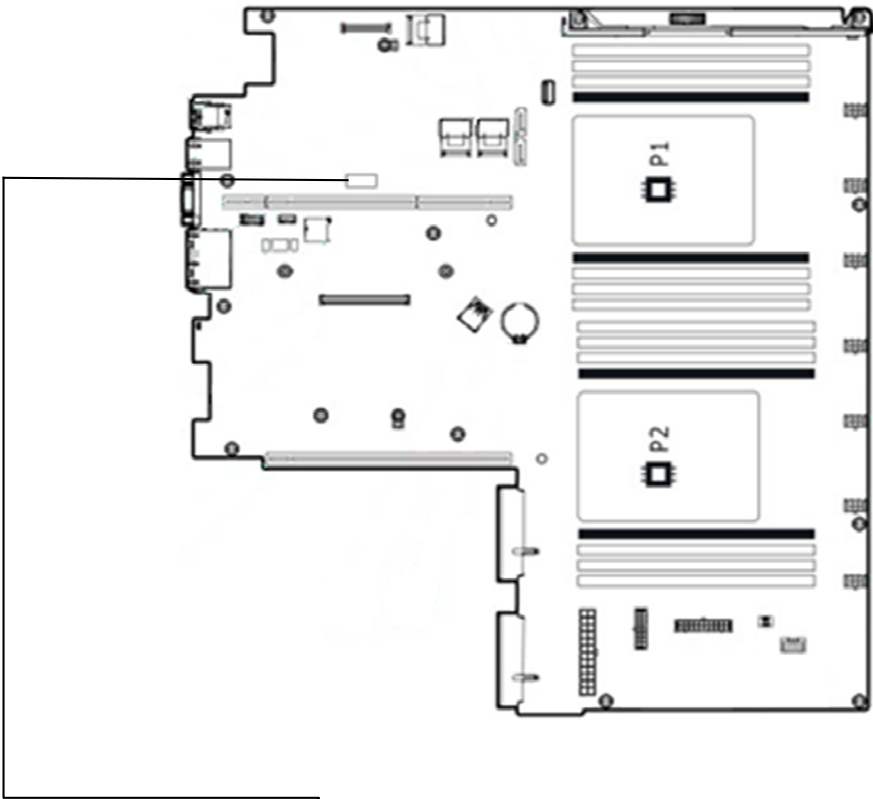
全てのスイッチが OFF(デフォルト値)のとき



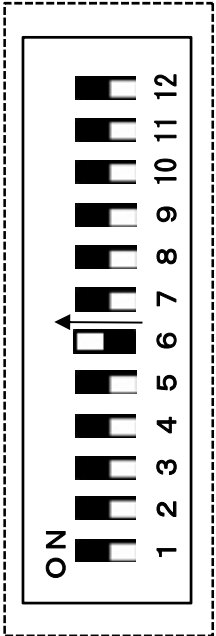
(例)SW6 のみを ON に変更したとき



R120h-1E



全てのスイッチが OFF
(デフォルト値)のとき



(例)SW6 のみを ON に
変更したとき

7.4.3 システム設定をデフォルト値に戻す

万一、システム設定の変更などによって本機が起動しなくなったとき、マザーボード上のシステムメンテナンススイッチ SW6 を操作することで、システム設定を初期化できます。「System Default Options」メニュー内の「Restore Default Manufacturing Settings」と同様の動作をします。詳細については「メンテナンスガイド（共通編）」の「1 章（1. システムユーティリティ）」を参照してください。

システムメンテナンススイッチ SW6 の操作は以下の手順に従ってください。

1. 本書の「1 章(7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順)」に従い、システムメンテナンススイッチ : SW6 を ON に変更します。
2. POWER スイッチを押して電源を ON にします。
3. 約 10 秒後、画面に下記のメッセージが表示されます。
Maintenance switch detected in the On position.
The system is being default configured. This may take a few minutes...
4. 続いて、約 20 秒後、下記のメッセージが表示されます。
Power off the server and toggle the maintenance switch to the Off position.
5. POWER スイッチを 4 秒以上押し続け、強制的に電源を OFF にします。
6. 本書の「1 章(7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順)」に従い、システムメンテナンススイッチ : SW6 を OFF に戻します。
7. POWER スイッチを押して電源を ON にします。
8. POST 中に以下のエラーメッセージが表示されます。
267 – IMPORTANT: Default configuration settings have been restored at the request of the user.
Action: Restore any desired configuration settings which differ from defaults.
9. <F9>キーを押してシステムユーティリティを起動します。
10. [System Default Options]メニューの[Restore Default Manufacturing Settings]を、[Yes, restore the default settings]に設定します。
11. [Question] Do you want to reboot the system? と書かれたダイアログが現れます。
12. [OK] を選択すると、本機が再起動します。



システム設定を初期化した後、本機を起動したとき、POST 中に再起動することがあります。



SW6 を ON にした時は、システム設定をデフォルト値に戻すことができますが、パワーオンパスワードとアドミニストレーターパスワードは対象外です。

7.4.4 パスワードのクリア

システムユーティリティにログインするためのパスワードを忘れてしまったときや、パワーオンパスワードを忘れてしまったときに、システムメンテナンススイッチ SW5 を操作することで、パスワードをクリアできます。

システムメンテナンススイッチ SW5 の操作は以下の手順に従ってください。

1. 本書の「1章(7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順)」に従い、システムメンテナンススイッチ：SW5 を ON に変更します
2. POWER スイッチを押して電源を ON にします。
3. POST 中に<F9>キーを押します。
4. 画面に下記のメッセージが表示され、POST が停止します。

Password override switch detected in the 'ON' position.
Power off the server and turn switch to the 'OFF' position.

5. POST が停止したら、POWER スイッチを押して電源を OFF にします。
6. 本書の「1章(7.4.2 システムメンテナンススイッチの操作手順)」に従い、システムメンテナンススイッチ：SW5 を OFF に戻します。



<F9>キーを押さなかった場合は、メッセージを表示せずに通常通り POST が進みますが、パスワードはクリアされます。その場合、POST 終了まで待ってから電源を OFF してください。

7. POWER スイッチを押して電源を ON にします。

NEC Express5800 シリーズ Express5800/R120h-1E, R120h-2E

2

便利な機能

本製品の便利な機能について説明します。必要に応じて、この章を参照してください。

1. システムユーティリティ

システムの設定方法、パラメーターについて説明しています。

2. RAID システムのコンフィグレーション

本機に組み込まれている RAID コンフィグレーションユーティリティについて説明しています。

3. EXPRESSBUILDER の詳細

本製品に添付の EXPRESSBUILDER について説明しています。

4. Starter Pack の詳細

Starter Pack の詳細について説明しています。

5. iLO 5

iLO 5 について説明しています。

6. ESMPRO

管理、監視用アプリケーションの ESMPRO について説明しています。

7. 装置情報収集ユーティリティ

装置情報収集ユーティリティについて説明しています。

8. Smart Storage Administrator

Smart Storage Administrator について説明しています。

9. エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)

本機の障害情報を自動通報するエクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)について説明しています。

10. エクスプレス通報サービス(MG)

本機の障害情報を自動通報するエクスプレス通報サービス(MG)について説明しています。

1. システムユーティリティ

システムユーティリティはシステム ROM に組み込まれており、システム情報の確認や各種デバイス設定機能の他、起動順序の構成指示、システムの異常を検知するための診断機能、システム障害が発生した際に迅速な解析を可能にするログの採取機能などを提供します。

システムユーティリティのパラメーター一覧、および出荷時の設定については、「メンテナンスガイド（共通編）」の「1 章(1. システムユーティリティ)」を参照してください。

2. RAID システムのコンフィグレーション

RAID の論理ドライブやホットスペアの作成は HPE Smart Array S100i ユーティリティ、または、Smart Storage Administrator (SSA)を使います。HPE Smart Array S100i ユーティリティの使用方法は本章を参照し、SSA の使用方法については、下記のサイトに掲載されている Smart Storage Administrator ユーザーズガイドを参照してください。

<https://www.support.nec.co.jp/>

(「NEC サポート内検索」から、R120h-1E (2nd-Gen)については 3170102321、R120h-2E (2nd-Gen)については 3170102322 をご検索ください。)



- 本章で使用される画面イメージは一例であり、ご使用されるサーバーと同一でない場合があります。
- ファームウェアや BIOS のバージョンによりメニューが変更となる場合があります。各項目の内容は、項目選択時に F1 キーによるヘルプで確認してください。

2.1 HPE Smart Array S100i ユーティリティの起動

HPE Smart Array S100i ユーティリティの起動は、システムユーティリティから行います。

Step1

サーバーの電源を入れ、初期化が始まるのを待ちます。

しばらくして画面の左下に次のメッセージが表示されたとき、<F9>キーを押してください。

F9 System Utilities

POST 終了後に、システムユーティリティ画面が表示されます。

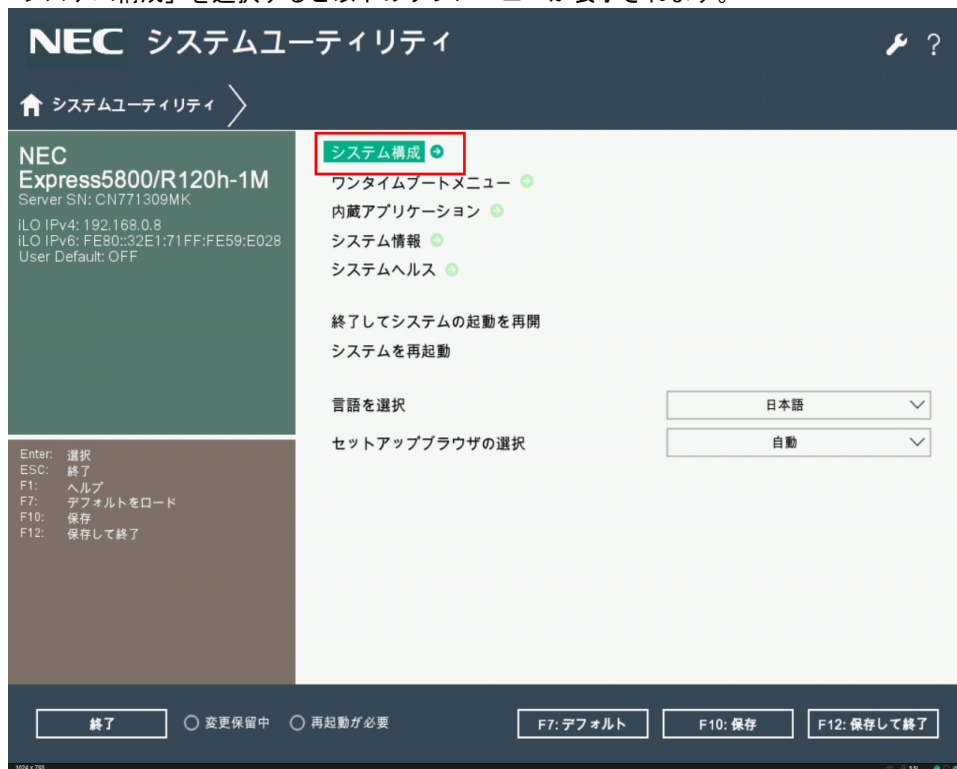


左下の F9 表示が反転黒字に変わったとき、F9 キーが押されたことを表します。F9 キーを押しても黒字にならなかった場合、初期化が終るまでしばらくお待ちください。

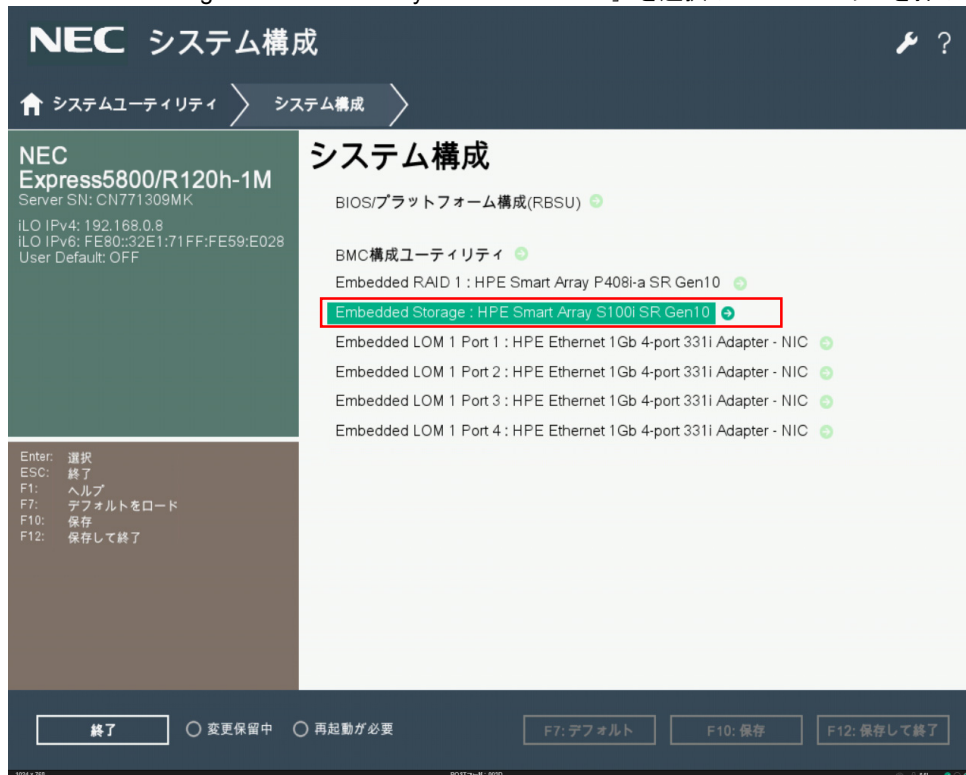
Step2

システムユーティリティメニューが表示されます。

「システム構成」を選択すると以下のサブメニューが表示されます。



「Embedded Storage: HPE Smart Array S100i SR Gen10」を選択して<Enter>キーを押してください。



HPE Smart Array S100i ユーティリティのメニューが表示されます。



2.2 HPE Smart Array S100i ユーティリティの終了

HPE Smart Array S100i ユーティリティを終了するには、<Esc> キーを数回押してシステムコンフィグレーションのメニューまで戻ってください。または、メニュー上部の「システム構成」(下図の赤枠)をクリックしてください。



HPE Smart Array S100i ユーティリティが終了すると、以下のような画面になります。



2.3 HPE Smart Array S100i ユーティリティのメニューツリー

メニュー	既定値	説明
コントローラー情報		
コントローラー	HPE Smart Array S100 SR Gen10	コントローラー情報
デバイスID		PCIeのデバイスID
PCIスロット番号		PCIのスロット番号
ファームウェアバージョン		ファームウェアのバージョン
ファームウェアリリース日		ファームウェアのリリース日
UEFIドライバーバージョン		UEFIドライバーのバージョン
UEFI ドライバーリリース日		UEFIドライバーのリリース日
設定の概要		ディスクやアレイ情報の概要
コントローラー設定の構成		
> コントローラー設定の変更		
再構築の優先順位	高	論理ドライブが障害状態から再構築される優先順位。低、中、やや高い、高のいずれかを指定できます。
表面スキャン分析の優先順位	3	表面スキャン分析の優先順位。0:無効、31:高、1-31:アイドル状態(遅延あり)。表面スキャン分析を再開する前に、コントローラーの遅延/アイドル時間の長さを修正します。
現在の並列表面スキャン数	1	同時に実行可能な表面スキャンの最大数を設定します。設定1は機能を無効にします。
スペアのアクティブ化モード	障害スペアのアクティベーション	障害スペアのアクティブ化モードまたは予測スペアアクティブ化モードに切り替えられるオプション
物理ドライブ書き込みキャッシュ状態	無効	物理ドライブの書き込みキャッシュを有効化または無効化するオプション
> コントローラーの詳細設定		
物理ドライブの要求エレベーターソート	有効	物理ドライブのキャッシュ書き込みエレベーターソートアルゴリズムを有効化または無効化します。
モニターおよびパフォーマンス解析遅延	60	入力範囲:0-1440。デフォルト: 60 モニターおよびパフォーマンス解析遅延を設定します。
HDD フレキシブル遅延最適化	無効	フレキシブル遅延スケジューラーを有効化または無効化し、HDDからの高遅延要求を制限します。

メニュー	既定値	説明
> 構成のクリア		
すべてのアレイ構成の削除		コントローラー内の全てのアレイが削除され、アレイ内のデータが失われます。
すべての物理ドライブこの構成メタデータを削除する		アレイに組み込まれていないドライブのRAID管理情報が削除されます。
アレイ構成		
> アレイの作成		
RAIDレベル		RAIDレベル
論理ドライブラベル		論理ドライブラベルでは英数字のみ使用可能です。
ストリップサイズ/ フルストライプサイズ	256KiB/256KiB	ストリップサイズとは、アレイ内の各物理ドライブに保存されるデータの量です。フルストライプサイズとは、アレイ内のすべてのドライブで、コントローラーが同時に読み書きできるデータの量です。パリティを通じたフォールトトレランスをサポートするRAIDレベルでは、一度に1つのフルストライプサイズに対してパリティ情報が計算されます。
サイズ		10進数の値を入力してください。最小は16MiBです。
ユニットサイズ		論理ドライブのユニットサイズ (MiB/GiB/TiB)
高速化の方法	HPE SSD Smart Path	論理ドライブの高速化の方法です。SSDのみ選択可能です。HDDでは規定値が「なし」となります。

メニュー	既定値	説明
> アレイの管理		
> 論理ドライブのリスト		論理ドライブのリストを表示します。
-論理ドライブの詳細		論理ドライブのプロパティを表示します。
-論理ドライブの編集		論理ドライブのプロパティを編集します。
-論理ドライブの削除		論理ドライブを削除します。
> 論理ドライブの作成		論理ドライブを作成します。
> HPE SSDスマートパス設定		SSDの場合のみ表示されます。HPE SSDスマートパスを設定します。
> スペアドライブの管理		スペアドライブの追加/削除をします。
- 専用スペアの割当		専用スペアとして割り当てられたドライブは、スペアドライブとしてのみ使用されます。
- 自動交換スペアの割当		自動交換スペアとして割り当てられたドライブは、自動的にアレイに組み込まれます。
> デバイスの確認		デバイス識別LEDの点灯/消灯
識別の持続時間(秒)	86400	デバイス識別LEDの持続時間(秒単位)。入力範:1-86400。デフォルト: 86400。
ドライブ構成タイプで識別	データドライブ	デバイス確認を行う対象を選択します。
開始		デバイス識別LEDの点灯開始
終了		デバイス識別LEDの点灯終了
アレイの削除		すべてのアレイの情報を消去します。
ディスクユーティリティ		
> デバイス情報		特定のデバイスに関する情報を提供します。
> デバイスの確認		デバイス識別LEDの点灯/消灯
識別の持続時間(秒)	86400	デバイス識別LEDの持続時間(秒単位)。入力範:1-86400。デフォルト: 86400。
開始		デバイス識別LEDの点灯開始
終了		デバイス識別LEDの点灯終了
終了してSSAを起動します		

2.4 コンフィグレーションユーティリティの操作手順

2.4.1 論理ドライブの作成

1. HPE Smart Array S100i ユーティリティを起動します。
2. HPE Smart Array S100i ユーティリティのメニューから「アレイ構成」を選択します。



3. 「アレイの作成」を選択します。



4. 使用するデバイスを選び、[次のフォームに進む]をクリックします。

5. 以下の画面で、RAID レベルを選択し、[次のフォームに進む]をクリックします。



[RAID5]の選択画面が表示されることがありますが、本機では[RAID5]をサポートしていません。

6. 以下の画面でパラメーターを設定します。設定が終わったら、[変更の送信]をクリックします。

2.4.2 リビルド

- 故障した物理デバイスを交換すると、リビルドが自動的に始まります。
- 以下の画面は、リビルドが進行中(ステータス:再構築中)であることを示しています。



進行状況を確認したい場合は、OS 上から SSA で行います。

2.4.3 ホットスペアの作成

ホットスペアには以下の 2 つの管理モードがあります。

- ・ 専用スペア

専用スペアは、障害が発生した物理デバイスを交換すると、コピーバックが動作します。このため、スペアドライブのロットは変わりません。

- ・ 自動交換スペア

自動交換スペアは、障害が発生した物理デバイスの代わりに対象のアレイに組み込まれます。障害が発生した物理デバイスを交換すると、そのまま自動交換スペアとなり、コピーバックは動作しません。このため、スペアドライブのロットが交換した物理デバイスのロットに変わります。

(1) 専用スペアの作成

1. ホットスペア用の物理デバイスを接続し、サーバーの電源を入れます。
2. HPE Smart Array S100i ユーティリティを起動します。

HPE Smart Array S100i ユーティリティのメニューから「アレイ構成」を選択します。次の画面が表示されます。



3. 「アレイの管理」を選択します



4. 「アレイ A」を選択します(ここでは既に作成済みのアレイが表示されます)。



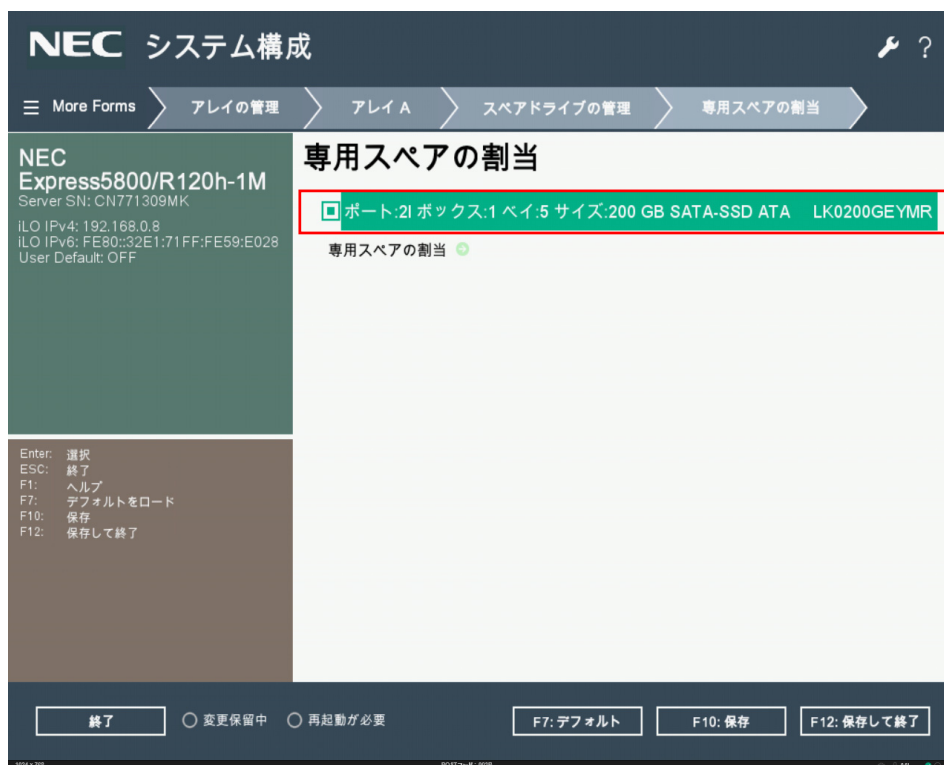
5. 「スペアドライブの管理」を選択します。

The screenshot shows the 'NEC システム構成' (NEC System Configuration) web interface. The breadcrumb trail is: More Forms > HPE Smart Array S100i SR Gen10 > アレイ構成 > アレイの管理 > アレイ A. The left sidebar displays server information for 'NEC Express5800/R120h-1M' (Server SN: CN771309MK) and a list of keyboard shortcuts (Enter: 選択, ESC: 終了, F1: ヘルプ, F7: デフォルトをロード, F10: 保存, F12: 保存して終了). The main content area is titled 'アレイ A' and lists several management options: アレイタイプ, 論理ドライブのリスト, 論理ドライブの作成, HPE SSD Smart Path設定, **スペアドライブの管理** (highlighted with a red box), デバイスの確認, and アレイの削除. At the bottom, there are buttons for '終了', '変更保留中', '再起動が必要', 'F7: デフォルト', 'F10: 保存', and 'F12: 保存して終了'.

6. 「専用スベアの割当」を選択します。

The screenshot shows the same NEC System Configuration web interface, but the breadcrumb trail has advanced to: More Forms > アレイ構成 > アレイの管理 > アレイ A > **スペアドライブの管理**. The left sidebar remains the same. The main content area is titled 'スペアドライブの管理' and lists two options: **専用スベアの割当** (highlighted with a red box) and 自動交換スベアの割当. The bottom navigation bar is identical to the previous screenshot.

7. ホットスペアに設定するディスクを選択します。選択後、「専用スベアの割当」をクリックします。



8. 以下のように、「スベアの追加が成功しました」と表示されれば完了です。



9. 論理ドライブにホットスペアが設定されたことを確認します。

- ①. HPE Smart Array S100i ユーティリティのメニューから「アレイ構成」を選択します。



- ②. 「アレイの管理」を選択します。



- ③. 「アレイ A」を選択します(ここでは既に作成済みのアレイが表示されます)。



- ④. 「論理ドライブのリスト」を選択します。



- ⑤. 「論理ドライブ 1」を選択します。



- ⑥. 「論理ドライブの詳細」を選択します。



- ⑦. 以下のように、論理ドライブのスペアメンバーとして表示されているのを確認します。

NEC システム構成

More Forms > 論理ドライブのリスト > 論理ドライブ 1 (Logical Drive 1) > 論理ドライブの詳細

NEC Express5800/R120h-1M
 Server SN: CN771309MK
 ILO IPv4: 192.168.0.8
 ILO IPv6: FE80::32E1:71FF:FE59:E028
 User Default: OFF

論理ドライブの詳細

ステータス	Ok
サイズ	186.2 GiB(200 GB)
RAIDレベル	RAID1
レガシーディスクの区画設定(C/H/S)	47874/255/32
ストリップサイズ	256 KiB
フルストライプサイズ	256 KiB
論理ドライブラベル	Logical Drive 1
高速化の方法	HPE SSD Smart Path

論理ドライブのメンバー:

ポート:11 ボックス:1 ベイ:3 サイズ:186.3 GiB(200 GB) SATA-SSD ATA	LK0200GEYMR ステータス:Ok
ポート:21 ボックス:1 ベイ:4 サイズ:186.3 GiB(200 GB) SATA-SSD ATA	LK0200GEYMR ステータス:Ok
ポート:21 ボックス:1 ベイ:5 サイズ:186.3 GiB(200 GB) SATA-SSD ATA	LK0200GEYMR ステータス:Ok

Enter: 選択
 ESC: 終了
 F1: ヘルプ
 F7: デフォルトをロード
 F10: 保存
 F12: 保存して終了

終了 変更保留中 再起動が必要 F7: デフォルト F10: 保存 F12: 保存して終了

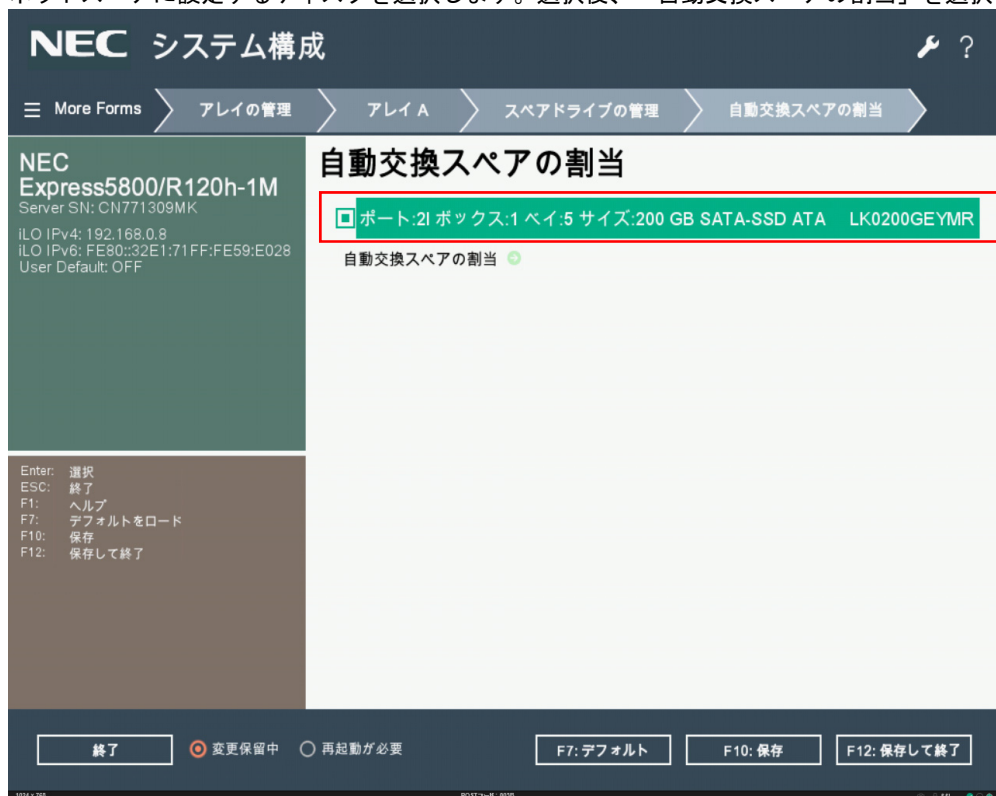
10. HPE Smart Array S100i ユーティリティを終了します。

(2) 自動交換スペアの作成

- 2.4.3 ホットスペアの作成の「(1)専用スペアの作成」に記載されている手順 1 から 5 を実施します。
その後、以下の画面で「自動交換スペアの割当」を選択します。



- ホットスペアに設定するディスクを選択します。選択後、「自動交換スペアの割当」を選択します。



3. 論理ドライブにホットスペアが設定されたことを確認します。2.4.3 ホットスペアの作成の「(1)専用スペアの作成」に記載されている手順9の①から⑦を実施します。
4. HPE Smart Array S100i ユーティリティを終了します。

2.4.4 その他

(1) Clear Configuration

コンフィグレーション情報をクリアします。本操作を行うと論理ディスクが消去され、データにアクセスできなくなりますので注意してください。コンフィグレーション情報をクリアするには HPE Smart Array S100i ユーティリティを起動します。

1. 「コントローラー設定の構成」を選択します。



2. 「構成のクリア」を選択します。



3. 「すべてのアレイ構成の削除」を選択します。



本操作を行うと論理ディスクが消去され、データにアクセスできなくなりますので注意してください。





物理ドライブの RIS 情報をクリアする場合は、「すべての物理ドライブの構成メタデータを削除する」を選択します。

4. 「変更の送信」を選択するとコンフィグレーションがクリアされます。

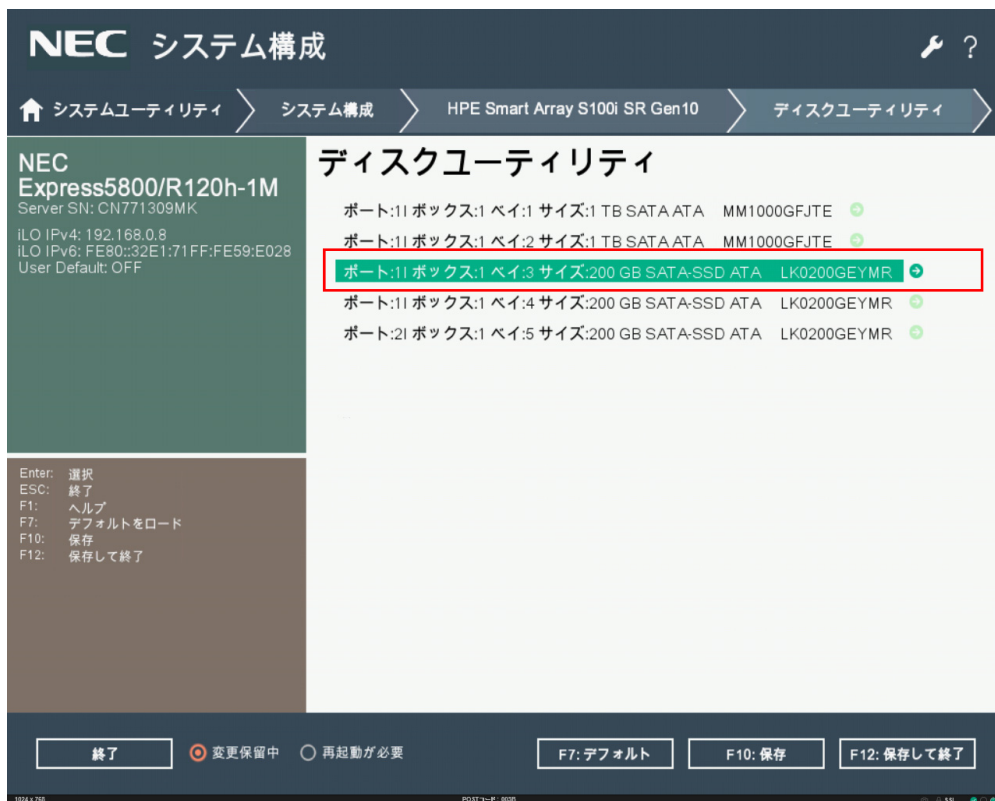
5. 以下のメッセージが表示されるとコンフィグレーションのクリアは完了です。

(2) 物理デバイスの詳細情報

1. 物理ディスクの詳細情報を表示するには「ディスクユーティリティ」を使います。 HPE Smart Array S100i ユーティリティから「ディスクユーティリティ」を選択します。



2. 表示したいデバイスを選択します。



3. 「デバイス情報」を選択します。

The screenshot shows the 'NEC システム構成' (NEC System Configuration) utility. The top bar indicates the current configuration: 'ポート:1I ボックス:1 ベイ:3 サイズ:200 GB SATA-SSD ATA LK0200GEYMR'. The left sidebar shows the 'NEC Express5800/R120h-1M' server details. The main area displays the selected configuration and a red box highlights the 'デバイス情報' (Device Information) button. Below it, a green checkmark indicates 'デバイスの確認' (Device Confirmation). The bottom bar contains buttons for '終了' (Exit), '変更保留中' (Changes Pending), '再起動が必要' (Restart Required), 'F7: デフォルト' (F7: Default), 'F10: 保存' (F10: Save), and 'F12: 保存して終了' (F12: Save and Exit).

4. 選択したデバイスの詳細情報が表示されます。

The screenshot shows the 'NEC システム構成' (NEC System Configuration) utility with the 'デバイス情報' (Device Information) tab selected. The left sidebar shows the server details. The main area displays the detailed information for the selected device, including the device type, model, serial number, port, box, bay, firmware version, logical sector size, physical sector size, size, negotiated link speed, maximum link speed, write cache status, mode, temperature, and array status.

項目	値
デバイスタイプ	SATA-SSD
モデル	ATA LK0200GEYMR
シリアル番号	BTHC645302Y4200TGN
ポート: ボックス: ベイ	1I:1:3
ファームウェアバージョン	4IWITHPG1
論理セクターサイズ	512
物理セクターサイズ	4096
サイズ	186.3 GiB(200 GB)
ネゴシエートされたリンク速度	6.0 Gbps
最大リンク速度	6.0 Gbps
書き込みキャッシュのステータス	無効
モード	RAID
温度	25 C
アレイに関連付け	いいえ

The bottom bar contains buttons for '終了' (Exit), '変更保留中' (Changes Pending), '再起動が必要' (Restart Required), 'F7: デフォルト' (F7: Default), 'F10: 保存' (F10: Save), and 'F12: 保存して終了' (F12: Save and Exit).

3. EXPRESSBUILDER の詳細

EXPRESSBUILDER の詳細につきましては、「メンテナンスガイド (共通編)」の「1 章 (2. EXPRESSBUILDER の詳細)」を参照してください。

4. Starter Pack の詳細

Starter Pack の詳細につきましては、「メンテナンスガイド (共通編)」の「1 章 (3. Starter Pack)」を参照してください。

5. iLO 5

システム管理用 LSI である iLO 5 を使ってさまざまな機能を実現しています。

詳細な iLO 5 の機能については、「iLO 5 ユーザーズガイド」を参照してください。



万一の障害や iLO ファームウェアのアップデートに備え、あらかじめ iLO 5 の設定情報のバックアップを取ってください。
詳細手順につきましては「iLO 5 ユーザーズガイド」を参照してください。

5.1 iLO5 のさまざまな機能

iLO 5 は、次のような制御ができます。

iLOの主な機能	説明
サーバーの状態監視	iLOはサーバー内部の温度を監視して冷却ファンを制御し、適切なサーバーの冷却を行います。さらにインストールされたファームウェアとソフトウェアのバージョン、本機に搭載された冷却ファン、メモリ、ネットワーク、プロセッサ、電源ユニット、ストレージ、デバイスなどのステータスも監視します。
Agentless management	ホストOSではなくiLOファームウェア内でサービスが動作し、ホストOS上のメモリやプロセッサのリソースを使わずに管理できます。すべての重要な内部サブシステムの監視に加えて、iLOは、ホストOSがインストールされていない場合でも、ESMPRO/ServerManagerのような管理ソフトウェアに直接SNMP通報を送信できます。
インテグレートッドマネジメントログ (IML)	サーバーで発生したイベントを表示し、SNMP通報、Emailアラート、およびリモートSyslogでの通知を設定することができます。
Active Health System ログ (AHSログ)	Active Health System ログをダウンロードします。サポートを要する場合は、AHSログファイルをNECに送付、または保守員が採取することがあります。
iLO連携管理	iLO連携機能を使用すると、管理ソフトウェアを利用せずに一度に複数のサーバーを検出および管理することができます。
統合リモートコンソール (IRC)	サーバーとのネットワーク接続があれば、リモートコンソールにより、世界中どこからでも高速、安全にサーバーにアクセスして表示または管理できます。
仮想メディア	リモートから高性能な仮想メディアデバイスをサーバーにマウントできます。
仮想電源制御	リモートから安全に管理対象サーバーの電源状態を制御できます。
デプロイメントとプロビジョニング	デプロイメントとプロビジョニングの自動化を含む多数のタスク用のGUI、CLIから、電源制御や仮想メディアを使用できます。

iLOの主な機能	説明
消費電力と電力設定	サーバーの消費電力を監視し、サポートされているサーバーの消費電力上限を設定します。
ユーザーアカウント	ローカルまたはディレクトリサービスのユーザーアカウントを使用して、iLOにログインできます。
Kerberosサポート	Kerberos認証を設定できます。ログイン画面に[Zeroサインイン]ボタンが追加されます。

別売りのライセンスを適用することで以下のような機能を使うことが可能となります。

項目	オンボード機能	リモートマネージメント拡張ライセンス (Advanced) N8115-33	リモートマネージメント拡張ライセンス (Scale-Out) N8115-34
ディレクトリサービス認証 (Active Directory、LDAP)	×	○	×
Two-Factor 認証 (Kerberos サポート)	×	○	×
統合リモートコンソール経由での仮想メディア	×	○	×
スクリプト方式仮想メディア	×	○	×
統合リモートコンソール (IRC)	Pre-OS only	○	Pre-OS only
最大 6 人のサーバー管理者により IRC 経由でのグローバルチームコラボレーション	×	○	×
IRC 経由でのビデオの録画および再生	×	○	×
仮想シリアルポートの録画および再生	×	○	○
SSH 経由でのテキストベースのリモートコンソール	×	○	○
Email アラート	×	○	○
リモート Syslog	×	○	○
アドバンスド電源管理 (電力グラフ、動的消費電力上限設定) *	×	○	○
iLO 連携管理	×	○	○
iLO 連携検出	○	○	○
リモートシリアルコンソール (仮想シリアルポート)	○	○	○
Server Health Summary	○	○	○
iLO 再起動	○	○	○
Redfish™ API	○	○	○
Agentless Management	○	○	○
サーバーの状態監視	○	○	○
Web ベースの GUI	○	○	○
仮想電源制御	○	○	○
SSH/SMASH CLI (シリアルコンソールリダイレクションを含む)	○	○	○
IPMI/DCMI (シリアルコンソールリダイレクトを含む)	○	○	○

* 本体装置によっては、サポートされていないことがあります。

5.2 NMI 機能

システムがハングしたとき、管理者は NMI によってメモリダンプを実行することができます。

メモリダンプの解析は、OS、デバイスドライバー、およびアプリケーションでのハングやクラッシュなど、信頼性に関わる問題を取り除くために重要です。

クラッシュが多発すると、システムがハングすることがあり、このとき、復旧のために管理者がとれる処置は、システムの電源 OFF/ON(ハードリセット)です。

システムをリセットすると、根本原因の解析をサポートする情報が消去されますが、ハードリセットの前に NMI によるメモリダンプを実行することによって、その情報を守ります。

NMI によるメモリダンプを OS に強制させるために、管理者は iLO バーチャル NMI 機能を使うことができます。

Microsoft® Windows®を実行するシステムでは、OS がクラッシュしたとき STOP エラーが発生します。この場合、Microsoft®社では、システム管理者が NMI イベントを実行することをすすめています。NMI イベントにより、ハングしているシステムは、もう一度応答するようになります。

iLO バーチャル NMI 機能の使い方を説明します。

1. iLO5 左サイドメニューより、[Information] -> [Diagnostics] を開きます。
2. [Non-Maskable Interrupt(NMI) Button]にある、[Generate NMI ro System]ボタンをクリックしてください。

6. ESMPRO

6.1 ESMPRO/ServerAgentService (Windows 版)

ESMPRO/ServerAgentService (Windows 版)の詳細は、Starter Pack 内の「ESMPRO/ServerAgentService インストレーションガイド(Windows 編)」を参照してください。

6.2 ESMPRO/ServerAgentService (Linux 版)

ESMPRO/ServerAgentService (Linux 版)の詳細は、Starter Pack 内の「ESMPRO/ServerAgentService ユーザーズガイド(Linux 編)」を参照してください。

6.3 ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerManager は、本機のハードウェアをリモートから管理、監視することができます。

これらの機能を使うには、本機へ ESMPRO/ServerAgentService など、本機用ソフトウェアをインストールしてください。

ESMPRO/ServerManager のインストーラー、およびマニュアルは、以下の Web サイトからダウンロードできます。

<http://jpn.nec.com/esmsm/download.html>

詳細については、「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」、または ESMPRO/ServerManager のオンラインヘルプを参照してください。

7. 装置情報収集ユーティリティ

「装置情報収集ユーティリティ」は、本機に関するさまざまな情報をまとめて採取するユーティリティです。採取した情報は、保守などの目的で使われます。

7.1 使用方法(Windows 版)

本ユーティリティをインストールしたフォルダー内の¥stdclct¥collect.exe を実行してください。
(デフォルトでは、「C:¥ezclct」フォルダーにインストールします)
stdclct フォルダー内に log フォルダーが作成され、各種情報が圧縮ファイル(zip 形式)で格納されます。



- 管理者(Administrators)権限を持ったアカウントでログインしてください。
- インストール先ドライブの空き容量は 2.5GB 以上必要です。
- Windows Server 2016 または Windows Server 2019 で新規インストールした場合は、システムを再起動してください。Windows Server 2016 または Windows Server 2019 でアップデートした場合は、システムの再起動は不要です。
- 本ツールにて装置情報の収集を行うには、RESTful インターフェースツールのインストールが必要です。インストールされていない場合、保守で必要なログが採取されない可能性があります。

7.2 使用方法(Linux 版)

本ユーティリティをインストールしたディレクトリ内の/stdclct/collectsa.sh を実行してください。
stdclct ディレクトリ内に各種情報が圧縮ファイル(collectsa.tgz)で格納されます。

```
# cd /foo/ezclct/stdclct
# ls
collectsa.sh
# ./collectsa.sh
# ls
collectsa.sh  collectsa.tgz
               ↑ 採取情報圧縮ファイル
```



- 管理者(root)権限を持ったユーザーでログインしてください。
- インストール先パーティションの空き容量は 3.5GB 以上必要です。
- 本ツールにて装置情報の収集を行うには、OpenIPMI ツール／RESTful インターフェースツールのインストールが必要です。インストールされていない場合、保守で必要なログが採取されない可能性があります。

8. Smart Storage Administrator

Smart Storage Administrator は、以下の RAID コントローラーの管理、監視を行うアプリケーションです。

- オンボードの RAID コントローラー
- N8103-189 RAID コントローラ(0GB, RAID 0/1)
- N8103-190 RAID コントローラ(2GB, RAID 0/1/5/6)
- N8103-192 RAID コントローラ(0GB, RAID 0/1)
- N8103-193 RAID コントローラ(2GB, RAID 0/1/5/6)
- N8103-195 RAID コントローラ(0GB, RAID 0/1)
- N8103-201 RAID コントローラ(2GB, RAID 0/1/5/6)
- N8103-196 RAID コントローラ(4GB, RAID 0/1/5/6)

Smart Storage Administrator のインストールについては、「インストレーションガイド(Windows 編)」または「インストレーションガイド(Linux 編)」に記載の「Smart Storage Administrator」を参照してください。

Smart Storage Administrator の操作方法と機能の詳細については、以下のページに掲載している「Smart Storage Administrator ユーザーガイド」を参照してください。

NEC コーポレートサイト(<http://jpn.nec.com/express/>)

(「サポート・ダウンロード」－「カタログ・マニュアル」－「PC サーバ (Express5800 シリーズ)」－「100 シリーズ」 「Express5800/120」のページから購入頂いた型番を選択)

9. エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)の詳細は、Starter Pack 内の「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS) インストレーションガイド (Winodws 編)」を参照してください。

10. エクスプレス通報サービス(MG)

エクスプレス通報サービス(MG)のインストーラー、およびマニュアルは以下の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=9010102124>

エクスプレス通報サービス(MG)の詳細は、「エクスプレス通報サービス(MG) インストレーションガイド (Windows 編)」を参照してください。

NEC Express5800 シリーズ Express5800/R120h-1E, R120h-2E

3

付 録

1. IML エラーメッセージ

Integrated Management Log (IML)に記録されるすべてのエラーメッセージとエラーコードの一覧です。

2. Windows イベントログ一覧

Windows イベントログの一覧です。

3. 電力、温度、プロセッサ利用率のデータへのアクセス方法

本機において、消費電力、吸気温度、および論理プロセッサの使用率を調べる方法について説明しています。

4. 保守サービス会社

保守サービス会社の連絡先などを掲載しています。

5. 用語集

本書の用語集です。

6. 改版履歴

本書の改版履歴です。

1. IML エラーメッセージ

Integrated Management Log (IML)に記録されるすべてのエラーメッセージ、および、対処方法につきましては、「メンテナンスガイド（共通編）」の「2 章（1. IML エラーメッセージ）」を参照してください。

2. Windows イベントログ一覧

OS			
■ ログ			
ID	ソース	種類	メッセージ（説明）
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows OS 共通			
■ システムイベントログ			
1	VDS Basic Provider	エラー	予期しないエラーが発生しました。エラーコード:32@01000004
	USBデバイスを使用する時		システム動作上問題ありません。
51	Cdrom	警告	ページング操作中にデバイス¥Device¥CdRom0上でエラーが検出されました。
	OSインストール時		イベントビューアーに本イベントが登録される場合がありますが、システムに問題ありません。
56	Application Popup	エラー	ドライバ SCIS は、子デバイス (XXXXXX) に無効な ID を返しました。 * 本イベントは以下のように表示される場合がありますが、システム動作上の問題はありません。またIDは環境により異なる場合があります。 "ソース ""Application Popup"" からのイベント ID 56 の説明が見つかりません。このイベントを発生させるコンポーネントがローカル コンピューターにインストールされていないか、インストールが壊れています。ローカル コンピューターにコンポーネントをインストールするか、コンポーネントを修復してください。 イベントが別のコンピューターから発生している場合、イベントと共に表示情報を保存する必要があります。 イベントには次の情報が含まれています: SCSI XXXXXX メッセージ リソースは存在しますが、メッセージが文字列テーブル/ メッセージ テーブルに見つかりません。
	システム起動時		RAIDコントローラー、SASコントローラーが複数枚接続されている環境で本イベントが登録される場合がありますが、システム動作上問題ありません。

129	SmartDQa	警告	デバイス ¥Device¥RaidPort(x) にリセットが発行されました。 (x には任意の数字が入ります)
	システム運用中		高負荷中に本イベントが登録される場合がありますが、本メッセージがログに登録されても、OS でリトライに成功しているため問題はありません。そのままご使用ください。
129	SmartPqi	警告	デバイス ¥Device¥RaidPort(x) にリセットが発行されました。 (x には任意の数字が入ります)
	システム運用中		本メッセージがログに登録されても、OS でリトライに成功しているため問題はありません。そのままご使用ください。
157	Disk	警告	ディスク x が突然取り外されました。
	RAID作成時		Windows上でRAIDを新規作成した場合、本イベントが登録される場合がありますが、システム動作上問題ありません。
7000	Service Control Manager	エラー	QLogic Fibre Channel Service サービスを、次のエラーが原因で開始できませんでした： 指定されたファイルが見つかりません。
	Starter Pack適用時		一時的に記録されるイベントログのため無視して問題ありません。

Windows Server 2019

■ システムログ

4	I2nd	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 530SFP+ Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	I2nd	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 530T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	I2nd	警告	QLogic BCM57810 10 Gigabit Ethernet (NDIS VBD Client) #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
4	I2nd2	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 521T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	I2nd2	警告	HPE Ethernet 10/25Gb 2-port 621SFP28 Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。

4	q57nd60a	警告	HPE Ethernet 1Gb 4-port 331T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	q57nd60a	警告	HPE Ethernet 1Gb 2-port 332T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	b57nd60a	警告	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
9	qefcoe	警告	The SAN link is down for port WWN XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX. Check to make sure the network cable is properly connected. (※)X は数字が入りますが、LAN ボードの接続状況により異なります。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
11	Elxfc	エラー	ドライバーは ¥Device¥RaidPort(x) でコントローラー エラーを検出しました。 (x には任意の数字が入ります)
	Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	e1rexpress	警告	HP Ethernet 1Gb 2-port 361T Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	e1rexpress	警告	HP Ethernet 1Gb 4-port 366T Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	e1rexpress	警告	ソース "e1rexpress" からのイベント ID 27 の説明が見つかりません。 このイベントを発生させるコンポーネントがローカル コンピューターにインストールされていないか、インストールが壊れています。ローカルコンピューターにコンポーネントをインストールするか、コンポーネントを修復してください。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	e1iexpress	警告	Intel(R) I350 Gigabit Network Connection #xx Network link is disconnected.
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
27	ixgbs	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 562T Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	ixgbi	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 562T Adapter #xx Network link is disconnected.
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
27	i40ea	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 562SFP+ Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。

27	i40ea	警告	HPE Ethernet 10Gb 562SFP+ Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 1Gb 2-port 368i Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 1Gb 2-port 368FLR-MMT Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 568FLR-MMSFP+ Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 568FLR-MMT Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40ei65	警告	ソース "i40ei65" からのイベント ID 27 の説明が見つかりません。このイベントを発生させるコンポーネントがローカル コンピューターにインストールされていないか、インストールが壊れています。ローカル コンピューターにコンポーネントをインストールするか、コンポーネントを修復してください。
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
56	qebdrv	警告	NTPNP_PCIxxxx: RDMA has been implicitly disabled due to RDMA interface incompatibility between NDIS Miniport (ver x.xx.xx.x) and VBD (ver x.xx.x.x) drivers. VBD driver upgrade is required. ※ x の値は環境により異なります。
	Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
69	i40eb	警告	HPE Ethernet xGb x-port xxxx Adapter デバイスのドライバーが予期されるバージョンより新しいバージョンの不揮発性メモリ(NVM)イメージを検出しました。ネットワーク・ドライバーの最新バージョンをインストールしてください。 ※x の値は環境により異なります。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
69	i40ei65	警告	ソース "i40ei65" からのイベント ID 69 の説明が見つかりません。このイベントを発生させるコンポーネントがローカル コンピューターにインストールされていないか、インストールが壊れています。ローカル コンピューターにコンポーネントをインストールするか、コンポーネントを修復してください。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
129	SmartDQa	警告	デバイス ¥Device¥RaidPort(x) にリセットが発行されました。 (x には任意の数字が入ります)
	システム運用中		高負荷中に本イベントが登録される場合がありますが、本メッセージがログに登録されても、OS でリトライに成功しているため問題はありません。そのままご使用ください。
129	SmartPqi	警告	デバイス ¥Device¥RaidPort(x) にリセットが発行されました。 (x には任意の数字が入ります)
	システム運用中		本メッセージがログに登録されても、OS でリトライに成功しているため問題はありません。そのままご使用ください。

134	Microsoft-Windows-Time-Service	警告	time.windows.com,0x8' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイム ソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。15 分後に再試行し、それ以降は 2 倍の間隔で再試行します。エラー: そのようなホストは不明です。(0x80072AF9)
	システム運用中		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
157	Disk	警告	ディスク x が突然取り外されました。
	RAID 作成時		Windows 上で RAID を新規作成した場合、本イベントが登録される場合がありますが、システム動作上問題ありません。
225	Kernel-PnP	警告	プロセス ID XXX のアプリケーション YYY がデバイス ZZZ の取り外しまたは取り出しを停止しました。 * ZZZ は対象のデバイス インスタンス 名 YYY はデバイスを使用していたプロセス名 XXX はデバイスを使用していたプロセス ID が入ります。
	Standard Program Package 適用中		システム運用上問題ありません。
7023	Service Control Manager	エラー	xxxxxxx サービスは、次のエラーで終了しました:デバイスの準備ができていません。
	OS 初回起動時		継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
7023	Service Control Manager	エラー	Spooler サービスは、次のエラーで終了しました: メモリ不足です
	OS インストール中		以下の条件で発生する場合は問題ありません。 1. OS インストール中 1 度のみ発生し、継続して登録されない。 2. OS サインイン後、サービスが正常に起動している。
7030	Service Control Manager	エラー	Printer Extensions and Notifications サービスは、対話型サービスとしてマークされています。しかし、システムは対話型サービスを許可しないように構成されています。このサービスは正常に機能しない可能性があります。
	OS 初回起動時		継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
10010	Microsoft-Windows-DistributedCOM	エラー	サーバー{XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX}は、必要なタイムアウト期間内に DCOM に登録しませんでした。
	システム運用中		システム運用上、問題はありません。
10149	Microsoft-Windows-WinRM	警告	WinRM サービスは、WS-Management 要求をリッスンしていません。
	OS 再起動時		WinRM イベント 10148 (WinRM サービスは、WS-Management 要求をリッスンしています。) が直後に出力された場合は、無視しても問題ありません。

■ アプリケーションログ

1015	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	HRESULT の詳細情報。返された hr=0xC004F022、元の hr=0x*****
	OS再起動時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていなければ問題ありません。
3007	EvntAgnt	警告	イベント ログ ファイル Parameters を開くときにエラーが発生しました。ログは処理されません。 OpenEventLog からのリターン コードは 87 です。
	SNMPを有効にした時		再起動ごとに登録されますが、無視して問題ありません。

3007	EvtntAgnt	警告	イベント ログ ファイル State を開くときにエラーが発生しました。ログは処理されません。 OpenEventLog からのリターン コードは 87 です。
	SNMPを有効にした時		再起動ごとに登録されますが、無視して問題ありません。
8198	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	ライセンス認証 (slui.exe) が失敗しました。エラーコード:hr=0x***** コマンドライン引数: RuleId=*****
	OS再起動時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていなければ問題ありません。

■ アプリケーションとサービスログ

1	Microsoft-Windows-SMBWitnessClient	エラー	監視クライアントの初期化がエラー (指定されたファイルが見つかりません。) で失敗しました
	OSインストール中		OS インストール時に一度だけ発生する場合はシステムへの影響はありません。
69	Microsoft-Windows-AppModel-Runtime	エラー	ユーザー ***** のパッケージ ***** の AppModel Runtime 状態を変更しているときに 0x490 で失敗しました(現在の状態 = 0x0、目的の状態 = 0x20)。
	OS初回起動時		継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
200	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Update サービスへの接続を確立できませんでした。
	システム運用中		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
201	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Metadata and Internet Services (WMIS) への接続を確立できませんでした。
	システム運用中		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
202	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	ネットワークリソースマネージャーは、インターネットに接続していないことをレポートしています。
	システム運用中		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
215	AppReadiness	エラー	<ユーザー> の 'ART:UserFirstLogon' が失敗しました。エラー: '削除の対象としてマークされているレジストリ キーに対して無効な操作を実行しようとしてしました。' (0 秒)
	OSインストール中		継続して登録されなければ問題ありません。
360	Microsoft-Windows-User Device Registration	警告	Windows Hello for Business provisioning will not be launched. Device is AAD joined (AADJ or DJ++): Not Tested User has logged on with AAD credentials: No Windows Hello for Business policy is enabled: Not Tested Windows Hello for Business post-logon provisioning is enabled: Not Tested Local computer meets Windows hello for business hardware requirements: Not Tested User is not connected to the machine via Remote Desktop: Yes User certificate for on premise auth policy is enabled: Not Tested Machine is governed by none policy.
	OS再起動時		Microsoft Azure AD に登録していない環境下で発生する場合は問題ありません。

Windows Server 2016

■ システムログ

4	l2nd	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 530SFP+ Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	l2nd	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 530T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	l2nd	警告	QLogic BCM57810 10 Gigabit Ethernet (NDIS VBD Client) #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
4	l2nd2	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 521T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	l2nd2	警告	HPE Ethernet 10/25Gb 2-port 621SFP28 Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	q57nd60a	警告	HPE Ethernet 1Gb 4-port 331T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	q57nd60a	警告	HPE Ethernet 1Gb 2-port 332T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	b57nd60a	警告	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
9	qefcoe	警告	The SAN link is down for port WWN XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX. Check to make sure the network cable is properly connected. (※)X は数字が入りますが、LAN ボードの接続状況により異なります。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	e1repress	警告	HP Ethernet 1Gb 2-port 361T Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	e1repress	警告	HP Ethernet 1Gb 4-port 366T Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。

27	e1iexpress	警告	Intel(R) I350 Gigabit Network Connection #xx Network link is disconnected.
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
27	ixgbs	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 562T Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	ixgbi	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 562T Adapter #xx Network link is disconnected.
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
27	i40ea	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 562SFP+ Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40ea	警告	HPE Ethernet 10Gb 562SFP+ Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 1Gb 2-port 368i Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 1Gb 2-port 368FLR-MMT Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 568FLR-MMSFP+ Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 568FLR-MMT Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40ei	警告	ソース "i40ei" からのイベント ID 27 の説明が見つかりません。このイベントを発生させるコンポーネントがローカル コンピューターにインストールされていないか、インストールが壊れています。ローカル コンピューターにコンポーネントをインストールするか、コンポーネントを修復してください。
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
56	qebdrv	警告	NTPNP_PCIxxxx: RDMA has been implicitly disabled due to RDMA interface incompatibility between NDIS Miniport (ver x.xx.xx.x) and VBD (ver x.xx.x.x) drivers. VBD driver upgrade is required. ※ x の値は環境により異なります。
	Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。

69	i40eb	警告	HPE Ethernet xGb x-port xxxx Adapter デバイスのドライバが予期されるバージョンより新しいバージョンの不揮発性メモリ(NVM)イメージを検出しました。ネットワーク・ドライバの最新バージョンをインストールしてください。 ※x の値は環境により異なります。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
219	Microsoft-Windows-Kernel-PnP	警告	デバイス xxxxxxxxxxxxxxxx のドライバ¥Driver¥WudfRd を読み込めませんでした。
	OS 起動時、disk 接続時		OS 起動時や disk を接続するなどした際に、タイミングにより記録されますが、システム動作上問題ありません。
225	Kernel-PnP	警告	プロセス ID XXX のアプリケーション YYY がデバイス ZZZ の取り外しまたは取り出しを停止しました。 * ZZZ は対象のデバイス インスタンス 名 YYY はデバイスを使用していたプロセス名 XXX はデバイスを使用していたプロセス ID が入ります。
	Standard Program Package 適用時		Standard Program Package 適用中に登録される場合は、システム運用上問題ありません。
4113	Display	警告	ディスプレイ ドライバ MxG2hDO64 が応答を停止し、正常に無効化されました。 日付 : 20XX/XX/XX XX:XX
	システム運用中		この状態となった場合、解像度の変更はできない状態となりますが、それ以外の機能は正常に動作します。 復旧には、再起動が必要ですが、同様の事象を繰り返す場合は、Matrox GA ドライバを無効にしての運用をしてください。
7023	Service Control Manager	エラー	xxxxxxx サービスは、次のエラーで終了しました:デバイスの準備ができていません。
	OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
7023	Service Control Manager	エラー	Data Sharing Service サービスは、次のエラーで終了しました %%3239247874 * 次のようにメッセージが正しく表示されない場合がありますが、問題ありません。 ソース " Service Control Manager " からのイベント ID 7023 の説明が見つかりません。 このイベントを発生させるコンポーネントがローカル コンピューターにインストールされていないか、インストールが壊れています。 ローカル コンピューターにコンポーネントをインストールするか、コンポーネントを修復してください。 イベントが別のコンピューターから発生している場合、イベントと共に表示情報を保存する必要があります。 イベントには次の情報が含まれています: Data Sharing Service %%3239247874 必要なメッセージのローカル固有のリソースが存在しません。
	OS 初回起動時、再起動のタイミングなど		システム動作上問題ありません。 詳細については次の Web サイトを参照してください。 https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4011803

7030	Service Control Manager	エラー	Printer Extensions and Notifications サービスは、対話型サービスとしてマークされています。しかし、システムは対話型サービスを許可しないように構成されています。このサービスは正常に機能しない可能性があります。
	OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
10010	Microsoft-Windows-DistributedCOM	エラー	サーバー {XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX} は、必要なタイムアウト期間内に DCOM に登録ませんでした。
	OS 初回起動時、再起動のタイミングなど		詳細は、次の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/956479/ja
10317	Microsoft-Windows-NDIS	エラー	ミニポート Microsoft Network Adapter Multiplexor Driver、{xxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxxx}、イベント PNP デバイスがまだ存在しているにもかかわらず、ネットワーク インターフェイスが削除されました。このイベントは通知の目的で提供されており、必ずしもエラーではない可能性があります (例: vSwitch が最近アンインストールされた場合や、LBFO チームが削除された場合) がありました
	チームを削除した時		システム運用上問題ありません。

■ アプリケーションログ

1014	Microsoft-Windows-Security-SPP	警告	エンド ユーザー ライセンスを取得できませんでした。hr=0x80072EE7
	OS 初回起動時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていなければ問題ありません。
1015	Microsoft-Windows-Security-SPP	警告	HRESULT の詳細情報。返された hr=0xC004F022、元の hr=0x80049E00
	OS 初回起動時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていなければ問題ありません。
1534	Microsoft-Windows-User Profiles Service	警告	"コンポーネント {2c86c843-77ae-4284-9722-27d65366543c} のイベント Create のプロファイル通知は失敗しました。エラー コードは 実装されていません です。"
	OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
8198	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	ライセンス認証 (slui.exe) が失敗しました。エラーコード:hr=0x***** コマンドライン引数: RuleId=*****
	OS 初回起動時、再起動時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていなければ問題ありません。
8200	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	ライセンス取得の失敗に関する詳細。 hr=0x80072EE7
	OS 初回起動時、再起動時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていなければ問題ありません。

■ アプリケーションとサービスログ

69	Microsoft-Windows-AppModel-Runtime	エラー	ユーザー ***** のパッケージ ***** の AppModel Runtime 状態を変更しているときに 0x490 で失敗しました(現在の状態 = 0x0、目的の状態 = 0x20)。
	OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
134	Microsoft-Windows-Time-Service	警告	'time.windows.com,0x8' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイム ソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。15 分後に再試行し、それ以降は 2 倍の間隔で再試行します。
	OS 初回起動時、再起動時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
200	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Update サービスへの接続を確立できませんでした。
	OS 初回起動時、再起動時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
201	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Metadata and Internet Services (WMIS) への接続を確立できませんでした。
	OS 初回起動時、再起動時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
202	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	ネットワーク リスト マネージャーは、インターネットに接続していないことをレポートしています。
	OS 初回起動時、再起動時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
506	Microsoft-Windows-DeviceManagement-Pushrouter	エラー	DmWapPushService: SMS ルーターで受信した WAP メッセージの EventAggregator に WNF を登録できませんでした。結果: (0xC002000B)。
	OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。

Windows Server 2012 R2

■ システムログ

4	l2nd	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 530SFP+ Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	l2nd	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 530T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	l2nd	警告	Broadcom BCM57810 #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
4	l2nd2	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 521T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	l2nd2	警告	HPE Ethernet 10/25Gb 2-port 621SFP28 Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	q57nd60a	警告	HPE Ethernet 1Gb 4-port 331T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	q57nd60a	警告	HPE Ethernet 1Gb 2-port 332T Adapter #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
4	b57nd60a	警告	Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #xx: The network link is down. Check to make sure the network cable is properly connected.
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。
9	qefcoe	警告	The SAN link is down for port WWN XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX. Check to make sure the network cable is properly connected. (※)X は数字が入りますが、LAN ボードの接続状況により異なります。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	e1repress	警告	HP Ethernet 1Gb 2-port 361T Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	e1repress	警告	HP Ethernet 1Gb 4-port 366T Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	e1iexpress	警告	Intel(R) I350 Gigabit Network Connection #xx Network link is disconnected.
	OS インストール時		システム動作上問題ありません。

27	ixgbs	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 562T Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40ea	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 562SFP+ Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40ea	警告	HPE Ethernet 10Gb 562SFP+ Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 1Gb 2-port 368i Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 1Gb 2-port 368FLR-MMT Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 568FLR-MMSFP+ Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
27	i40eb	警告	HPE Ethernet 10Gb 2-port 568FLR-MMT Adapter #xx ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
46	volmgr	エラー	クラッシュ ダンプを初期化できませんでした。
	OS インストール時		詳細については次の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/2756313
56	qebdrv	警告	NTPNP_PCIxxxx: RDMA has been implicitly disabled due to RDMA interface incompatibility between NDIS Miniport (ver x.xx.xx.x) and VBD (ver x.xx.x.x) drivers. VBD driver upgrade is required. ※ x の値は環境により異なります。
	Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
69	i40eb	警告	HPE Ethernet xGb x-port xxxx Adapter デバイスのドライバーが予期されるバージョンより新しいバージョンの不揮発性メモリ(NVM)イメージを検出しました。ネットワーク・ドライバーの最新バージョンをインストールしてください。 ※x の値は環境により異なります。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		システム動作上問題ありません。
134	Microsoft-Windows-Time-Service	警告	'time.windows.com,0x9' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイムソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。 15 分後に再試行し、それ以降は 2 倍の間隔で再試行します。
	OS インストール時、システム起動時、 Standard Program Package 適用時		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。

1500	SNMP	エラー	レジストリ キー SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥SNMP¥Parameters¥TrapConfi guration をアクセスしているときに SNMP サービスはエラーを検出 しました。
	OSインストール時		SNMP 有効時にのみ登録され、継続して同じイベントログが登録されな ければ問題ありません。 詳細については次の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/2002303/
7023	Service Control Manager	エラー	Network List Service サービスは、次のエラーで終了しました: デバイスの準備ができていません。
	OSインストール時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録 されていなければ、問題ありません。
7023	Service Control Manager	エラー	IP Helper サービスは、次のエラーで終了しました: 指定されたサービスは無効であるか、または有効なデバイスが関連付け られていないため、開始できません。
	OSインストール時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録 されていなければ、問題ありません。
7023	Service Control Manager	エラー	WMI Performance Adapter サービスは、次のエラーで終了しました: エラーを特定できません。
	OS起動時、OS終了時		システムに影響ありませんので無視してください。
7030	Service Control Manager	エラー	Printer Extensions and Notifications サービスは、対話型サービスとし てマークされています。しかし、システムは対話型サービスを許可しな いように構成されています。このサービスは正常に機能しない可能性が あります。
	OSインストール時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録 されていなければ、問題ありません。
10010	Microsoft-Windows- DistributedCOM	エラー	サーバー {XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX} は、必要 なタイムアウト期間内に DCOM に登録しませんでした。
	OSインストール時		詳細は、次の Web サイトを参照してください。 http://support.microsoft.com/kb/956479/ja
10016	Microsoft-Windows- DistributedCOM	エラー	アプリケーション固有のアクセス許可の設定では、CLSID {D63B10C5-BB46-4990-A94F-E40B9D520160} および APPID {9CA88EE3-ACB7-47C8-AFC4-AB702511C276} の COM サーバーア プリケーションに対するローカルアクティブ化のアクセス許可を、アプリケー ションコンテナ利用不可 SID (利用不可) で実行中のアドレス LocalHost (LRPC 使用) のユーザー NT AUTHORITY SYSTEM SID (S-1-5-18) に 与えることはできません。このセキュリティアクセス許可は、コンポーネント サービス管理ツールを使って変更できます。
	OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されてい なければ、問題ありません。
10149	Microsoft-Windows- WinRM	警告	WinRM サービスは、WS-Management 要求をリッスンしていません。
	OSインストール時		ID 7036 "Service Control Manager(Windows Remote Management (WS- Management)サービスは停止状態に移行しました。)"と対になっている ときは、システム運用上問題ありません。 また、イベントが対になっていない場合に加え、WinRM イベント 10148 (WinRM サービスは、WS-Management 要求をリッスンしています。) が直後に出力されたときも、問題ありません。

■ アプリケーションログ

24	Microsoft-Windows-WMI	エラー	イベント プロバイダー MLNXProvider が、名前空間 <code>\\.\root\standardcimv2\mlnx</code> の対象クラス <code>""MLNX_NetAdapterStatusEvent""</code> が存在しないクエリ <code>""select * from MLNX_NetAdapterStatusEvent""</code> を登録しようとしました。クエリは無視されます。 ※表示が多少異なる場合があります。
	Standard Program Package適用時		InfiniBand 接続ボードを使用している環境で記録されるイベントです。システム動作上問題ありません。
1014	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	エンド ユーザー ライセンスを取得できませんでした。 hr=0x80072EE7
	OSインストール時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていないければ、問題ありません。
1015	Microsoft-Windows-Security-SPP	警告	HRESULT の詳細情報。 返された hr=0xC004F022、元の hr=0x80049E00
	OSインストール時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていないければ、問題ありません。
1058	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	購入の証明を ACPI テーブルからインストールできませんでした。エラー コード: 0xC004F057
	OSインストール時		システム運用上問題ありません。
1534	Microsoft-Windows-User Profiles Service	警告	コンポーネント {2c86c843-77ae-4284-9722-27d65366543c} のイベント Create のプロファイル通知は失敗しました。エラー コードは 実装されていません です。
	OSインストール時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていないければ、問題ありません。
8198	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	ライセンス認証 (slui.exe) が失敗しました。 エラー コード:hr=0xC004F063
	OSインストール時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていないければ問題ありません。
8200	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	ライセンス取得の失敗に関する詳細。 hr=0x80072EE7
	OSインストール時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていないければ問題ありません。

■ アプリケーションとサービスログ

2	Microsoft-Windows-Kernel-EventTracing	エラー	次のエラーのため、セッション "" を開始できませんでした: 0xC000000D
	システム運用中		コンピューターの管理画面を表示したタイミングで登録されていれば、問題ありません。
104	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	エラー	DSM サービスを開始できませんでした。結果=0x800706B5
	OSインストール時		OS インストール時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていないければ、問題ありません。
200	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Update サービスへの接続を確立できませんでした。
	システム運用中		インターネット接続後に登録されていないければ、システム運用上問題ありません。

201	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Metadata and Internet Services (WMIS) への接続を確立できませんでした。
	システム運用中		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
202	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	ネットワーク リスト マネージャーは、インターネットに接続していないことをレポートしています。
	システム運用中		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。
215	Microsoft-Windows-AppReadiness	エラー	Administrator の 'ART:ResolveStoreCategories' が失敗しました。 エラー: 'クラスが登録されていません' (0.0469065 秒)
	OSインストール時		OS インストール後の初回サインイン時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
1001	Microsoft-Windows-Dhcp-Client	エラー	ネットワークアドレスが<MAC アドレス>のネットワークカードに対するアドレスをネットワーク(DHCP サーバー)からこのコンピューターに割り当てることができませんでした。 次のエラーが発生しました: 0x79。 ネットワークアドレス(DHCP)サーバーから引き続き、アドレスの取得を試みます。
	OSインストール時、 Standard Program Package適用時		継続して発生していなければシステム運用上問題ありません。

3. 電力、温度、プロセッサ利用率のデータへのアクセス方法

ENERGY STAR プログラムに適合するための要件に基づき、Express サーバにおいて、通常動作時におけるワット単位による入力消費電力、吸気温度、および、すべての論理プロセッサの使用率に関するデータへアクセスする方法を以下に記載します。

3.1 Windows

以下に示す例は、Windows Server 2016 で実行できることを確認しています。

3.1.1 消費電力

Baseboard Management Controller (BMC)に対して Intelligent Platform Management Interface (IPMI)経由で以下のコマンドを実行して消費電力を取得します。

Network Function Code : 2Ch (Group Extension)

Command Code : 02h (Get Power Reading)

Request Data : 000001DCh

以下に Visual Basic スクリプト(Power.vbs とします)を使用した例を示します。

```
' Start Script
Option Explicit

' Prepare for IPMI Driver
Dim osv, oclass
Dim oinstance, oipmi
set osv = getobject("winmgmts:root\wmi")
set oclass = osv.get("microsoft_ipmi")
for each oinstance in osv.instancesof("microsoft_ipmi")
    set oipmi = oinstance
next

'Format the IPMI command request
Dim oinparams
set oinparams = oclass.methods_("requestresponse").inparameters
oinparams.networkfunction = &h2c
oinparams.lun = 0
oinparams.responderaddress = &h20
oinparams.command = &h02
oinparams.requestdata = array (&hdc, &h01, &h00, &h00)
oinparams.requestdatasize = 4

'call the driver
Dim outparams
set outparams = oipmi.execmethod_("requestresponse",oinparams)

WScript.Echo " Completion Code = 0x" & hex(outparams.Completioncode)
If outparams.Completioncode <> 0 Then
    WScript.Echo " Not supported"
Else
    WScript.Echo " Data LS Byte = 0x" & hex(outparams.ResponseData(2))
    WScript.Echo " Data MS Byte = 0x" & hex(outparams.ResponseData(3))
    WScript.Echo " Power Consumption = " & outparams.ResponseData(3)*256 + _
        outparams.ResponseData(2) & " watts"
End If
' End Script
```

● 実行例

```
C:\VBS> cscript //nologo Power.vbs
```

● 実行結果例

```
Completion Code = 0x0
Power Consumption = 306 watts
```

この場合の消費電力は 306 ワットになります。



電源構成によっては消費電力を取得できないことがあります。
その場合は、Completion Code は 0xC1 または 0xCB になります。

3.1.2 吸気温度

BMC に対して IPMI に準拠した以下の標準コマンドを実行することにより、Sensor Data Record (SDR)情報から温度センサーを検索し、吸気温度を取得します。

- Get SDR Repository Info
- Reserve SDR Repository
- Get SDR
- Get Sensor Reading

以下に Visual Basic スクリプト(Sensor.vbs とします)を使用した例を示します。

```
'Start Script
Option Explicit

' Prepare for MS IPMI Driver
Dim osv, oclass
Dim oinstance, oipmi
set osv = getobject("winmgmts:root\wmi")
set oclass = osv.get("microsoft_ipmi")
for each oinstance in osv.instancesof("microsoft_ipmi")
    set oipmi = oinstance
next

' (Get SDR Repository Info)
Dim oinparams
set oinparams = oclass.methods_("requestresponse").inparameters
' (Get SDR Repository Info)
oinparams.networkfunction = &h1
oinparams.lun = 0
oinparams.responderaddress = &h20
oinparams.command = &h20
oinparams.requestdatasize = 0
' Fire IPMI Command
Dim outparams
Dim i, RecordCount
set outparams = oipmi.execmethod_("requestresponse",oinparams)
RecordCount = outparams.ResponseData(3)*256 + outparams.ResponseData(2)

' (Reserve SDR Repository)
oinparams.networkfunction = &h1
oinparams.lun = 0
oinparams.responderaddress = &h20
oinparams.command = &h22
oinparams.requestdatasize = 0
Dim Reserve_LS, Reserve_MS
set outparams = oipmi.execmethod_("requestresponse",oinparams)
Reserve_LS = outparams.ResponseData(1)
Reserve_MS = outparams.ResponseData(2)

' (Get SDR) for each record
Dim Record_LS,Record_MS, Offset, Length
Dim cnt, sensorNum, sensorType
' First Record
Record_LS = 0
Record_MS = 0
For cnt = 0 to RecordCount-1
    Offset = 0
    Length = 9
    oinparams.networkfunction = &h1
```

```

oinparams.Lun = 0
oinparams.responderaddress = &h20
oinparams.command = &h23
oinparams.requestdata = array(Reserve_LS, Reserve_MS, Record_LS, Record_MS, Offset, Length)
oinparams.requestdatasize = 6
set outparams = oipmi.execmethod("requestresponse",oinparams)
If outparams.Completioncode = 0 Then
    If outparams.ResponseData(6) = 1 Then ' Full Sensor Record
        call GetSensorType(Reserve_LS, Reserve_MS, Record_LS, Record_MS, sensorType)
        If sensorType = 1 Then ' Temperature
            WScript.Echo "=====
            call GetIDString(Reserve_LS, Reserve_MS, Record_LS, Record_MS)
            WScript.Echo " Sensor Type = Temperature"
            sensorNum = outparams.ResponseData(10)
            call GetSensor(Reserve_LS, Reserve_MS, Record_LS, Record_MS,sensorNum)
        End If
    End If
    Record_LS = outparams.ResponseData(1)
    Record_MS = outparams.ResponseData(2)
    If Record_LS = &hff And Record_MS = &hff Then
        exit For
    End If
End If
Next

Sub GetSensorType(rv_ls, rv_ms, rc_ls, rc_ms, sensorType)
    Dim outtmp
    oinparams.networkfunction = &ha
    oinparams.Lun = 0
    oinparams.responderaddress = &h20
    oinparams.command = &h23
    oinparams.requestdata = array(rv_ls, rv_ms, rc_ls, rc_ms, 12, 2)
    oinparams.requestdatasize = 6
    set outtmp = oipmi.execmethod("requestresponse",oinparams)
    sensorType = outtmp.ResponseData(3)
End Sub

Sub GetSensor(rv_ls, rv_ms, rc_ls, rc_ms, sensorNum)
    Dim outtmp, units1, units2, sensortype
    oinparams.networkfunction = &ha
    oinparams.Lun = 0
    oinparams.responderaddress = &h20
    oinparams.command = &h23
    oinparams.requestdata = array(rv_ls, rv_ms, rc_ls, rc_ms, 20, 14)
    oinparams.requestdatasize = 6
    set outtmp = oipmi.execmethod("requestresponse",oinparams)

    units1 = outtmp.ResponseData(3)
    Select Case outtmp.ResponseData(4)
        case 0: units2 = "unspecified"
        case 1: units2 = "degrees C"
        case 6: units2 = "Watts"
        case else: units2 = "Refer to IPMI Specification: Type=0x _
                        & hex(outtmp.ResponseData(4))
    End Select

    ' (Get Sendor Reading)
    Dim sensorData, rawData, currentValue
    oinparams.networkfunction = &h4
    oinparams.Lun = 0
    oinparams.responderaddress = &h20
    oinparams.command = &h2d
    oinparams.requestdata = array(sensorNum)
    oinparams.requestdatasize = 1
    set sensorData = oipmi.execmethod("requestresponse",oinparams)
    If sensorData.Completioncode <> 0 Then
        'WScript.Echo " Sensor Not Available"
        exit Sub
    End If
    rawData = sensorData.ResponseData(1)
    If units1 and &h40 Then
        If rawData And &h80 Then
            rawData = rawData Xor &hff
        End If
    ElseIf units1 and &h80 Then
        call get2complement(rawData, rawData, 8)
    End If
    If (sensorData.ResponseData(2) And &h80) = 0 Or _
        (sensorData.ResponseData(2) And &h40) = 0 Or _
        (sensorData.ResponseData(2) And &h20) Then
        WScript.Echo " Event Status: Unavailable"
    Else
        'WScript.Echo " Event Status: ok"
        Dim M,B,k1,k2
        Dim ret
        M = (outtmp.ResponseData(8) And &hc0) * 4 + outtmp.ResponseData(7)
        B = (outtmp.ResponseData(10) And &hc0) * 4 + outtmp.ResponseData(9)
        call get2complement(M, M, 10)
        call get2complement(B, B, 10)
    End If
End Sub

```

```

        call get2complement(outtmp.ResponseData(12) And &h0f, k1, 4)
        call get2complement((outtmp.ResponseData(12) And &hf0)/16, k2, 4)
        currentValue = Cdbl ((M * rawData) + (B * (10 ^ k1))) * (10 ^ k2))
        WScript.Echo " Current Value = " & currentValue & " " & units2
    End If
End Sub

Sub get2complement(raw, rv, bit)
    Select Case bit
        case 4:
            If raw And &h8 Then
                rv = 0 - ((&h10 - raw) and &h0f)
            Else
                rv = raw
            End If
        case 8:
            If raw And &h80 Then
                rv = 0 - ((&h100 - raw) and &h0ff)
            Else
                rv = raw
            End If
        case 10:
            If raw And &h200 Then
                rv = 0 - ((&h400 - raw) and &h3ff)
            Else
                rv = raw
            End If
    End Select
End Sub

Sub GetIDString(rv_ls, rv_ms, rc_ls, rc_ms)
    Dim tmpMessage
    Dim outsdridstringtype
    oinparams.networkfunction = &ha
    oinparams.lun = 0
    oinparams.responderaddress = &h20
    oinparams.command = &h23
    oinparams.requestdata = array(rv_ls, rv_ms, rc_ls, rc_ms, 47, 1)
    oinparams.requestdatasize = 6
    set outsdridstringtype = oipmi.execmethod("requestresponse",oinparams)

    Dim outsdridstring
    Dim idlength, j
    idlength = outsdridstringtype.ResponseData(3) and 31
    oinparams.networkfunction = &ha
    oinparams.lun = 0
    oinparams.responderaddress = &h20
    oinparams.command = &h23
    oinparams.requestdata = array(rv_ls, rv_ms, rc_ls, rc_ms, 48, idlength)
    oinparams.requestdatasize = 6
    set outsdridstring = oipmi.execmethod("requestresponse",oinparams)
    tmpMessage = " ID String = "
    For j = 3 to idlength + 2
        tmpMessage = tmpMessage & Chr(outsdridstring.ResponseData(j))
    Next
    WScript.Echo tmpMessage
End Sub
'End Script

```

● 実行例

```
C:\VBS> cscript //nologo Sensor.vbs
```

● 実行結果例

```

=====
ID String = Baseboard Temp4
Sensor Type = Temperature
Current Value = 45 degrees C
=====
ID String = FntPnl Amb Temp
Sensor Type = Temperature
Current Value = 27 degrees C
=====
ID String = CPU1_DIMM1 Temp
Sensor Type = Temperature
Current Value = 35 degrees C
=====
ID String = CPU1_DIMM2 Temp
Sensor Type = Temperature
Event Status: Unavailable
=====

```

吸気温度は、ID String に「Amb」、「Ambient」または「Front Panel」の文字列を含むセンサーから取得します。

上記例では、「FntPnl Amb Temp」のセンサーが該当します。

上記実行例の場合、吸気温度は 27 度(摂氏)になります。

3.1.3 プロセッサ使用率

すべての論理プロセッサの使用率は、Windows OS が標準提供する

Win32_PerfFormattedData_PerfOS_Processor クラスを使用して取得します。以下に Visual Basic スクリプト (Proc.vbs とします)を使用した例を示します。本スクリプトでは、30 秒ごとにプロセッサ使用率を出力します。

```
' Start Script
strComputer = "."
Set objWMIService = GetObject("winmgmts:" _
    & "<impersonationLevel=impersonate>!¥¥" & strComputer & "¥root¥cimv2")
set objRefresher = CreateObject("WbemScripting.Swbemrefresher")
Set objProcessor = objRefresher.AddEnum _
    (objWMIService, "Win32_PerfFormattedData_PerfOS_Processor").objectSet
objRefresher.Refresh
Dim first
first = true
Do
    For each intProcessorUse in objProcessor
        If first Then
            If intProcessorUse.Name = "_Total" Then
                first = false
            End If
        else
            Wscript.Echo "Proc" & intProcessorUse.Name & " : " & _
                "PercentProcessorTime=" & _
                intProcessorUse.PercentProcessorTime
        End If
    Next
    Wscript.Sleep 30*1000 'sleep 30 * 1000ms
    objRefresher.Refresh
Loop
' End Script
```

● 実行例

```
C:¥VBS> cscript //nologo Proc.vbs
```

● 実行結果例

```
Proc0 : PercentProcessorTime=0
Proc1 : PercentProcessorTime=0
Proc2 : PercentProcessorTime=0
Proc3 : PercentProcessorTime=0
Proc4 : PercentProcessorTime=76
Proc5 : PercentProcessorTime=0
Proc6 : PercentProcessorTime=0
Proc7 : PercentProcessorTime=0
Proc_Total : PercentProcessorTime=9
```

Proc0ー7 は各プロセッサの使用率、Proc_Total はプロセッサ全体の使用率を示します。

3.2 Linux

以下に示す例は、Red Hat Enterprise Linux 7 で実行できることを確認しています。

3.2.1 消費電力

BMC に対して IPMI 経由で以下のコマンドを実行することにより、消費電力を取得します。

Network Function Code : 2Ch (Group Extension)

Command Code : 02h (Get Power Reading)

Request Data : 000001DCh

以下の例では、オープンソースソフトウェアである OpenIPMI ドライバー、および IPMITool を使用しています。Red Hat Enterprise Linux 7 の場合、OpenIPMI ドライバーは Inbox ドライバーに含まれています。IPMITool は、OpenIPMI-tools-[version].rpm に含まれています。

● 実行例

```
# ipmitool raw 0x2c 0x02 0xdc 0x01 0x00 0x00
```

● 実行結果例

```
dc 32 01 00 00 4d 01 7f 00 80 0e 33 4e 70 b2 72 01 40
```

出力された値の 2 バイト(16 ビット)から消費電力が得られます。

3 番目の値 0x01 [15:8]

2 番目の値 0x32 [7:0]

上記実行例の場合、消費電力 = 0x0132(16 進数)= 306(10 進数)ワットになります。



電源構成によっては消費電力を取得できないことがあります。

その場合は、以下のようなメッセージが表示されます。

```
Unable to send RAW command (channel=0x0 netfn=0x2c lun=0x0 cmd=0x2 rsp=0xc1): Invalid Command
```

または

```
Unable to send RAW command (channel=0x0 netfn=0x2c lun=0x0 cmd=0x2 rsp=0xcb): Requested sensor, data, or record not found
```

3.2.2 吸気温度

BMC に対して IPMI の標準コマンドを実行することにより、吸気温度を取得します。

以下の例では、オープンソースソフトウェアである OpenIPMI ドライバー、および IPMITool を使用しています。Red Hat Enterprise Linux 7 の場合、OpenIPMI ドライバーは Inbox ドライバーに含まれています。

IPMITool は、OpenIPMI-tools-[version].rpm に含まれています。

● 実行例

```
# ipmitool sdr type Temperature
```

● 実行結果例

```
Baseboard Temp4 | 31h | ok | 45 degrees C
FntPnl Amb Temp | 35h | ok | 27 degrees C
CPU1_DIMM1 Temp | 40h | ok | 48 degrees C
CPU1_DIMM2 Temp | 41h | ok | 46 degrees C
CPU1_DIMM3 Temp | 42h | ok | 49 degrees C
CPU1_DIMM4 Temp | 43h | ns | No Reading
CPU1_DIMM5 Temp | 44h | ns | No Reading
CPU1_DIMM6 Temp | 45h | ns | No Reading
P1 Therm Ctrl % | A0h | ok | 0 unspecified
```

上記出力は、順に以下の状態を表しています。

1 列目: センサー名

2 列目: センサーナンバー

3 列目: センサーの正常/異常

「ok」はセンサーの状態が警告または危険を示す閾値に達していないことを示します。

4 列目: センサー監視位置情報

5 列目: センサーの現在値

吸気温度を表すセンサーは、センサー名に「Amb」、「Ambient」、または「Fnt Pnl Temp」の文字列を含んでいます。

上記の実行結果例の場合は「FntPnl Amb Temp」が該当し、吸気温度は 27 度(摂氏)になります。

3.2.3 プロセッサ使用率

すべての論理プロセッサの使用率は、Linux ディストリビューションに含まれている mpstat コマンドを使用して取得します。

Red Hat Enterprise Linux 7 の場合、sysstat-[version].rpm に含まれています。

● 実行例

```
# mpstat -P ALL
```

● 実行結果例

```
Linux 2.6.18-164.el5 (localhost.localdomain) 11/17/09
```

	CPU	%user	%nice	%sys	%iowait	%irq	%soft	%steal	%idle	intr/s
17:59:30	all	1.23	0.04	0.42	2.69	0.03	0.10	0.00	95.49	1086.42
17:59:30	0	0.42	0.00	0.58	0.76	0.00	0.00	0.00	98.24	666.34
17:59:30	1	0.41	0.00	0.29	1.09	0.00	0.00	0.00	98.21	0.00
17:59:30	2	2.17	0.00	0.33	2.30	0.00	0.00	0.00	95.21	0.00
17:59:30	3	1.85	0.08	0.68	8.55	0.00	0.60	0.00	88.24	379.87
17:59:30	4	0.87	0.00	0.19	0.42	0.00	0.00	0.00	98.53	0.00
17:59:30	5	2.42	0.01	0.35	1.31	0.08	0.00	0.00	95.83	6.63
17:59:30	6	0.30	0.01	0.17	1.39	0.00	0.00	0.00	98.13	0.02
17:59:30	7	1.36	0.20	0.74	5.72	0.12	0.20	0.00	91.66	33.54

プロセッサの使用率は、100%から「%idle」の値を引いた値になります。

4. 保守サービス会社

Express5800 シリーズ、および関連製品のアフターサービスは、お買い上げの弊社販売店、最寄りの弊社、または NEC フィールディング株式会社までお問い合わせください。

NEC フィールディングのサービス拠点は、次の web サイトに記載しています。

<http://www.fielding.co.jp/>

弊社販売店のサービス網については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

トラブルなどのご連絡は、下記の電話番号へおかけください(かけ間違いにご注意ください)。
保守契約している装置のトラブルは、契約時にお知らせした専用の電話番号(年中無休 24 時間受付)まで連絡してください。

【IT 機器の修理窓口】

修理受付センター(全国共通) 0120-536-111 (フリーダイヤル)

携帯電話をご利用のお客様 0570-064-211 (通話料お客様負担)

(受付時間 : AM9:00~PM5:00 土曜日、日曜日、祝祭日を除く)

5. 用語集

項番	用語	解説
1	AHS	Active Health System (AHS)は、サーバーの状態や構成を監視し、変化があったときにログとして記録します。AHSログは、保守の場面ですばやく障害の原因を判断するために利用されます。
2	AMP	Advanced Memory Protection (AMP)は、搭載メモリに対してミラーリング等の制御をすることにより、強固な耐障害性を実現する技術です。
3	AMS	Agentless Management Service (AMS)は、OS上で動作し、iLOが直接収集できないOSイベントなどの情報をiLOへ送信するサービスです。iLOは、このサービスを通じて取得した情報をAHSログとして記録し、Agentless Managementへ展開します。
4	ESMPRO/ServerAgentService	ESMPRO/ServerManagerと連携し、本機の監視、および各種情報を取得するためのソフトウェアです。インストール時に、OSのサービスとして常駐させる(サービスモード)か、OSのサービスなし(非サービスモード)で動作させるか決めることができます(プリインストール時はサービスモードでインストールします)。非サービスモードで動作させると、CPU、メモリなどのリソースを削減できます。
5	ESMPRO/ServerManager	ネットワーク上の複数のサーバーの管理、監視を行うソフトウェアです。
6	EXPRESSBUILDER	本機をセットアップする機能を持つソフトウェアです。本機内に格納され、POST時にF10キーを押して起動します。
7	iLO	標準インターフェース仕様のIPMI2.0に準拠してハードウェアを監視するコントローラーです。本機には標準でマザーボード上に組み込まれています。本機で採用しているコントローラーは第5世代のため、iLO5と呼ばれます。
8	RAID Report Service	RAIDの状態を監視し、障害等の発生を通知するサービスです。
9	RBSU	ROM-Based Setup Utility (RBSU)は、本機内に格納され、デバイスの構成、BIOSの設定などを実施します。RBSUはシステムユーティリティから呼び出します。
10	RESTfulインターフェース ツール	Representational State Transfer (REST) アーキテクチャーに基づき設計されたAPIを実装したツールです。本ツールをインストールすると、JSON形式で記述した保守用コマンドをHTTPプロトコルでiLOへ送信できます。
11	SID	System Insight Display (SID)は、LED表示によりマザーボード内の各種デバイスの状態を示すオプション製品です。
12	SPP	Standard Program Package (SPP)は、BIOS/FW、およびOSドライバーなどを含む基本的なFW/SWをまとめたパッケージです。SPPは、Starter Packに含まれます。
13	SSA	Smart Storage Administrator (SSA)は、ディスクアレイコントローラーを設定してRAIDを構築するユーティリティです。WindowsまたはLinux上にインストールして使用するほか、本機に組み込まれたEXPRESSBUILDERから起動できます。
14	Starter Pack	SPP、管理用アプリケーション、および電子マニュアルを含むソフトウェアパッケージです。Starter Packはオプション製品として購入、またはWebからダウンロードし、Windows/Linux OS上で使用します。
15	TPMキット	セキュリティーコントローラーを本機に増設するためのオプション製品です。
16	エクスプレス通報サービス	電子メールなどを使い、本機が故障したときの情報(または予防保守情報)を保守センターに通報するソフトウェアです。 ESMPRO/ServerAgentServiceとともに本機にインストールします。

項番	用語	解説
17	エクスプレス通報サービス (HTTPS)	HTTPS経由で、本機が故障したときの情報(または予防保守情報)を保守センターに通報するソフトウェアです。ESMPRO/ServerAgentServiceとともに本機にインストールします。
18	管理PC	ネットワーク上から本機にアクセスし、本機を管理するためのコンピューターです。WindowsまたはLinuxがインストールされた一般的なコンピューターを管理PCにすることができます。
19	システムメンテナンススイッチ	本機マザーボード上のDIPスイッチで、保守の場面において、初期化、パスワード、iLOセキュリティなどの機能をオンオフするときに使用します。
20	システムROM	システムROMは、本機内に格納されます。システムROMには、本機の起動や設定に必要なBIOS、POST、システムユーティリティなどが組み込まれています。
21	システムユーティリティ	システムユーティリティは、本機内に格納され、システム情報の確認、RBSUの呼出し、およびログの採取機能などを提供します。システムユーティリティはPOST時にF9キーを押すと起動します。
22	装置情報収集ユーティリティ	本機の各種情報を収集するためのソフトウェアです。保守に必要な情報をまとめて採取できます。
23	ヘキサロビュラ	ヘクスローブ、またはトルクス(「トルクス」は他社商標です)とも呼ばれるネジ規格です。サイズは小さい順から、T1からT100まで決められ、サイズに合わない工具を使うとネジを傷める可能性があります。6lobeと略することもあります。

6. 改版履歴

ドキュメント番号	発行年月	改版内容
10.202.12-004.01	2019年9月	新規作成

NEC Express サーバ

Express5800/R120h-1E, R120h-2E
(2nd-Gen)
N8100-2779Y/2780Y/2781Y/2782Y
メンテナンスガイド

2019 年 9 月

日 本 電 気 株 式 会 社

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号

TEL (03) 3454-1111 (大代表)

落丁、乱丁はお取り替えいたします

© NEC Corporation 2019

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。